



名城大学要覧

Guide to
Meijo University

2025

立学の精神

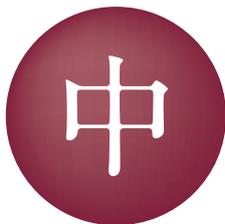
穏健中正で実行力に富み、 国家、社会の信頼に値する人材を育成する



平和であたたかく、
穏やかであること。



秩序と調和と
確実さをもって、
支障なく、
力強く前進すること。



謙虚にもごとの
核心をつかみ、
包容力ある
立場にあること。



ものごとに、折り目、
けじめをつけ、
順逆をわきまえて
筋を通すこと。

■ 大学名の由来

戦後の教育改革で昭和22年に学制が改正され、本学園は名古屋専門学校から新制大学へ移行することとなり、大学名を名城大学と決定しました。その経緯は、世間で「尾張名古屋は城でもつ」といわれるように、名古屋城こと名城は名古屋のシンボルであり、光り輝く金のシャチをいただくお城のようにいつまでも輝く大学でありたいとの願いから創立者の田中壽一氏を中心に合議のうえ、名城大学と命名されたと言われています。
(名城大学75年史から抜粋)

■ 名城大学学歌

河合 逸治 作詞 | 信時 潔 作曲

1 番

朝日に匂う鈴鹿嶺
希望に燃ゆる若人が
学理の泉汲むところ
次代を築く榮えになう
名城・名城自由の学府
おゝ名城

2 番

力と技を競いつつ
正しき理想花と咲く
その意気天を衝くところ
獅子の王座は我にあり
名城・名城自由の学府
おゝ名城

3 番

歴史に尚き名城の
文化の精華享け継ぎて
真理の道を践むところ
健児の行手光あり
名城・名城自由の学府
おゝ名城

※学歌は大学ウェブサイトで見ることができます。

■ 名城大学ロゴマーク

本学では、入学式・卒業式を始めとする各式典や、大学全体行事、クラブ活動における大会の応援等において、主に次のロゴマークを使用しています。

名城大学

名 城 大 学

▶ 名城大学(指定文字)

「大学の顔として品格と特徴のある文字をシンボルに」と、1962年に大学協議会で制定。

▶ 校章

新制大学発足時(1949年)から校旗等に採用され、卒業式、入学式等の公式行事に使用。



▶ 鯨のエンブレム

「金の鯨鯨のようにいつまでも光り輝く大学でありたい」と、名城大学の象徴として創設以来使われてきた鯨の図柄を、1993年に意匠化し大学協議会で制定。

▶ マスコット(ライオン)

名城大学学歌2番の「獅子の王座は我にあり」から引用し、名城大学体育会等の学生団体がシンボルとして使用していた図柄を、1993年に統一デザインとして大学協議会で制定。

▶ マスコット(鯨)

文化・学術系課外活動団体のマスコットとして本を持つ鯨をデザインし、1993年に大学協議会で制定。

Contents

立学の精神	1
本学のビジョン	3
大学のあゆみ	5
組織機構図	6
教職員数	8
学生数	9

教育方針	11
学部紹介	13
大学院紹介	15
教職課程・学芸員課程	17
進路・就職支援体制	18
就職実績	21
国際交流	23
産官学連携	25
学術研究	27
教育活動	35

学費・奨学金	41
クラブ活動	44
キャンパスと設備	45
附属図書館	50
愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科	51
附属高等学校	52
校友会	53
交通案内	54

本学のビジョン

本法人は、1926年開設の名古屋高等理工科講習所を源流とし、歴史と伝統に輝く中部地区屈指の教育機関として、これまでに21万人を超える卒業生を輩出してまいりました。

また本法人の立学の精神である「**穏健中正**で実行力に富み、**国家、社会の信頼に値する人材を育成する**」のもと、「**実学**」を重視した教育・研究を展開しています。その結果、本学の卒業生について産業界の皆様から、「**実務処理能力に秀れており、困難に直面しても屈しない**」と高い評価をいただいております。

今日の社会は、グローバル化、少子高齢化、ロボットやAI（人工知能）の台頭、そして産業・就業構造の変容が進んで

います。その結果、これまでの常識が通用せず、将来の予測がますます困難な時代を迎えています。このような時代には、どのような困難に直面してもくじけず、「**先見性、多様性、専門性を身に着けた実行力・実現力**」のある人材が必要不可欠であります。

名城大学および名城大学附属高等学校は、社会からの期待に応え、新たな時代を担う人材を育成するために、創設以来の歴史と伝統を受け継ぎ、さらなる成長を目指してまいります。今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人名城大学 理事長 立花 貞司

大阪府出身。京都大学法学部卒業。トヨタ自動車工業株式会社（現 トヨタ自動車株式会社）入社、取締役などを歴任後、トヨタホーム株式会社取締役社長に就任（兼任）。その後、トヨタ自動車株式会社専務取締役、トヨタホーム株式会社取締役会長、ミサワホーム株式会社取締役会長、名古屋商工会議所副会頭、愛知県公安委員会委員、愛知県私立大学協会会長などを歴任。名古屋市経営アドバイザーを現任。2017年7月から本法人理事を務め、18年7月に理事長就任。13年国土交通大臣表彰、15年藍綬褒章。

■ 学校法人名城大学の基本戦略

MS-26

本学では、2015年度から、開学100周年にあたる2026年为目标年とする戦略プラン「Meijo Strategy-2026」【通称:MS-26】を推進しています。

2026年は、本法人の礎となる「名古屋高等理工科講習所」の開設から100年という節目の年になります。

MS-26に掲げるビジョンは、本学の志であり、学生・生徒が卒業・修了後に本学を卒業・修了して良かったと思える大学・高等学校づくりをめざします。

■ 共有する価値観 (VALUE)

生涯学びを楽しむ

Enjoy Learning for Life

「生涯学びを楽しむ」という言葉は、すべての学生・生徒が本学の教育によって「**学ぶ楽しさ**」に気づき、卒業・修了後も、それぞれの多彩なコミュニティの中で、さまざまな人や文化と出会い、人生を楽しみながら生涯学び続けてほしいという願いを込めました。また、教職員に対しても、「**学ぶ楽しさ**」「**教える楽しさ**」「**仕事の楽しさ**」を実感し、有意義な日々を送ってほしいというメッセージが込められています。

教育機関である私たちの使命は、イノベーションの源泉となる卓越した研究を推進し、社会課題の解決や新たな価値創造に貢献するとともに、その成果に基づいた質の高い教育を提供し、未来を担う人材を育成することにあります。

現代社会は、少子高齢化や地球温暖化、資源の枯渇、国家・民族間の紛争など、さまざまな困難に直面しています。これらの問題の多くは、価値観の変化や、規模と効率性を重視した経済発展の副産物でもあります。豊かさを追求しつつ、これらの諸課題を解決するには、従来の枠にとらわれない創造的なアプローチが不可欠です。このような状況のもと、大学には専門分野の枠を超え、分野横断的な知見を統合的に活用し、多様なバックグラウンドを持つ人々と協働できる能力を持つ人材を育成するための教育機会を提供することが求められています。

2026年、本学の創立者である田中壽一先生が名古屋高等理工科講習所を開設してから100年の節目を迎えます。幾多の困難を乗り越え、この歴史を刻んできた本学は、開学100周年以降のビジョンとして「中部から世界へ、創造型実学の名城大学」を掲げました。創造型実学とは、一言で言えば、課題解決の中心となり、アイデア創出に貢献し、さらにそれを形にする力を養う学問です。本学は、この創造型実学を軸とした教育機会を提供し続けることで、常に未来を志向し、社会に必要とされる総合大学であり続けるため、教職員一同、一丸となって邁進してまいります。

皆様におかれましては、本学の教育・研究活動にご理解とご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



名城大学 学長 野口 光宣

メソジスト大学(米国)を数学主専攻で卒業後、デューク大学大学院(米国)に進学。数学研究科修士課程、同博士課程を修了し、Ph.D.の学位を取得。エコノメトリック・ソサエティ、数理経済学会等にも幅広く参与。1993年より本学商学部で教鞭をとり、2013年経済学部長、大学院経済学研究科長、2015年から副学長・理事を歴任、2025年4月学長就任。

OUR VISION (2026年までに達成したいあるべき姿)

名城大学

多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

名城大学附属高等学校

「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

OUR MISSION (私たちが果たすべき使命)

名城大学

教育ミッション：主体的に学び続ける「実行力ある教養人」を育てる
 研究ミッション：「学問の探究と理論の応用」を通して、成果を教育と社会に還元する
 社会貢献ミッション：社会との「人的交流」を通して、地域の活性化に貢献する

名城大学附属高等学校

教育ミッション：「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成する
 社会貢献ミッション：「人的交流」や「学習活動」を通して、社会的責任を果たす

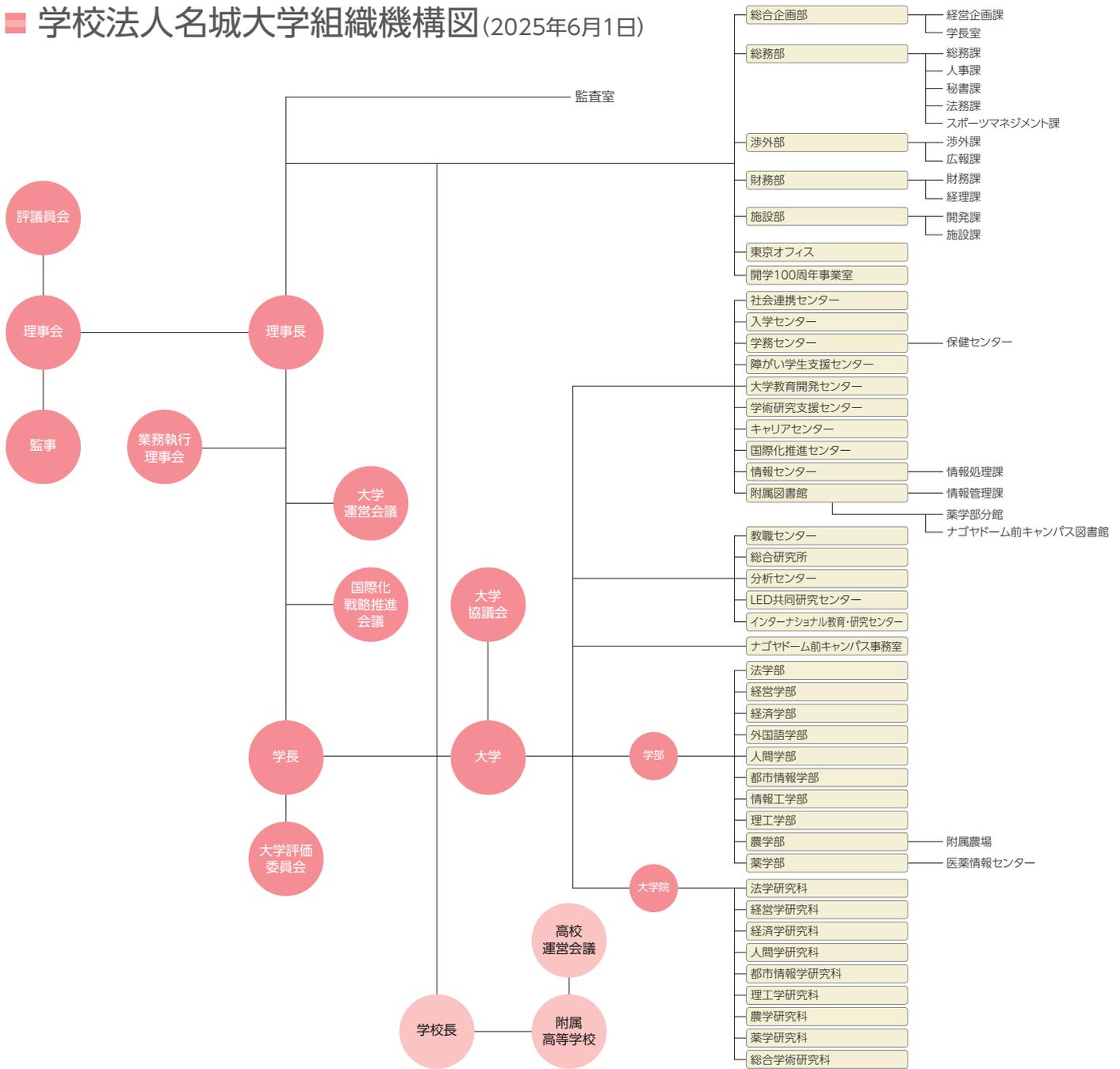
大学のあゆみ

沿革

1926	大正 15年 5月	田中壽一氏により名古屋高等理工科講習所開設	2002	14年 4月	大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程設置 大学院理工学研究科数学専攻博士前期課程・情報科学専攻修士課程・ 電気電子工学専攻博士前期課程・材料機能工学専攻修士課程・機械システム 工学専攻修士課程・交通科学専攻修士課程・建設システム工学専攻修士課程・ 環境創造学専攻修士課程・建築学専攻修士課程設置 大学院総合学術研究科総合学術専攻博士前期課程・博士後期課程設置
1928	昭和 3年 4月	名古屋高等理工科学校開校	2003	15年 4月	人間学部人間学科設置 大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程設置 大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程・生命薬学専攻修士課程設置
1946	21年 10月	財団法人名古屋高等理工科学園設立		5月	薬学部薬学科・製薬学科廃止
1947	22年 9月	名古屋専門学校設置	2004	16年 4月	理工学部情報工学科設置 大学院法務研究科法務専攻専門職学位課程設置 大学院理工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程を電気電子・情報・材 料工学専攻博士後期課程に、同建設工学専攻博士課程を社会環境デザイン 工学専攻博士課程に名称変更
1949	24年 4月	名城大学開学 商学部第一部・第二部設置		7月	大学院薬学研究科修士課程医療薬学専攻・博士前期課程薬学専攻廃止
1950	25年 4月	法商学部第一部法学科・商学科・同第二部法学科・商学科増設 理工学部第一部数学科・電気工学科・機械工学科・建設工学科・同第二部数学科・ 電気工学科・機械工学科・建設工学科増設 農学部農学科増設 商学部、商学部第二部廃止 短期大学部併設、商経科第一部・第二部設置	2005	17年 4月	農学部生物環境科学科設置 5月 大学院理工学研究科修士課程数学専攻・電気電子工学専攻・機械工学専攻・ 土木工学専攻・建築学専攻を廃止
1951	26年 3月	組織変更により学校法人名城大学設立		7月	短期大学部廃止
1954	29年 4月	組織変更により学校法人名城大学設立 4月 教職課程部設置	2006	18年 4月	11月 薬学部薬学科(6年制)設置 大学院大学・学校づくり研究科大学・学校づくり専攻修士課程設置
1954	29年 4月	薬学部薬学科増設 短期大学部電気科第一部・機械科第一部増設 大学院商学研究科商学専攻修士課程設置		5月	商学部第二部商学科廃止 理工学部一部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・ 土木工学科・建築学科廃止 農学部農学科・農芸化学科廃止
1965	40年 4月	理工学部第一部交通機械学科増設 12月 本部および法商学部第一部、大学院商学研究科、短期大学部商経科第一部が 駒方校地から天白校地に移転	2007	19年 5月	11月 商学部商学科・経済学科廃止 19年 5月 法学部第二部法学科廃止 理工学部第二部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・ 土木工学科・建築学科廃止
1966	41年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻修士課程増設		12月	理工学部数学科・電気電子工学科・機械工学科・交通機械学科・ 土木工学科・建築学科廃止
1967	42年 4月	法学部一部法学科、同二部法学科設置 商学部一部商学科、同二部商学科設置 大学院法学研究科法律学専攻修士課程増設 理工学部一部電気工学科・機械工学科・交通機械学科が中村校地から 天白校地に移転	2008	20年 4月	6月 大学院理工学研究科情報科学専攻修士課程を情報工学専攻修士課程に名称変更 商学部一部商学科・経済学科廃止
1968	43年 4月	理工学部一部数学科・建設工学科が中村校地から天白校地に移転 12月 農学部が鷹来校地から天白校地に移転	2011	23年 4月	5月 大学院人間学研究科人間学専攻修士課程設置 理工学部交通科学科を交通機械工学科に名称変更 LED共同研究センター開設
1969	44年 3月	短期大学部電気科第一部・機械科第一部廃止		5月	理工学部情報科学科廃止 大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程・生命薬学専攻修士課程廃止
1969	44年 4月	大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程増設	2012	24年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)設置 薬学部医療薬学科・薬学科(4年制)廃止
1971	46年 4月	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程増設	2013	25年 4月	理工学部応用化学科・メカトロニクス工学科設置 理工学部機械システム工学科を機械工学科に、同建設システム工学科を社 会基盤デザイン工学科に名称変更
1972	47年 4月	農学部農芸化学科増設	2015	27年 1月	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程廃止
1973	48年 4月	理工学部一部土木工学科・建築学科、同二部交通機械学科・土木工学科・ 建築学科増設 理工学部一部建設工学科、同第二部建設工学科廃止 大学院農学研究科農学専攻修士課程増設	2016	28年 4月	大学院理工学研究科交通科学専攻修士課程を交通機械工学専攻修士課程に名称変更
1975	50年 4月	薬学専攻科薬学専攻設置	2017	29年 4月	大学院理工学研究科応用化学専攻修士課程・メカトロニクス工学専攻修士課程設置 大学院理工学研究科機械システム工学専攻修士課程を機械工学専攻修士 課程に、同建設システム工学専攻修士課程を社会基盤デザイン工学専攻修 士課程に名称変更
1976	51年 4月	商学部一部経済学科増設 大学院農学研究科農学専攻博士後期課程増設		7月	人間学部人間学科、大学院人間学研究科人間学専攻が天白キャンパスから ナゴヤドーム前キャンパスに移転
1977	52年 3月	短期大学部商経科第二部廃止		7月	大学院大学・学校づくり研究科廃止
1977	52年 4月	大学院工学研究科電気工学専攻・土木工学専攻・建築学専攻修士課程増設	2019	31年 4月	大学院理工学研究科電気電子・情報・材料工学専攻博士後期課程を電気・ 情報・材料・物質工学専攻博士後期課程に名称変更
1986	61年 4月	理工学部一部、二部電気工学科を電気電子工学科に名称変更 大学院工学研究科電気工学専攻を電気電子工学専攻に名称変更	2020	令和 2年 4月	理工学部環境創造工学科設置
1990	平成 2年 4月	大学院工学研究科機械工学専攻修士課程増設		7月	大学院法務研究科廃止
1992	4年 4月	大学院工学研究科機械工学専攻博士後期課程・建設工学専攻博士課程増設	2022	令和 4年 4月	情報工学部情報工学科設置
1993	5年 4月	大学院工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程・数学専攻修士課程設置 大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更	2023	令和 5年 7月	法学部応用実務法学科廃止
1995	7年 4月	都市情報学部都市情報科設置 大学院商学研究科商学専攻博士後期課程設置 大学院理工学研究科数学専攻博士後期課程設置	2024	令和 6年 4月	理工学研究科環境創造工学専攻設置
1996	8年 4月	薬学部医療薬学科・薬学科設置 大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程・薬学専攻博士前期課程設置			
1999	11年 4月	法学部法学科・応用実務法学科設置 農学部生物資源学科・応用生物化学科設置 大学院都市情報学研究科都市情報学専攻修士課程設置 商学部一部を商学部に名称変更 理工学部一部を理工学部に名称変更			
2000	12年 4月	経営学部経営学科・国際経営学科設置 経済学部経済学科・産業社会学科設置 理工学部数学科・情報科学科・電気電子工学科・材料機能工学科・機械システム工学科・ 交通科学科・建設システム工学科・環境創造学科・建築学科設置 短期大学部情報国際科設置 大学院経済学研究科経済学専攻修士課程設置			
2001	13年 4月	大学院経営学研究科経営学専攻修士課程設置 大学院都市情報学研究科都市情報学専攻博士後期課程設置			

組織機構図

■ 学校法人名城大学組織機構図 (2025年6月1日)



大学のあゆみ / 組織機構図

▶ 歴代理事長

1949年 4月 1日	田中 壽一
1954年 11月15日	代理 今岡 正益
1955年 9月28日	伊藤 萬太郎
1958年 8月14日	田中 壽一
1959年 11月 5日	大野 富之助
1960年 2月14日	大橋 光雄
1960年 5月11日	田中 壽一
1963年 8月23日	渡邊 捨雄
1972年 1月29日	事務取扱 松本 忠太郎
1973年 11月 1日	中村 新一
1975年 12月22日	松尾 信資
1984年 1月29日	大隈 孝一
1992年 1月29日	八代 健三郎
1995年 10月 1日	佐伯 進
2000年 1月29日	岩崎 正視
2005年 12月16日	大橋 正昭
2012年 1月30日	小笠原 日出男
2018年 7月12日	立花 貞司

▶ 歴代学長

1949年 4月 1日	田中 壽一
1954年 11月15日	事務取扱 野村 均一
1955年 9月30日	大串 禎代夫
1958年 10月31日	日比野 信一
1963年 8月23日	三雲 次郎
1971年 4月 1日	小澤 久之丞
1972年 4月 1日	川上 幸治郎
1976年 4月 1日	濱口 秀夫
1979年 4月 1日	長戸 一雄
1982年 4月 1日	矢野 勝久
1985年 4月 1日	大塚 昭信
1988年 4月 1日	藤吉 正之進
1991年 4月 1日	丸勢 進
1997年 4月 1日	網中 政機
2003年 4月 1日	兼松 顯
2007年 4月 1日	下山 宏
2011年 4月 1日	中根 敏晴
2015年 4月 1日	吉久 光一
2019年 4月 1日	小原 章裕
2025年 4月 1日	野口 光宣

▶ 法人

名誉顧問
顧問

大橋 正昭
小笠原 日出男
長谷川 士郎

▶ 役員

理事長
専務理事・理事(業務執行理事)
常務理事・理事(業務執行理事)・事務局長
理事(業務執行理事)
理事(業務執行理事)
理事(業務執行理事)
理事(業務執行理事)・学長
理事(業務執行理事)・副学長
理事(業務執行理事)・副学長
理事(業務執行理事)・
附属高等学校長

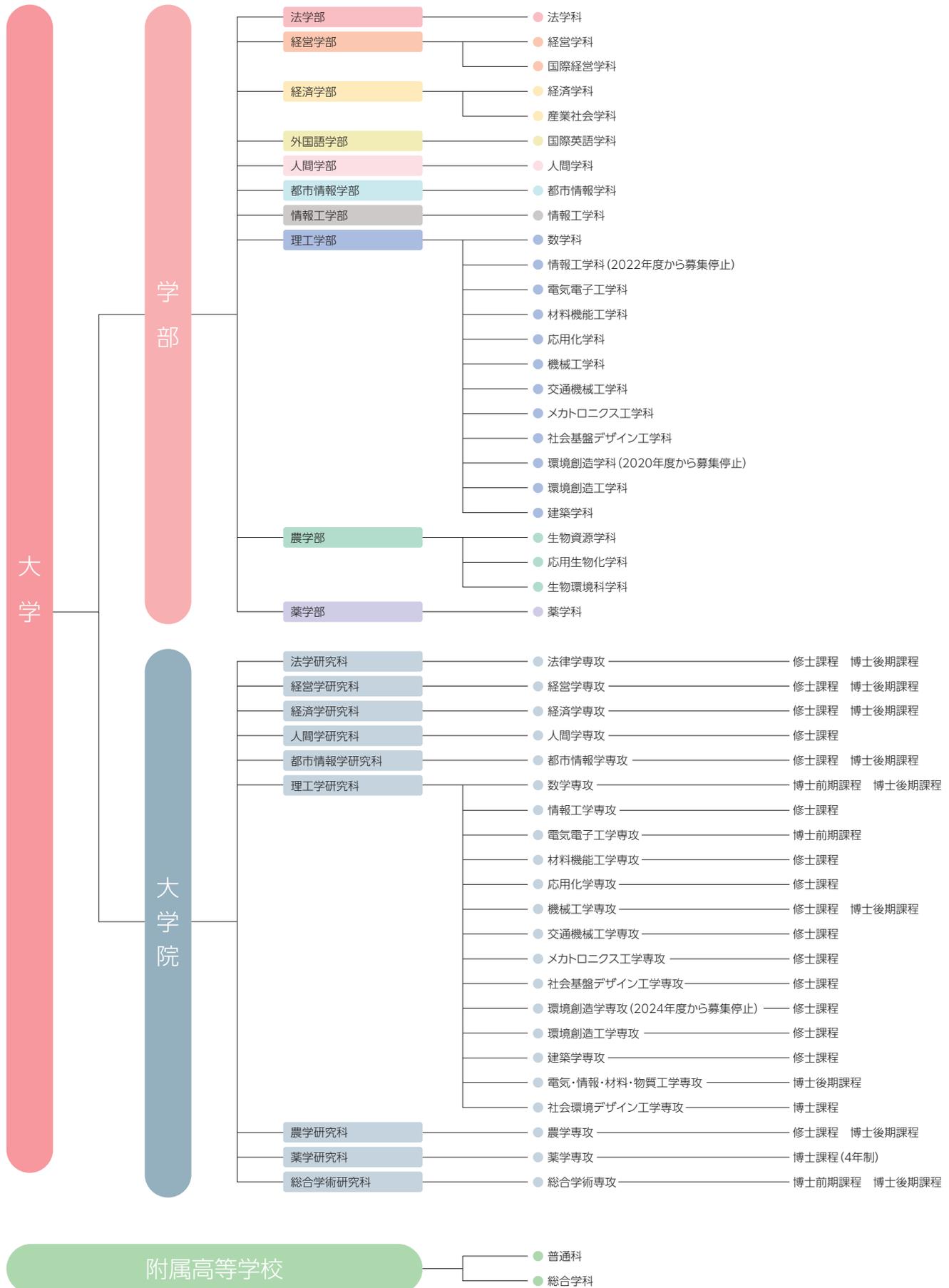
立花 貞司
小原 章裕
武藤 正美
大脇 肇
矢野 幾也
三澤 太輔
野口 光宣
伊川 正樹
大野 栄治
伊藤 憲人

▶ 役員(2025年6月1日現在)

理事 尾堂 真一
日本特殊陶業株式会社代表取締役会長
理事 神田 真秋
愛知芸術文化センター総長・前愛知県知事
理事 小笠原 剛
株式会社三菱UFJ銀行顧問
理事 中村 友美
元愛知県議会議員
理事 神谷 優子
弁護士
理事 丹下 雷博
株式会社中日新聞社代表取締役社長
理事 白田 信行
株式会社中日新聞社常務取締役
監事(常勤) 余語 弘
監事(常勤) 山本 雄吾
監事 山本 光子
パーソルテンプスタッフ株式会社相談役
監事 湯本 秀之
公認会計士

組織機構図

■ 教育組織図 (2025年4月1日現在)



教職員数

■ 教職員数(2025年6月1日現在)

教育職員489人 事務職員等291人 附属高等学校104人 合計884人

■ 教育職員

※()内は外国人教員の内数 (人)

	教授		准教授		助教		講師(特任講師含む)		助手(特任助手含む)		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学長	1										1
法学部	24	5	11(1)	4(1)	1	1			1	1	48(2)
経営学部	16	3	5	1	1(1)						26(1)
経済学部	11	4	7	4	1				1		28
外国語学部	11(4)	3	4(1)	2			5(5)	1			26(10)
人間学部	10	6	2(1)	1	2(1)	1					22(2)
都市情報学部	19(1)	2	2	3	1						27(1)
情報工学部	12	1	5		4						22
理工学部	91(2)	5	47(1)	5	5	3	1		2		159(3)
農学部	23		13		5	4			4	1	50
薬学部	25	2	18(1)	3	6	4			6	1	65(1)
理工学研究科	4										4
教職センター	5	1	1			1					8
国際化推進センター								2			2
名城大学	1										1
合計	253(7)	32	115(5)	23(1)	26(2)	14	6(5)	3	14	3	489(20)

■ 事務職員等

(人)

	男	女	計
監査室	2		2
法人及び大学	5		5
総合企画部	8	4	12
総務部	14	9	23
渉外部	8	4	12
財務部	5	7	12
施設部	9	3	12
東京オフィス	2		2
開学100周年事業室	1	1	2
社会連携センター	2	2	4
入学センター	11	6	17
学務センター	14	23	37
障がい学生支援センター	1	2	3
教職センター	2	2	4
大学教育開発センター	2	2	4
学術研究支援センター	12	6	18
キャリアセンター	10	8	18
国際化推進センター	5	4	9
情報センター	7		7
附属図書館	3	6	9
学部事務室等	41	35	76
ドーム前キャンパス事務室	2	1	3
合計	166	125	291

■ 附属高等学校

(人)

	男	女	計
教諭等	70	26	96
事務職員	4	4	8
合計	74	30	104

学生数

■ 在籍者数一覽(2025年5月1日現在)

学部

(人)

学部	学科	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			合計			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
法学部	法学部	246	185	431	291	158	449	286	134	420	322	138	460							1,145	615	1,760	
	法学部 計	246	185	431	291	158	449	286	134	420	322	138	460							1,145	615	1,760	
経営学部	経営学部	120	100	220	98	107	205	124	90	214	159	117	276							501	414	915	
	国際経営学部	45	59	104	47	57	104	44	54	98	47	54	101							183	224	407	
	経営学部 計	165	159	324	145	164	309	168	144	312	206	171	377							684	638	1,322	
経済学部	経済学部	155	57	212	160	61	221	180	50	230	191	63	254							686	231	917	
	産業社会学部	64	33	97	74	36	110	70	41	111	66	40	106							274	150	424	
	経済学部 計	219	90	309	234	97	331	250	91	341	257	103	360							960	381	1,341	
理工学部	数学科	98	17	115	72	21	93	66	16	82	62	16	78							298	70	368	
	情報工学科							1		1	36	2	38							37	2	39	
	電気電子工学科	149	8	157	169	8	177	144	8	152	153	6	159							615	30	645	
	材料機能工学科	70	14	84	77	16	93	70	13	83	82	11	93							299	54	353	
	応用化学科	39	36	75	55	31	86	41	16	57	47	34	81							182	117	299	
	機械工学科	118	4	122	129	7	136	124	11	135	146	10	156							517	32	549	
	交通機械工学科	109	4	113	135	6	141	119	10	129	135	4	139							498	24	522	
	メカトロニクス工学科	82	9	91	85	7	92	68	8	76	80	4	84							315	28	343	
	社会基盤デザイン工学科	78	24	102	85	20	105	69	19	88	85	12	97							317	75	392	
	環境創造工学科	71	22	93	55	24	79	66	15	81	53	18	71							245	79	324	
	環境創造学科										1		1								1		1
	建築学科	101	67	168	97	57	154	103	38	141	110	46	156							411	208	619	
	理工学部 計	915	205	1,120	959	197	1,156	871	154	1,025	990	163	1,153							3,735	719	4,454	
農学部	生物資源学科	62	49	111	60	55	115	55	42	97	65	69	134							242	215	457	
	応用生物化学科	41	86	127	34	80	114	24	72	96	35	77	112							134	315	449	
	生物環境科学科	55	50	105	62	58	120	76	61	137	73	58	131							266	227	493	
	農学部 計	158	185	343	156	193	349	155	175	330	173	204	377							642	757	1,399	
薬学部(6年)	薬学部	97	199	296	86	206	292	99	200	299	84	181	265	80	170	250	88	181	269	534	1,137	1,671	
	薬学部(6年) 計	97	199	296	86	206	292	99	200	299	84	181	265	80	170	250	88	181	269	534	1,137	1,671	
都市情報学部	都市情報学部	174	85	259	194	68	262	186	57	243	166	67	233							720	277	997	
	都市情報学部 計	174	85	259	194	68	262	186	57	243	166	67	233							720	277	997	
人間学部	人間学部	64	161	225	59	174	233	73	186	259	67	178	245							263	699	962	
	人間学部 計	64	161	225	59	174	233	73	186	259	67	178	245							263	699	962	
外国語学部	国際英語学部	45	95	140	43	98	141	44	96	140	47	102	149							179	391	570	
	外国語学部 計	45	95	140	43	98	141	44	96	140	47	102	149							179	391	570	
情報工学部	情報工学部	169	32	201	169	33	202	162	26	188	127	16	143							627	107	734	
	情報工学部 計	169	32	201	169	33	202	162	26	188	127	16	143							627	107	734	
学部 合計		2,252	1,396	3,648	2,336	1,388	3,724	2,294	1,263	3,557	2,439	1,323	3,762	80	170	250	88	181	269	9,489	5,721	15,210	

■ 研究生

(人)

区分	学部・研究科	男	女	計
学部	法学部			
	経営学部			
	経済学部			
	理工学部			
	農学部			
	薬学部			
	都市情報学部			
	人間学部			
	外国語学部			
	情報工学部			
小計	0	0	0	
大学院	法学研究科			
	経営学研究科			
	経済学研究科			
	理工学研究科	1		1
	農学研究科			
	薬学研究科			
	都市情報学研究科			
	人間学研究科			
	総合学術研究科			
	小計	1	0	1
合計	1	0	1	

■ 科目等履修生

(人)

区分	学部・研究科	通常の科目等履修生			交換留学生			科目等履修生合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部	法学部	1		1	1	3	4	2	3	5
	経営学部				4	8	12	4	8	12
	経済学部	1		1	1		1	2		2
	理工学部	1	1	2				1	1	2
	農学部									
	薬学部									
	都市情報学部	8	1	9	1	1	2	8	2	10
	人間学部				6	6	12	6	6	12
	外国語学部				8	4	12	8	4	12
	情報工学部		1	1				1	1	2
大学院	教職課程									
	学芸員課程									
	小計	11	3	14	14	22	36	25	25	50
	法学研究科	3	3	6				3	3	6
	経営学研究科									
	経済学研究科									
	理工学研究科									
	農学研究科									
	薬学研究科									
	都市情報学研究科									
人間学研究科										
総合学術研究科										
小計	3	3	6	0	0	0	3	3	6	
合計	14	6	20	14	22	36	28	28	56	

研究科

(人)

研究科	専攻・課程		1年次			2年次			3年次			4年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
法学研究科	法律学専攻	修士課程	3	3	6	3	2	5							6	5	11
経営学研究科	経営学専攻	修士課程	2	1	3	3		3							5	1	6
経済学研究科	経済学専攻	修士課程				1		1							1		1
理工学研究科	数学専攻	博士前期課程	2		2	2		2							4		4
	情報工学専攻	修士課程	38	4	42	39	2	41							77	6	83
	電気電子工学専攻	博士前期課程	28	2	30	44	1	45							72	3	75
	材料機能工学専攻	修士課程	40	5	45	46	3	49							86	8	94
	応用化学専攻	修士課程	12	2	14	20	7	27							32	9	41
	機械工学専攻	修士課程	34	1	35	30	1	31							64	2	66
	交通機械工学専攻	修士課程	23	1	24	18	2	20							41	3	44
	メカトロニクス工学専攻	修士課程	22	2	24	29	5	34							51	7	58
	社会基盤デザイン工学専攻	修士課程	3		3	6	1	7							9	1	10
	環境創造工学専攻	修士課程	7	4	11	1		1							8	4	12
	環境創造学専攻	修士課程				1		1							1		1
	建築学専攻	修士課程	17	6	23	13	8	21							30	14	44
理工学研究科計			226	27	253	249	30	279							475	57	532
農学研究科	農学専攻	修士課程	29	20	49	32	19	51							61	39	100
都市情報学研究科	都市情報学専攻	修士課程	4	1	5	3		3							7	1	8
総合学術研究科	総合学術専攻	博士前期課程	2	1	3	2	1	3							4	2	6
人間学研究科	人間学専攻	修士課程	1		1	1	2	3							2	2	4
修士課程・博士前期課程 合計			267	53	320	294	54	348							561	107	668
法学研究科	法律学専攻	博士後期課程							1	2	3				1	2	3
経営学研究科	経営学専攻	博士後期課程															
経済学研究科	経済学専攻	博士後期課程															
理工学研究科	電気・情報・材料・物質工学専攻	博士後期課程	2	2	4	2		2	1		1				5	2	7
	社会環境デザイン工学専攻	博士課程	1		1				2		2				3		3
	数学専攻	博士後期課程							1		1				1		1
	機械工学専攻	博士後期課程				2		2	6		6				8		8
理工学研究科計			3	2	5	4		4	10		10				17	2	19
農学研究科	農学専攻	博士後期課程	1		1	1	1	1	4		4				5	1	6
都市情報学研究科	都市情報学専攻	博士後期課程				1		1	2		2				3		3
総合学術研究科	総合学術専攻	博士後期課程	1	1	2		1	1	1		1				2	2	4
薬学研究科(4年)	薬学専攻	博士課程	1	4	5	3	3	6	2		2	4		4	10	7	17
博士課程・博士後期課程 合計			6	7	13	8	5	13	20	2	22	4		4	38	14	52
大学院 合計			273	60	333	302	59	361	20	2	22	4		4	599	121	720

学生数

社会人特別履修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	薬学研究科	1	5	6
合計		1	5	6

特別聴講生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	法学研究科			
	経営学研究科			
	薬学研究科			
合計		0	0	0

在籍者数集計

(人)

区分	男	女	計
学部	9,489	5,721	15,210
研究科	599	121	720
合計	10,088	5,842	15,930

特別研究生

(人)

区分	研究科	男	女	計
大学院	薬学研究科			
合計		0	0	0

単位互換履修生

(人)

区分	研究科	男	女	計
学部	法学部			
	経営学部			
	経済学部			
	理工学部			
	農学部			
	薬学部			
	都市情報学部			
	人間学部			
	外国語学部			
	情報工学部			
合計		0	0	0

非正規生

(人)

区分	男	女	計
研究生	1		1
科目等履修生	28	28	56
特別聴講生			
単位互換履修生			
社会人特別履修生	1	5	6
特別研究生			
合計	30	33	63

教育方針

■ 名城大学の3つのポリシー、アセスメント・ポリシー

卒業の認定に関する方針(学位授与方針) [ディプロマ・ポリシー]

名城大学は、「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」という立学の精神に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

- 1 幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。
- 2 専門分野に熟達し、社会における諸問題の解決のためにその知識・能力を活用できる。
- 3 主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 [カリキュラム・ポリシー]

名城大学は、各学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。

- 1 人文・社会・自然科学、語学、情報技術、体育等からなる教養教育課程を体系的に編成し、様々な価値観に触れ、物事を正しく理解し表現できるようにする。
- 2 専門教育課程を体系的に編成し、講義・演習・実験・実習等を適切に組み合わせた授業を実施することにより、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。
- 3 初年次教育や演習・実験・実習科目を中心に能動的学修の要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。
- 4 学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数に基づく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

入学者の受入れに関する方針[アドミッション・ポリシー]

名城大学は、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。

- 1 大学での学修の基礎となる高等学校における各教科の基本事項を修得している。
- 2 入学を希望する学科での学修成果を社会で活かすという目的意識がある。
- 3 大学在学中だけでなく、卒業後も学び続ける意欲がある。

アセスメント・ポリシー

名城大学では、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に掲げる能力・資質等について、以下の評価方法によって学修到達目標の達成状況を確認し、教育の改善を図ります。

大学及び学科レベルでは、ディプロマ・ポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。

科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。

評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。

卒業研究については、各学部が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、大学及び学科レベルでは、その集計値で評価する。

学部紹介

より幸福な社会をつくるために
リーガルマインドを持つ人材を育成。

法学部

Faculty of Law

- 法学科

キャンパス/天白キャンパス 学部開設/1967年(昭和42年)
[1950年(昭和25年)法商学部として誕生、1967年(昭和42年)改組]

私たちは、さまざまな場面で常に判断を求められていますが、独りよがり
に陥らないためには、正確で広範な知識が必要です。さらに、人と議論し価値
観を共有していくスキルや、社会の変化を敏感にとらえる感性も欠かせませ
ん。法学部ではこれらを総合したリーガルマインドを身につけ、現代社会の
複雑な課題を解決できる人材を育成します。公務員をめざす「行政専門コー
ス」、法の専門職をめざす「法専門コース」、幅広い法分野の基礎を確実に修
得する「法総合コース」の3コースを設置しています。さらに、法的素養に加
えて語学力の向上をめざす「国際法文化プログラム(英語)」と「アジア法政
プログラム(中国語)」を設置しています。

身近な生活と国際社会の接点で変動する、
さまざまな組織と人の未来を考える。

経営学部

Faculty of Business Management

- 経営学科 ● 国際経営学科

キャンパス/天白キャンパス 学部開設/2000年(平成12年)
[1949年(昭和24年)商学部として誕生、2000年(平成12年)改組]

経営学では、企業だけではなく自治体や学校、NPOなどさまざまな組織体
が学びの対象となります。また、消費者や生活者である人間の心理や行動な
ども対象となります。同時に、ヨーロッパの財政危機やアジア諸国の急成長
は、私たちが日頃接している地元の企業や商店などにどのような影響をおよ
ぼしているかなど、新聞やテレビなどで話題になった身近な問題も取り上げ
ます。このような学びを通じて、広汎な教養と実践的能力、さらに開拓者精神
にあふれる創造的な知性と、豊かな人間性を備えた、これからの社会で活躍
できる人材を養成します。

世界、日本、地域社会、そして自分…
経済を知ること、あらゆる未来が見えてくる。

経済学部

Faculty of Economics

- 経済学科 ● 産業社会学科

キャンパス/天白キャンパス 学部開設/2000年(平成12年)
[1949年(昭和24年)商学部として誕生、2000年(平成12年)改組]

「経済」は常に時代とともにあり、社会の動きすべてにかかわっています。
いわば「経済」は社会の基盤ともいえます。国内外の経済が大きな転換期を
迎えている今、経済学はさまざまな問題を解決していく使命を担っています。
経済学部では、自ら体験し、実感し、考える豊富な機会を通じて、教科書の中
の理論に留まることなく、世界、日本、地域社会の動きを読み解いていきます。
経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟
に対応できる人材の育成をめざしています。

国境、分野を越[超]えた
共修と協働を実現する世界人材に。

外国語学部

Faculty of Foreign Studies

- 国際英語学科

キャンパス/ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設/2016年(平成28年)

グローバル化が進展する社会では、ツールとしての語学力だけでなく、社会
を構成する多様な価値観を理解し、国や分野の異なる人々と共に学びなが
ら新たな関係を構築する力が求められます。本学科では、実践型英語カリ
キュラムと豊富な留学・国際研修、企業や海外大学とのコラボ授業、副専攻
制度などを通じて、実践的な「英語力」、世界の人々と共に学び、多様な価値
観を知る「国際理解」、実社会で専門の異なる人々とチームで活躍するための
「協働力」などを養成。国境も分野も越[超]えて共修・協働し、新たな価値を
創りだす Global Communicator【世界人材】を育成します。

国際社会で広く活躍できる
人間性豊かな実践的教養人を育成。

人間学部

Faculty of Human Studies

- 人間学科

キャンパス/ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設/2003年(平成15年)

現代社会で求められるのは、豊かな人間性に裏打ちされた広い視野と深い
教養を持ち、時代の変化や国際化にも自在に対応できる、行動力とコミュニ
ケーション能力を備えた人材です。人間学部では「幅広い教養の修得」「人間
性の追究」「グローバル・マインドの養成」を教育理念に、「心理系」「社会・教育
系」「国際・コミュニケーション系」の3領域で専門教育分野を構成。また、海外
研修などの体験科目やゼミナールを充実することで、どのような場面でも活
躍できる人材の育成をめざします。

エネルギー、環境、交通、防災など…
あらゆる都市問題を解決するサービスサイエンスを学ぶ。

都市情報学部

Faculty of Urban Science

● 都市情報学科

キャンパス／ナゴヤドーム前キャンパス
学部開設／1995年(平成7年)

「都市」と「情報」をテーマとした、文理融合の幅広い学びを展開。今、世界中の「都市」を動かしているのは、行政や企業などが提供する「サービス」であるといっても過言ではありません。この「サービス」に対して、最先端の情報技術や社会科学の知見を駆使して科学的に追究し、現代の都市が抱えるさまざまな問題を解決していきます。

情報の収集、整理・分析などの能力修得を目的とする「アナリストコース(理系志向)」、計画の立案・設計などの能力修得を目的とする「プランナーコース(文系志向)」の2つのコースで、文・理どちらの志向にも柔軟に対応しています。

実践力×連携力を身につけた
次世代の情報エンジニアを育成する。

情報工学部

Faculty of Information Engineering

● 情報工学科

キャンパス／天白キャンパス
学部開設／2022年(令和4年)

社会のあらゆる分野でAI(人工知能)、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、サイバーセキュリティなどの情報通信技術が必要とされています。情報工学部では情報工学の考え方や技術を深く体系的に学ぶ「総合コース」と、実社会で利用されている技術を実践的・体験的に学ぶ「先進プロジェクトコース」を配置。さらに情報工学の広い領域にまたがる4つのプログラムを組み合わせた多彩な学びを、興味や適性に応じて自ら組み立てることができます。時代のニーズに応える先進的な学びにより、多種多様な分野で活躍できる次世代の情報エンジニアを育成します。

伝統と革新が融合する独自の教育研究により
世界で活躍できる科学技術者を育てる。

理工学部

Faculty of Science and Technology

● 数学科 ● 電気電子工学科 ● 材料機能工学科
● 応用化学科 ● 機械工学科 ● 交通機械工学科 ● メカトロニクス工学科
● 社会基盤デザイン工学科 ● 環境創造学工学科 ● 建築学科

キャンパス／天白キャンパス
学部開設／1950年(昭和25年)

理工学部では、まもなく100年を迎える長い歴史の中で培った充実した教育体制を基盤に、これからの時代を見据えた教育プログラムを推進することで、幅広い教養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を養います。また、数多くの実験や実習、ワークショップ等、実際の「ものづくり」の現場を肌で体感するプログラムなどを積極的に取り入れた実感教育も実施しています。これらにより、将来、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り開いていく人材を育成していきます。令和8年4月1日に材料機能工学科と応用化学科を統合した「化学・物質学科」を設置予定です。

「生命・食料・環境」に関する
専門的学識と洞察力を備えた人材を育成。

農学部

Faculty of Agriculture

● 生物資源学科 ● 応用生物化学科 ● 生物環境科学科

キャンパス／天白キャンパス
学部開設／1950年(昭和25年)

食料問題、超高齢社会、エネルギー危機、環境汚染など、我々の未来を左右するさまざまな問題が深刻化するなか、農学の果たすべき役割は大きく広がり、また高度化しています。こうした時代の変化に対応するため、農学部では生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の3学科を配置し、バイオテクノロジーやデータサイエンスなど、多様な教育と研究を行っています。高度な教育と研究を通して、生命・食料・環境に関する専門的学識と洞察力を養い、現代社会が直面する諸問題の解決に向けて積極的に取り組むことのできる人材の育成をめざしています。

人々の健康と福祉の向上に
広く貢献できる薬剤師・薬学研究者の養成をめざす。

薬学部

Faculty of Pharmacy

● 薬学科

キャンパス／八事キャンパス
学部開設／1954年(昭和29年)

第110回
薬剤師国家試験合格率
89.80%

私立大No.2

※全国平均68.85%(厚生労働省)

薬剤師の職能は、ますます広がり続けています。近年、薬剤師は病院などの臨床現場で医師、看護師などとチーム医療を推進する一員としてその存在感が高まり、さらに超高齢社会の中で、予防医学や地域医療、在宅医療の担い手としての期待も大きく高まっています。2024年に創立70周年を迎えた薬学部では、薬剤師が医療に携わる重要性に早くから着目し、日本における臨床薬学教育をリードし続けてきました。一方で、バイオテクノロジーなど先端の研究活動も積極的に推進。高度な教育と研究を両輪として、将来にわたり人々の健康と福祉の向上に貢献できる薬剤師・医療人、薬学研究者の養成をめざしています。

大学院紹介

幅広く高度な専門知識を習得できる体制と環境

法学研究科

- 修士課程／法律学専攻
- 博士後期課程／法律学専攻

本研究科では、大学院生の多様な研究目的に対応できる、幅広く高度な専門知識を習得可能な授業科目を配置しています。また、修士課程1年次から指導教員を決定し、研究上のきめ細かい指導が行えるような体制を整えています。さらにハワイ大学ロースクール、輔仁大学(台湾)等との間に学術交流協定を締結し、定期的に研究者を招聘しています。また、税理士志望者や実務界からのニーズに対応するために、2020年度から「租税法」を専修分野として新設するとともに科目の充実を図りました。社会人も積極的に受け入れており、時間的負担の少ない長期履修の制度を利用しながら学位を取得している方もいます。なお、この地区の愛知学院大学・中京大学・名古屋経済大学・南山大学の各大学院法学研究科とは単位互換協定を締結しています。

経営のグローバル化に対応する2つのコースを設置

経営学研究科

- 修士課程／経営学専攻
- 博士後期課程／経営学専攻

本研究科では、「経営学・ものづくりシステムコース」、「会計学・ファイナンスコース」の2コースを導入。経済、経営のグローバル化に対応する高度専門職業人の養成をめざしています。「ものづくり」関連科目においては、わが国製造業の第一線企業の実務家等を講師に招き、産学協同、文理融合型の特色ある実践的教育・研究を進めています。企業から派遣されている社会人学生は、職場に根ざした問題の解決策をまとめ、高い評価を得ています。また、学部卒業生や外国人留学生のみならず、社会人にも広く門戸を開放し、関連資格の取得をめざす者への支援も行っています。

経済理論と現実社会との接点を考察

経済学研究科

- 修士課程／経済学専攻
- 博士後期課程／経済学専攻

経済社会の発展に寄与できる高度職業人の育成を目的とし、経済理論、財政政策、金融政策、国際経済、アジア経済、環境経済、現代企業、地域産業政策などに関する科目を多彩に開講しています。大学院生は、「理論経済・経済史分野」「経済政策分野」「現代産業構造分野」の三つの専修分野の中から一つの専修分野を定め、指導教員のもとで研究論文の作成をめざします。また、学部卒業生や外国人留学生のみならず、社会人にも広く門戸を開放し、関連資格の取得をめざす方への支援も行っています。

高次の実践力と創造的な知見を備えた人材を養成

人間学研究科

- 修士課程／人間学専攻

本研究科は、人間に関するテーマを探究・展開できる研究能力とともに、総合的で柔軟な判断力、多元的・複雑化した社会で求められるコミュニケーション能力、高い公共性と倫理性を備えた人材を養成することを目的として開設されました。1990年代以降、急速に進んだグローバル化の中で、さまざまなカタチで顕在化してきた課題に対して、「現実を踏まえ粘り強く交渉する能力」「意見の対立を調停する能力」「新しく、独創性のある発想を伴った創造力」を持つ人材を育て、経済格差のひろがり、民族間・宗教間対立の深刻化、止まらない環境破壊など、人間の抱える課題の解決をめざします。

サービスサイエンスを志向する都市科学研究

都市情報学研究科

- 修士課程／都市情報学専攻
- 博士後期課程／都市情報学専攻

都市情報学研究科は、「社会システム学」「都市創造学」の2つの専修分野から構成され、サービスサイエンスの観点を取り入れた、新しい時代の理想的な都市社会を創造するエキスパートの養成を目的としています。都市情報学研究科での新たな学びを通して、既存の方法では解決しない問題を、AIを含む革新的な技術及びデータサイエンス手法等で解決する能力や、異分野で開発された解決策を創造的にアレンジし適用する能力を培い、大学院修了後の社会実践力を養成してまいります。

多彩な分野で最先端の研究を展開

理工学研究科

- 修士・博士前期課程／数学専攻※1、情報工学専攻、電気電子工学専攻※1、材料機能工学専攻、応用化学専攻、機械工学専攻、交通機械工学専攻、メカトロニクス工学専攻、社会基盤デザイン工学専攻、環境創造工学専攻、建築学専攻
- 博士・博士後期課程／数学専攻※2、電気・情報・材料・物質工学専攻、機械工学専攻※2、社会環境デザイン工学専攻

※1 博士前期課程 ※2 博士後期課程

理工学部各学科の専門基礎教育を基盤とする修士課程、さらに修士課程の各専攻での研究を基盤とする博士後期課程を設けています。各専攻では、学生と教員が一体となって最先端分野の研究テーマに取り組み、その研究成果を国内外の学会に発表しています。こうした教育研究活動の実績とポテンシャルの高さは広く認められており、文部科学省によるさまざまな学術研究高度化推進事業の拠点として選定されています。また、近年企業の採用も大学院修了者を重視する傾向があり、高度な教育研究活動を通じて自己の付加価値を一層高めることをめざして、高い進学率で推移しています。

多様化する世界の課題に、最先端の研究で挑む

農学研究科

- 修士課程／農学専攻
- 博士後期課程／農学専攻

中部圏私大で唯一の大学院農学研究科であり、修士課程と博士後期課程を設置しています。栽培植物生産学、分子生物情報・育種学、生物保護学、経営・経済学、生命科学、食品科学、分子化学、生物制御科学、生物保全学、物質動態学、生物機能科学、緑地創造学の12専修分野からなり、修士課程ではさらにフィールド生産科学専修分野が加わりま。学生はひとつの専修分野を選択し、講義や演習を通じて専門分野の学識を高め、さらに指導教員の指導のもとで最先端の研究テーマに取り組み、修士論文・博士論文を作成します。それらにより、生命科学、食料・健康科学、環境科学における高度な専門知識と洞察力を有し、専門領域や関連学術領域における総合的な応用力、創造力及び実践力を備えた専門技術者及び研究者を養成することを目的としています。

薬学のスペシャリストを養成

薬学研究科

- 博士課程(4年制)／薬学専攻

薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制課程)は、薬学領域における学術高度化に貢献でき、国民の健康維持・増進と医療の発展をより一層推進できる独創的で創造的な高い研究力、新しい職能を開拓できる高度な専門性と技術・指導力を兼ね備えた“薬学のスペシャリストの養成”を目的として研究に取り組んでいます。4年間の教育課程を通して、最新の医療・生命科学にかかわる情報を理解・修得できる能力、薬剤師の職能の現状にとらわれず柔軟な発想と時代の先を見渡す洞察力や、自らが時代を切り拓くことができる行動力を身につけた医療人の養成をめざした教育を行っています。

「自然と人間の共生」をテーマに学際的研究を推進

総合学術研究科

- 博士前期課程／総合学術専攻
- 博士後期課程／総合学術専攻

学部を基礎としない独立研究科として2002年度(平成14年度)に設置。総合大学ならではの理系・文系からなる学際的な研究科です。研究者および高度専門職業人養成を目的として、「自然・環境科学」と「人間科学」の2つの専修分野をもとに、博士前期課程では「物質・環境科学」「生物・環境科学」「心理学」「生命科学」の各分野の特論を学びながら、専攻した科目の研究を行い、学際的なものの見方を養成します。博士後期課程では「物質・環境科学」「生物・環境科学」「心理学」「生命科学」の4つの分野で学位取得に向けた研究を進展させます。独立研究科として、春季・秋季入学の実施、社会人に対応した開講時間の設定など、学部からの進学者とともに社会人も積極的に受け入れる体制を整え、社会に関わった研究科づくりを進めています。

進路・就職支援体制

2025年(2024年度)学部卒業生就職・求人状況(2025年5月1日現在)

全国私大トップクラスの実績

就職率
99.7%
(全国平均 98.0%)

実就職率
96.6%
〈2024年〉96.5% 全国私大No.1
〈2023年〉95.8% 全国私大No.1

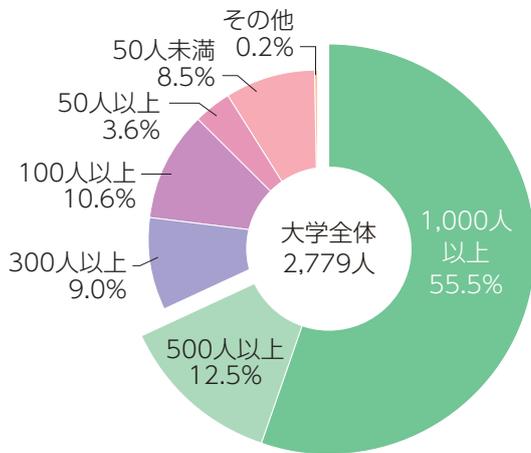
※① 就職率…就職希望者に対する就職者の割合
② 全国平均…文部科学省・厚生労働省調査5月23日発表

※① 実就職率…卒業者から大学院進学者を除いた者に対する就職者の割合
② 2023、2024年の順位は、「サンデー毎日」学部卒業生2000名以上の大学から抽出

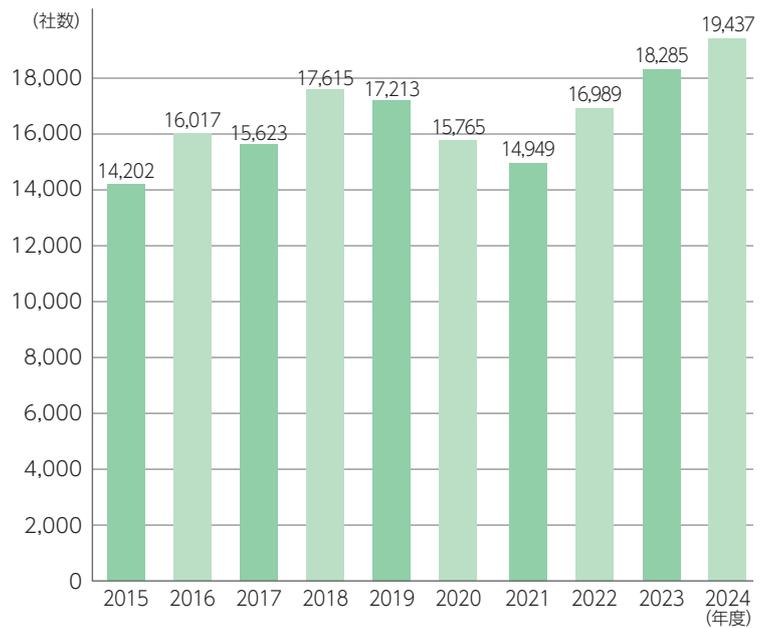
従業員数別就職状況

68%の学生が大企業へ就職!

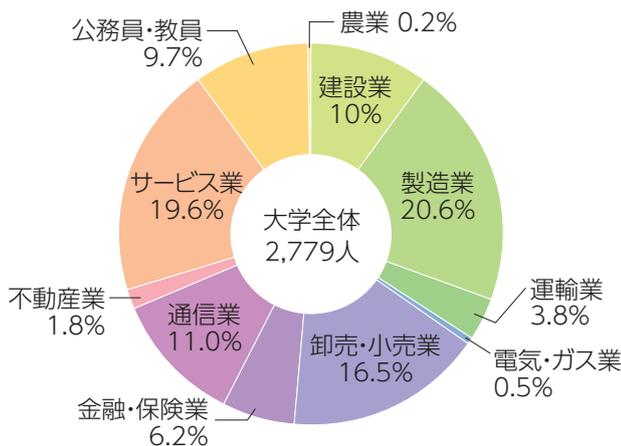
就活生の半数以上が従業員数1000人以上の大企業に就職。



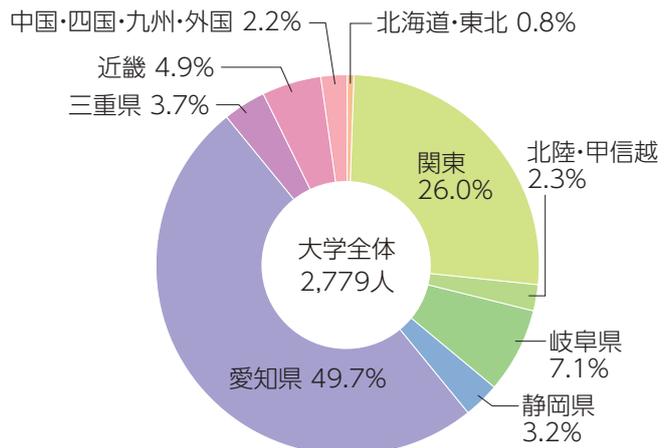
求人社数の推移



業種別就職状況



地区別就職状況(本社所在地)



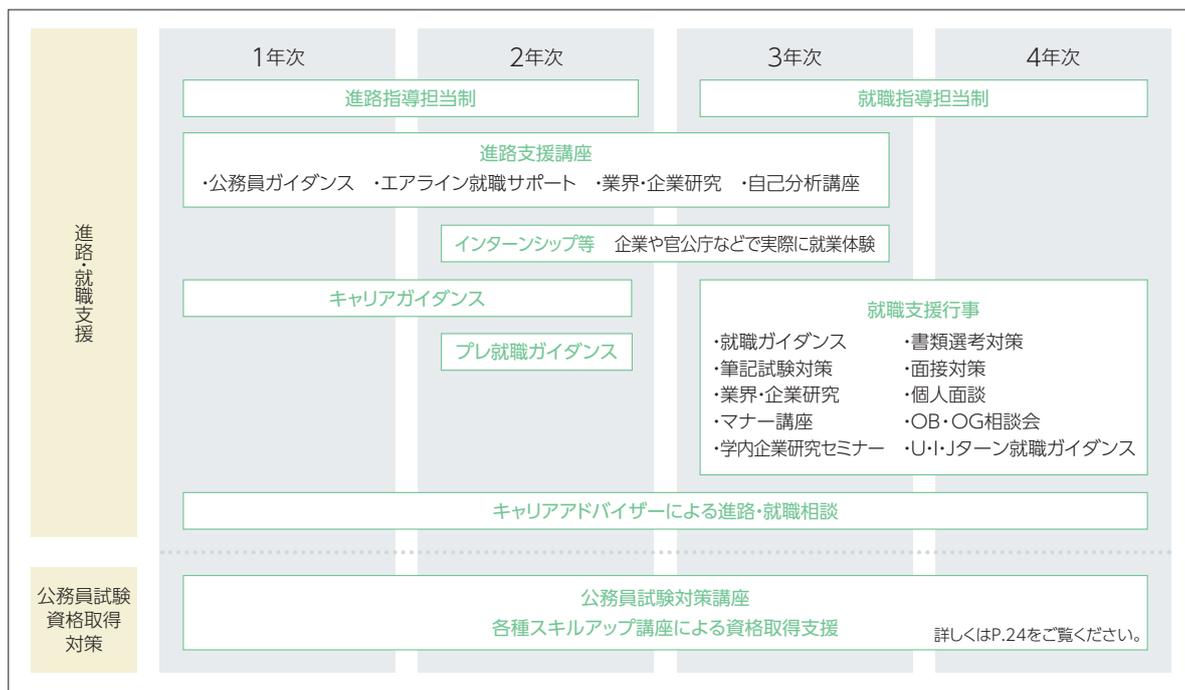
進路・就職支援体制

学生生活を「就職」「資格」の両面からトータルサポート。

大学は将来の進路を決める大切な時期。だからこそ自分の将来像を早めに明確にし、その実現に向けたテーマを持って、4年間を送ることができるかがキーポイント。キャリアセンターは、進路決定・就職活動の支援や公務員試験対策・各種資格取得の支援を実施しており、低学年から学生の希望進路の決定と実現をトータルにサポートします。



学生の未来づくりをトータルに支援するキャリアセンター



学生一人ひとりの理想の進路・就職の実現

※プログラムの内容は変更することがあります。

個別指導担当制

キャリアセンター職員が担任のように個別相談にのりながら、希望する進路と一緒に考える『個別指導担当制』をとっています。キャリア支援専門の国家資格(国家資格キャリアコンサルタント)を所持している職員が多数在籍していることも強みです。

情報工学部、理工学部、薬学部においては、所属する学科や研究室の指導教員が中心となって就職指導を実施しています。学部の特徴をふまえて、教員と職員が連携を図り、学生と希望する企業などへの就職を目指します。

・個人面談相談件数 21,497件(2024年度実績)

進路や就職活動に関する個別相談のほか、エントリーシート・履歴書など応募書類に記載する強みを一緒に考えたり、模擬面接での自分らしさを伝える練習、求人票の照会などを行なっています。



学内企業研究セミナー

就職支援の大きな柱となっているのが、学内企業研究セミナーです。文理総合大学、大規模大学ならではのスケール感、OB・OGとのつながりを活かし、さまざまな業界から約900社の企業をお招きして実施しています。このイベントがきっかけとなり、参加学生の多くの内定・就職につながっています。

・講座形式 ー視野を広げ自分に合う業界を探すー

複数企業による、トークセッション形式で行う業界・仕事理解セミナーです。

『異業種コラボトークセッション』は、「海外との交流」や「都市・街づくり」といったテーマに沿って異業種の企業を招き、関連性や共通点についての理解を深めると共に、学生自身の価値観から業界や仕事に対する視野を広げる機会としています。

『同業種コラボトークセッション』は、「自動車業界」や「食品業界」といった括りで同じ業界内でも異なる仕事や役割を果たす企業を招き、特色や強みを比較しながら学生自身が関心の高い業界や企業に対する理解を更に深める機会としています。



・ブース形式 ー自分に合った企業を探すー

学生ホールにて各企業のブースで、事業内容の概要やインターンシップ等の情報、入社後の仕事内容ややりがいについて、近距離・少人数で説明を受けたり、個別に質問ができるイベントです。多くの学生が短時間で複数の企業と出会い、自身の希望や適性を踏まえながら、実際に応募する企業を探す機会となっています。



エアライン就職サポート【M-CAP】CA/GS/パイロット/整備士/総合職

全学部・全学年対象です。【M-CAP】は、エアライン業界（CA、グランドスタッフ、パイロットなど）にチャレンジしたい人のための就職サポート。航空会社や外部のキャリア講師などの協力の下、低年次から就職活動年次まで徹底的にサポートします。エアライン業界を目指す人はもちろん、「人と接することが好き」「ホスピタリティに興味がある」学生にも最適な「JALホスピタリティ講座」も開講。各学年に合わせた多彩なプログラムを展開しています。

▶過去内定実績

全日本空輸(ANA)、日本航空(JAL)、フジドリームエアラインズ(FDA)、カタール航空、キャセイパシフィック航空、スターフライヤー、ANA中部空港、ドリームスカイ名古屋、ANAエアポートサービス、ANA成田エアポートサービス、JALスカイ、JALエンジニアリング、中日本航空、航空大学校 ほか



【M-CAP】のプログラム紹介はこちらから
<https://www.meijo-u.ac.jp/mcap/>

インターンシップ・仕事体験

名城大学では、インターンシップ・仕事体験を学生が自身の就職・進路について考える機会として位置付け、主に年2回の長期休暇(夏季と春季)を利用して、全ての学生に積極的な参加を推奨しています。

また、インターンシップを成長機会として活用できるよう、学生には学内事前研修を通じて、参加目的の設定や事前準備、実習中の取り組み方、就活マナーへの理解を深めた上で、実習に臨ませています。



公務員試験・資格取得対策講座

キャリアセンターでは、公務員試験・資格取得対策講座として、有名専門学校との提携講座を『名城大学キャンパス内(インスクール)』において廉価で実施しています。受講生にとって『通学時間・費用』が節約できます。高難易度の国家資格からパソコン・英語関連資格、公務員試験対策など多種多様な講座を開講し、受講生のニーズに応えています。また、合格奨励制度などの支援も充実しており、毎年多数の学生が受講しています。

2025年度 開講講座一覧

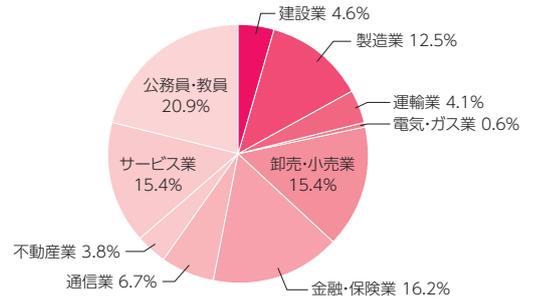
公務員	情報・語学	ナゴヤドーム前キャンパス
THE公務員 地方上級・国家一般(行政職)完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 地方上級(政令市・県庁)【教養区分】(3年生対象)※模試含む THE公務員 理系(技術職・工学の基礎)完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 理系(技術職・農学の基礎)完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 市町村・警察・消防 完全マスター(3年生対象)※模試含む THE公務員 SPI専願マスター(3年生対象) *1・2年生から「フィックスター公務員基礎&SPI(1・2年生対象)公務員 模擬試験(国家一般、国税、地方上級志望型) ※模試のみ(講座非受講者対象) 公務員 模擬試験(警察官・消防官・市町村職員志望型) ※模試のみ(講座非受講者対象) 公務員 模擬試験(技術職対応)※模試のみ(講座非受講者対象)	基本情報技術者 ITパスポート MOS365(Word) 夏期集中コース MOS365(Excel) 夏期集中コース MOS365(Word) 春期集中コース MOS365(Excel) 春期集中コース TOEIC®L&R 試験対策講座(前期火曜) TOEIC®L&R 試験対策講座(後期火曜) TOEIC®L&R 試験対策講座(夏期集中)	THE公務員 市町村・警察・消防 完全マスター(3年生対象)【ドーム前】※模試含む THE公務員 SPI専願マスター(3年生対象)【ドーム前】 *1・2年生から「フィックスター公務員基礎&SPI【ドーム前】(1・2年生対象)簿記3級(秋スタート11月受験目標コース)【ドーム前】 ITパスポート【ドーム前】 TOEIC®L&R 試験対策講座(前期)【ドーム前】 TOEIC®L&R 試験対策講座(後期)【ドーム前】 TOEIC®L&R スコアアップコース(春期集中)【ドーム前】 世界遺産検定2級【ドーム前】 秘書検定2級・準1級【ドーム前】 マナー・プロトコル検定3級【ドーム前】 通関士【通信教育講座】 ※天白・ドーム共通
行政書士 宅地建物取引士(A) 宅地建物取引士(B) 宅地建物取引士(A)(再受講者) 宅地建物取引士(B)(再受講者) 司法書士 入門 司法書士 入門(再受講者) 司法書士(書式基礎)	危険物取扱者(乙種第4類) 旅行業務取扱管理者 旅行業務取扱管理者(再受講者) 世界遺産検定2級 建築士1級(中級) ※4年生対象 建築士1級(中級) ※4年生対象(再受講)2024年度以前の受講者対象 建築士1級(中級) 後期・web配信のみ ※4年生対象 技術士補(農業+基礎・適性) 技術士補(環境+基礎・適性) 技術士補(建設+基礎・適性) 通関士【通信教育講座】 ※天白・ドーム共通	
簿記3級(春スタート6月受験目標コース) 簿記3級(秋スタート11月受験目標コース) 簿記2級(冬スタート12月受験目標コース) 簿記2級(冬スタート6月受験目標コース) 2級フィナンシャル・プランニング技能士		

その他 公務員講座受講生対象の※「OHASHI QUEST」(無料)あり
 ※「OHASHI QUEST」(全15回 予定)
 公務員試験の徹底的な対策(苦手分野の克服・小論文・面接 等)のほか公務員OB・OGから実体験談を聞く・相談するなど幅広い視野で学習しながら理解を深めるプログラム
 ※開講講座は毎年見直し、充実を図っていますので、年度により異なる場合があります。
 ※最少開講人数に達しない場合、その他諸事情により開講できない場合があります。

法学部

▶主な就職先

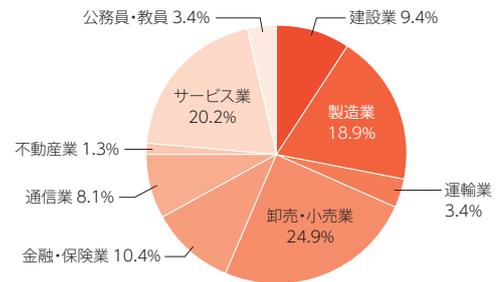
弁護士法人愛知総合法律事務所/アクセンチュア/NTTデータ東海/大垣共立銀行/関西電力/ジェイテクト/住友電装/積水ハウス/中日新聞社/中部電力/トーエネック/トヨタ自動車/トヨタ車体/名古屋鉄道/日東工業/ニトリ/ファーストリテイリング/一般財団法人ファインセラミックスセンター/ファンケル/メイドー/ヤマザキマザック/名古屋国税局(国税専門官)/法務省 岐阜地方方法務局/愛知県庁/沖縄県庁/岐阜県庁/豊田市役所/名古屋市役所/愛知県警察本部/名古屋市消防局



経営学部

▶主な就職先

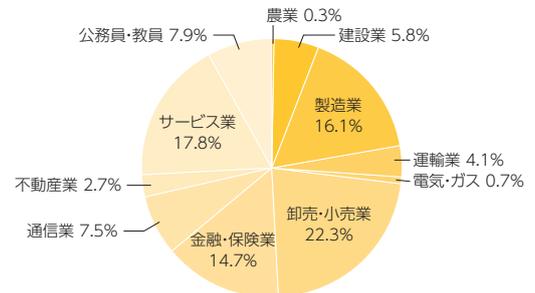
アース製薬/アイカ工業/あいちフィナンシャルグループ/アイネス/イオンモール/伊勢湾海運/オカムラ/おやつカンパニー/クリナップ/国分中部/サイバーエージェント/CKD/住友林業/積水ハウス/東邦液化ガス/トヨタシステムズ/豊田自動織機/ニチアス/林テレンプ/パロマ/FUJI/ホーユー/星野リゾート・マネジメント/マキタ/独立行政法人水資源機構/三菱自動車工業/良品計画/名古屋国税局(国税専門官)/愛知県庁/岐阜県庁



経済学部

▶主な就職先

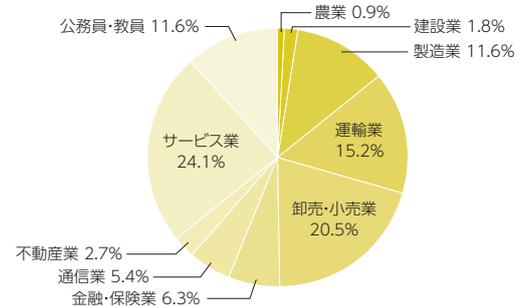
あいおいニッセイ同和損害保険/愛知中部水道企業団/井村屋/ANA中部空港/大垣共立銀行/河村電器産業/近畿日本鉄道/小島プレス工業/三協立山/ジェイアール東海ホテルズ/十六フィナンシャルグループ/Sky/住友電装/積水ハウス/東京エレクトロニクス/東邦液化ガス/トーエネック/トヨタ自動車/トヨタファイナンス/名古屋銀行/日本道路/百五銀行/マキタ/山崎製パン/LIXIL/リコージャパン/経済産業省 中部経済産業局/財務省 名古屋税関/名古屋市役所/警視庁



外国語学部

▶主な就職先

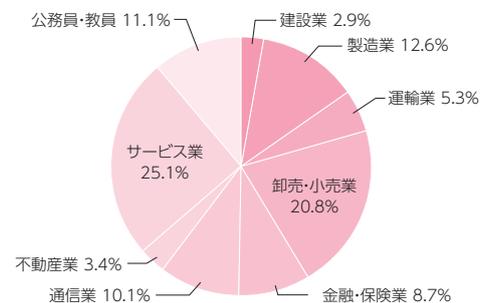
アイホン/ANAウイングス/ANA中部空港/大和ハウス工業/タカラトミー/中電シーティーアイ/東映アニメーション/東武トップツアーズ/独立行政法人都市再生機構/トヨタ自動車/長田広告/中日本高速道路(NEXCO中日本)/名古屋鉄道/日本通運/ニデック/ニトリ/日本航空/Forvis Mazars Japan有限責任監査法人/フジドリームエアラインズ/プラス/星野リゾート・マネジメント/三井物産グローバルロジスティクス/名港海運/メルセデス・ベンツ日本合同会社/良品計画/レイ・ヴィトンジャパン/財務省 名古屋税関/高山市役所/愛知県警察本部/愛知県教育委員会



人間学部

▶主な就職先

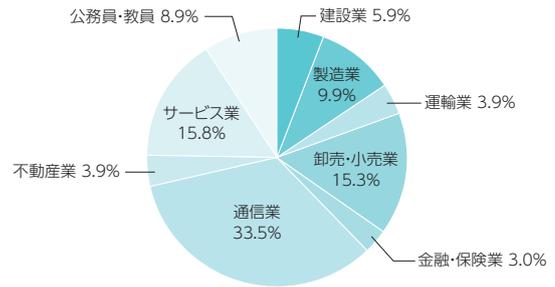
アイリスオーヤマ/ANAウイングス/ANAエアポートサービス/オークマ/大塚商会/岡崎信用金庫/住友電装/セーレン/一般財団法人中部電気保安協会/デンソーウェーブ/トヨタ自動車/ドリームスカイ名古屋/名古屋銀行/日本郵政/パナソニックホームズ/ファーストリテイリング/フジドリームエアラインズ/ブラザー工業/Plan・Do・See/名港海運/メニコン/リゾートトラスト/多治見市役所/知多市役所/常滑市役所/中津川市役所/名古屋市役所/半田市役所/東京消防庁/三重県教育委員会



都市情報学部

▶主な就職先

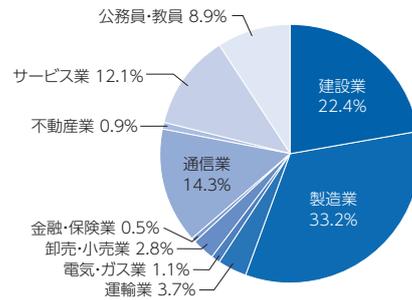
アドヴィックス/アビームシステムズ/イオンモール/一条工務店/NECソリューションイノベータ/NTT東日本-南関東/大垣共立銀行/キヤノンシステムアンドサポート/ジェイアール東海ホテルズ/システムリサーチ/SUBARU/西濃運輸/中電シーティーアイ/デンソーソリューション/デンソーテクノ/東海旅客鉄道(JR東海)/トーテックアメニティ/ニトリ/日立システムズ/富士フイルムビジネスイノベーションジャパン/Plan・Do・See/ホシザキ/三井不動産リアルティ/Mizkan J plus Holdings/三菱電機ソフトウェア/厚生労働省 愛知労働局/愛知県庁/岡崎市役所/豊田市役所/名古屋市府所



理工学部

▶主な就職先

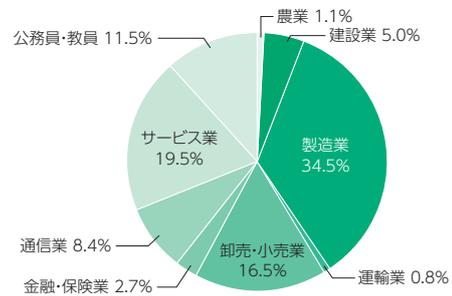
アイシン/愛知製鋼/アドヴィックス/アビームシステムズ/一条工務店/イビデン/NTTデータMSE/オーエスジー/大林組/鹿島建設/近畿日本鉄道/ジェイテクト/清水建設/Sky/スズキ/住友電装/住友理工/積水ハウス/ノーロバルコンピュータリング & ソリューション/大成建設/大同特殊鋼/大和ハウス工業/竹中工務店/中部電力/ディー・エヌ・エー/デンソー/東海理化電機製作所/東海旅客鉄道(JR東海)/東京エレクトロングループ/東邦ガス/TOPPAN/豊田合成/トヨタシステムズ/トヨタ自動車/豊田自動織機/トヨタ車体/トヨタ紡織/中日本高速道路(NEXCO中日本)/名古屋鉄道/西日本旅客鉄道(JR西日本)/ノリタケ/浜松ホトニクス/阪和興業/日立システムズ/富士ソフト/ポッシュ/三菱自動車工業/三菱重工業/メニコン/ヤマザキマザック/ヤマハ発動機/楽天グループ/LIXIL/リンナイ/YKK AP/気象庁/国土交通省 中部地方整備局/愛知県庁/名古屋市府所(機械・電気・建築・土木)/愛知県教育委員会



農学部

▶主な就職先

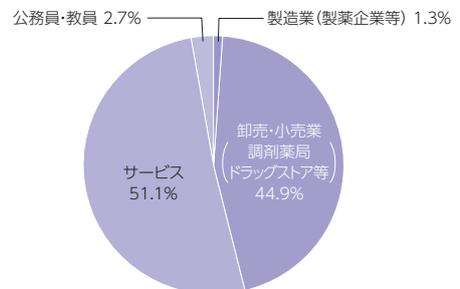
愛知県経済農業協同組合連合会(JAあいち経済連)/アピ/いであ/伊藤園/伊藤忠食品/イノチオグループ/イビデン/カネコ種苗/カルビーポテト/JERA/スタンレー電気/中部飼料/豊田合成/トヨタ自動車/日亜化学工業/ニチレイフーズ/日本メナード化粧品/国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構/ノリタケ/ホーユー/独立行政法人水資源機構/三菱食品/三菱電機ソフトウェア/メニコン/森永製菓/山崎製パン/農林水産省(植物防疫所・東海農政局)/愛知県庁(農学・農業土木・環境工学・警察職員)/岐阜県庁(行政・農学)/三重県庁(農学)



薬学部

▶主な就職先

学校法人愛知医科大学 愛知医科大学病院/愛知県厚生農業協同組合連合会 海南病院/アイングループ/イーピーエス/ウエルシア薬局/エーザイ/科研製薬/岐阜県厚生農業協同組合連合会(JA岐阜厚生連)/岐阜市民病院/杏林堂薬局/協和ケミカル(キョウワ薬局)/クオール/興和/独立行政法人国立病院機構/スギヤマ薬品/社会福祉法人聖隷福祉事業団/たんぽぽ薬局/(大)東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院/トヨタ自動車 トヨタ記念病院/豊橋市民病院/公立大学法人名古屋市立大学 名古屋市立大学病院/日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第一病院/日本赤十字社 伊勢赤十字病院/日本調剤/公益財団法人浜松市医療公社 浜松医療センター/ファインメディカル/学校法人藤田学園 藤田医科大学病院/地方独立行政法人三重県立総合医療センター/愛知県庁(薬剤師)/静岡県庁(薬剤師)



■ 海外協定締結先一覧(2025年5月1日現在)

アメリカ	アリゾナ大学	中国	内蒙古大学	韓国	慶熙大学校		
	オレゴン州立大学		内蒙古農業大学		高麗大学校		
	サンフォード大学		河北工業大学		忠南大学校		
	テキサス大学ダラス校		桂林理工大学		全南大学校		
	ニューヨーク市立大学ハンター校		江南大学		東亜大学校		
	ハワイ大学マノア校		上海師範大学		東国大学校		
	ポートランド州立大学		上海大学		インド	インド工科大学ダンパード校	
	マレー州立大学		上海同済大学アジア太平洋研究センター			シュリーキャランナレンドラ農業大学	
	南オレゴン大学		首都経済貿易大学			デンプ人文科学大学	
	カナダ		南カリフォルニア大学		韶関学院	インドネシア	アイルランガ大学
			ユタ工科大学		新疆農業大学		ブラウィジャヤ大学
			ルイスクラーク州立大学		瀋陽薬科大学	スリランカ	スリジャヤワルダネプラ大学
	メキシコ		カルガリー大学		清華大学		ペラデニヤ大学
			ケベック大学モントリオール校		浙江大学	タイ	カセサート大学
ブロック大学		大連交通大学	キングモンクット工科大学トンブリ校				
オートノマス・メトロポリタン大学	中国三峡大学	コンケン大学 人文社会学部					
イギリス	パハカリフォルニア自治大学	中国薬科大学	チュロンコン大学				
	ウエストミンスター大学	天津城建大学	ラジャマンガラ工科大学タニヤプリ校				
イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学	天津大学	ネパール	トリバン大学 工学研究所			
	トルヴェルガタ大学ヴォルテラセンター	南開大学		フィリピン	デラサル大学		
オランダ	ライデン大学	南京工業大学	フィリピン大学				
	ジャウメ1世大学	北京建築大学	ベトナム	ダナン外国語大学			
ドイツ	北京第二外国語大学	ハノイ教育大学					
ノルウェー	オスロ大学	香港教育大学		ハノイ経営工科大学			
フランス	アルザス・欧州日本学研究所	マカオ大学	ベトナム交通運輸大学				
	INSEECグループ	台湾	ベトナム国立大学ハノイ校				
	サヴォア・モンブラン大学		ホーチミン市外国語・情報技術大学				
ナンシー商業学院	元智大学	ホーチミン市開発研究所					
ポーランド	ワルシャワ大学	国立台中科技大学	マレーシア	テイラーズ大学			
リトアニア	ヴィルニウス大学	国立台湾科技大学		マラヤ大学			
ロシア	国立中山大学	国立台湾大学	ミャンマー	マンダレー大学			
	太平洋国立大学	真理大学		ヤンゴン外国語大学			
オーストラリア	世新大学	中原大学					
エジプト	キャンベラ大学	輔仁大学					
	ウィーンズランド工科大学	銘伝大学					
モロッコ	ディーキン大学						
	エジプト日本科学大学						
ザガジク大学							
アル・アハワイン大学							

▶ 交換留学

本学と協定を締結している海外の大学と相互に学生を派遣する留学制度で、本学へ授業料を納入することで交換留学先の授業料が免除されます。留学期間は半年または最長1年間で、現地での学修成果は、学部ごとの審査に基づき、本学の単位として認定されます。(ただし、単位認定を保証するものではありません。)参加学生を経済的に支援するため奨学金制度(給付型)も充実させています。

■ 交換留学協定先の一例

協定先大学
ウィーンズランド工科大学(オーストラリア)
アウクスブルク大学(ドイツ)
オスロ大学(ノルウェー)
ニューヨーク市立大学ハンター校(アメリカ)
ユタ工科大学(アメリカ)
北京第二外国語大学(中国)
真理大学(台湾)
東国大学校(韓国)

■ 奨学金制度 (いずれも返金不要)

派遣交換留学奨学生	受入れ交換留学奨学生(寮費相当額)
渡航地域により 月額4万円~6万円	月額2.5万円

▶ 海外英語研修

長期休暇期間を利用した2週間~5週間の語学研修です。英語力の向上はもとより、異文化理解も深めることにより、グローバル社会を生き抜く力を身につけます。プログラムと奨学金制度の拡充を行い、より参加しやすい研修となりました。

■ 2024年度 参加人数

夏期英語研修	春期英語研修
44名	82名
6ヶ国 7プログラム	5ヶ国 7プログラム

■ 奨学金制度 (返金不要)

	海外英語研修派遣支援 A奨学生
給付金額	最高20万円
給付人数	年間180名

▶ グローバルキックオフプログラム

海外の学生との交流や文化体験などを通じて、海外初心者の世界への第一歩を後押しする超短期プログラムです。2024年度は韓国でプログラムを実施しました。

▶ 海外ボランティア・インターンシッププログラム

海外でボランティアやインターンシップを行うプログラムです。2024年度には、フィリピン・セブにおいて、NGO施設の孤児院でボランティア活動や、マクタン・セブ国際空港などでインターンシップを行いました。プログラムを通して、視野を広げ、国際感覚を磨くとともに、主体性など社会人基礎力も身に付けます。

▶ 国際専門研修

専門領域に根差した国際交流経験と英語の実践的な運用を行う機会を設けることを目的として、各学部・研究科の教員が企画・運営を行う本学ならではのプログラムです。渡航費用や実施費用の一部を大学が支援することで、学生の費用負担を抑えながらも質の高いプログラムを展開しています。

外国人留学生国籍別在籍者数推移 (各年度5月1日現在)

外国人留学生(人)

年度	合計	中国	香港	台湾	韓国	ベトナム	ミャンマー	インド	ネパール	モンゴル	タイ	マレーシア	フランス	モロッコ	インドネシア	パキスタン	ウズベキスタン	バングラデシュ	アメリカ	スラバカ	エジプト	ルカエ	オーストラリア	ポーランド	ドイツ	メキシコ	チリ
2016	223	184		12	4	5	5		4			1	1	1	5	1											
2017	184	139		14	2	13	5		1		1	1			5	1		2									
2018	164	125		13	4	8	5		1			1			4	1		2									
2019	142	103		12	2	8	3		1	1	2	1			4	1		2	2								
2020	100	74		6	1	8	1		1	1	1	1			3			2		1							
2021	104	57		9	2	12	4			1	3	1			3		1	1		1	1	8					
2022	76	45		6	2	13	3				2				2		1	1		1							
2023	76	37		8	4	13	1								2		1	1	4	1			1	1	1		
2024	89	37		19	7	11	2								2		1	1	1						3	5	
2025	78	28	1	11	8	8	4	1	1						3		2	1	6					1	2	1	

※2021年度:入国予定者および入国せずオンライン等で授業を受けている学生含む

外国人留学生在籍者数 (2025年5月1日現在)

※()内は女子内数(人)

区分	学部・学科	年次				計	中国	香港	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	インド	ネパール	ウズベキスタン	アメリカ	ドイツ	メキシコ	チリ									
		1	2	3	4																									
学部	法学部	法学科	3(1)	4(1)	1	4(2)	12(4)	7(2)											1											
	経営学部	経営学科	1	3(1)	1(1)	2	7(2)	2		1	3(1)		1(1)																	
		国際経営学科	1(1)	2(1)	1	2(1)	6(3)	1		1	2(1)		2(2)																	
	経済学部	経済学科	1(1)			2(1)	3(2)	2(1)					1(1)																	
		産業社会学科			1		1	1																						
	理工学部	数学科																												
		情報工学科																												
		電気電子工学科		1			1					1																		
		材料機能工学科																												
		応用化学科																												
		機械工学科																												
		交通機械工学科																												
		メカトロニクス工学科																												
		社会基盤デザイン工学科																												
		環境創造学科																												
	建築学科																													
	情報工学部	情報工学科																		1(1)										
	農学部	生物資源学科			1		1					1																		
		応用生物化学科																												
	生物環境科学科																													
薬学部	薬学科																													
都市情報学部	都市情報学科					2(1)	2(1)	1										1(1)												
人間学部	人間学科	1(1)					(1)																1(1)							
外国語学部	国際英語学科																													
学部 合計			8(4)	11(3)	3(1)	12(5)	34(13)	14(3)		2	7(4)	2	4(4)	1(1)	1		1(1)	2												

区分	課程・研究科	年次				合計	中国	香港	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	インド	ネパール	ウズベキスタン	アメリカ	ドイツ	メキシコ	チリ									
		1	2	3	4																									
大学院	博士課程	法学研究科																												
		経営学研究科																												
		経済学研究科																												
		理工学研究科	2(1)				2(1)	1								1(1)														
		農学研究科																												
		薬学研究科(4年制)		1(1)			1(1)					1(1)																		
	修士課程	都市情報学研究科																												
		総合学術研究科																												
		法学研究科																												
		経営学研究科	2(1)	1			3(1)			1	1(1)				1															
経済学研究科																														
理工学研究科		4(1)	2			6(1)	6(1)																							
農学研究科																														
都市情報学研究科																														
人間学研究科																														
総合学術研究科																														
大学院 合計			8(3)	4(1)			12(4)	7(1)		1	1(1)	1(1)		1	1(1)															

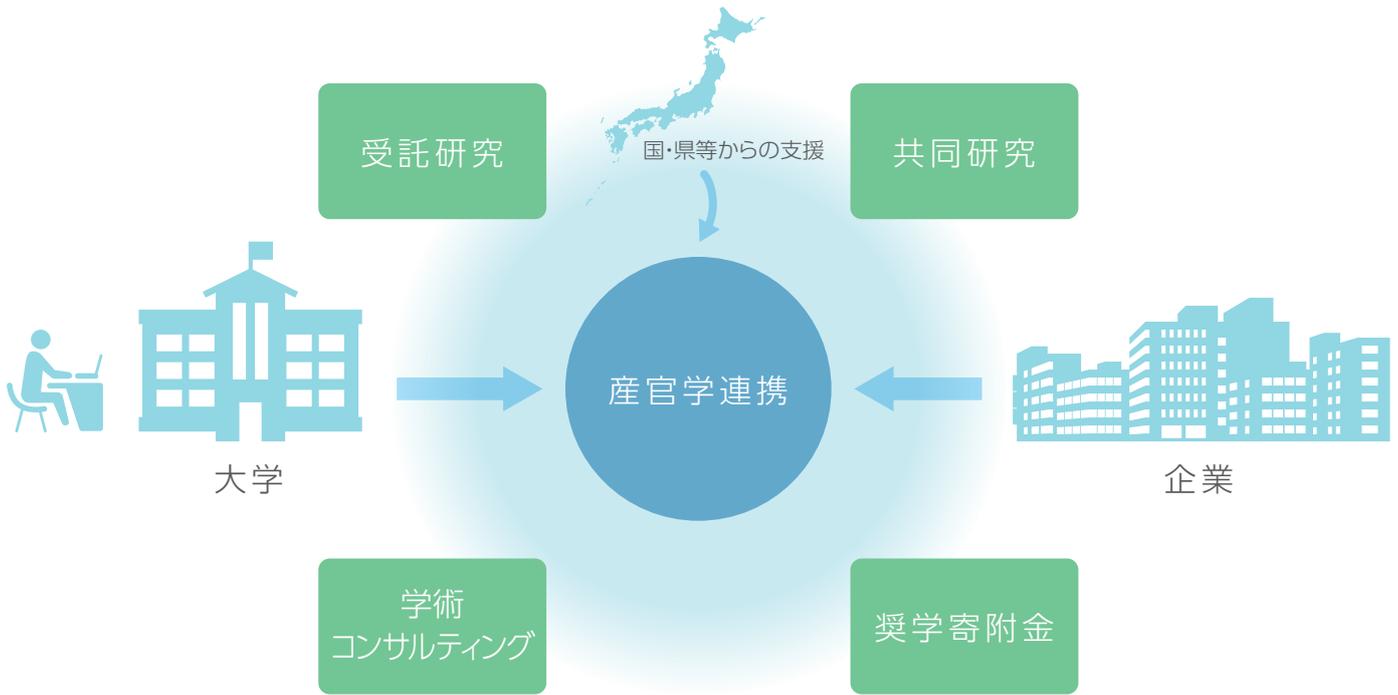
区分	学部・研究科	計	中国	香港	台湾	ベトナム	インドネシア	ミャンマー	バングラデシュ	韓国	インド	ネパール	ウズベキスタン	アメリカ	ドイツ	メキシコ	チリ
研究生	大学院																
	学部																
研究生 合計																	
科目等履修生	経営学部	12(8)	4(2)		5(5)					3(1)							
	経済学部	1								1							
	都市情報学部	1(1)								1(1)							
	人間学部	6(6)	3(3)	1(1)	1(1)					1(1)							
	外国語学部	12(4)			2									6(2)	1(1)	2(1)	1
科目等履修生 合計		32(19)	7(5)	1(1)	8(6)					6(3)			6(2)	1(1)	2(1)	1	

産官学連携

■ 名城大学における産官学連携

名城大学は、社会貢献を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置づけ、産官学連携による社会貢献に積極的に取り組んでいます。名城大学の教育・研究で得られた知の成果を広く社会に還元し、我が国の産業の持続的発展及び文化の発展に寄与します。本学は、10学部9研究科を擁する文理融合型総合大学であり、幅広い研究領域と研究シーズを備えています。

大学研究室が産業界の力になります。



受託研究

民間企業等から委託を受けて研究を実施し、成果を委託者に報告します。

共同研究

民間企業等の研究者と共通の研究課題について、分担して研究を実施します。

学術コンサルティング

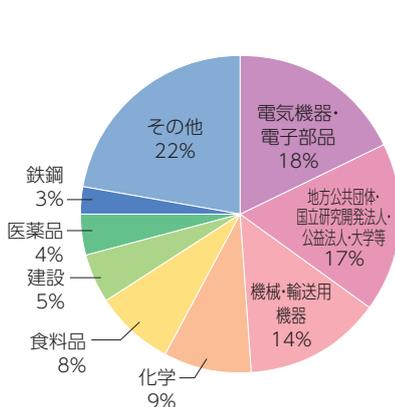
民間企業等から委託を受けて、教育・研究及び専門知識に基づいた指導や助言を行います。

奨学寄附金

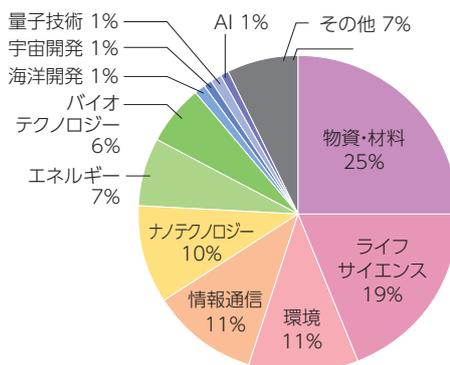
民間企業等から教育・研究を奨励する目的とする経費に充てるべきものとして受け入れ、指定の対象や目的に沿って使用します。

■ 2024年度 産官学連携データ (2025年3月31日現在)

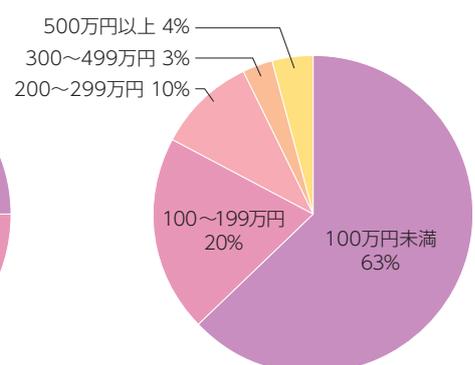
業種(企業数)



研究分野(研究課題数)



年間研究資金受入額

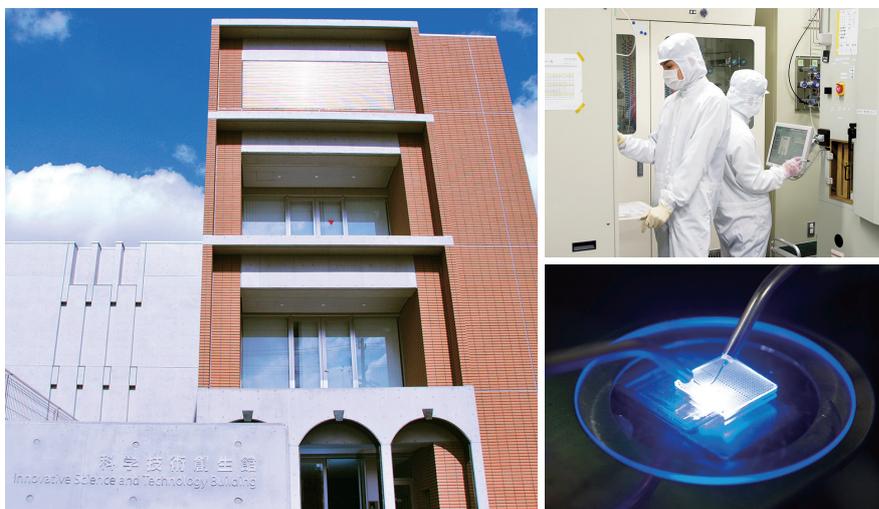


■ LED共同研究センター

名城大学は青色発光ダイオード(青色LED)を発明し、2014年にノーベル物理学賞を受賞した故赤崎勇終身教授・特別栄誉教授をはじめ、LEDに関する研究者により、数多くの研究成果を創出しています。

2011年4月、これまで蓄積した研究成果を広く社会に還元するため、「LED共同研究センター」を設立しました。

同センターでは、最先端の施設設備を用いて、新たな事業の開拓を狙う企業との共同研究や、LED関連技術の知見・ノウハウを習得することを目的とした企業への技術指導など、社会のニーズに対応する革新的な技術開発を行い、産官学連携による産業活性化の一翼を担う研究開発拠点として研究活動を推進しています。



■ 特許保有件数

名城大学パテントポリシーを定め、研究成果の特許化を推進しています。本学では、特許をはじめとする知的財産権を、研究活動から創出された大学の重要な資産と位置づけています。これにより、研究者の創造的研究を促進するとともに、企業等へのライセンス活動を通じて、社会への技術移転を推進しています。また、特許化のサポートのため、URA(リサーチ・アドミニストレーター)を配置しています。

特許保有件数(2025年3月31日現在)

	件数
国内	218
海外	74
合計	292

2024年度に権利化された特許権一覧

代表発明者所属	発明の名称	出願国
理工学部	皮膚診断装置、皮膚状態出力方法、プログラムおよび記録媒体	米国
	皮膚の血管網を可視化する装置、方法およびプログラム	米国
	垂直共振器型発光素子	日本
	医療用処置具	中国
	制振装置、建物、応力付与部材及び制振装置の設置方法	日本
	摺動部品およびその製造方法	日本
	被膜を備える摺動部品及び被膜の形成方法	日本
	半導体の製造方法	日本
	半導体発光素子および半導体発光素子の製造方法	日本
	吸着装置	日本
	固体潤滑剤、摺動部品、固体潤滑剤の製造方法、及び摺動部品の製造方法	日本
	発光素子の製造方法、及び発光素子の水素の抜き出し方法	日本
	半導体素子および半導体素子の製造方法	日本
	半導体素子および半導体素子の製造方法	日本
	窒化物半導体素子	日本

代表発明者所属	発明の名称	出願国
理工学部	単層カーボンナノチューブの製造方法	日本
	半導体素子構造の製造方法	日本
	金属触媒層、金属触媒層の生成方法、グラフェンの生成方法、及びグラフェン	日本
	積層体及び積層体の製造方法	日本
	マイクロ流体デバイス	日本
	窒化物半導体発光素子	日本
	建設用パネル	日本
	LEDアレイ	日本
	半導体発光素子	日本
	4軸差動モジュール及びそれを利用した移動装置	日本
農学部	微生物の識別方法	米国
	微生物の識別方法	ヨーロッパ
薬学部	OCTを利用した軟骨診断装置	日本
	リスク評価システム、リスク評価方法およびコンピュータプログラム	日本

■ 学外研究資金データ

2024年度の名城大学における外部資金導入総額(国および民間企業等)は約8億5千7百万円です。
 この中には各省庁実施事業の競争的研究資金制度等で採択された資金が含まれています。

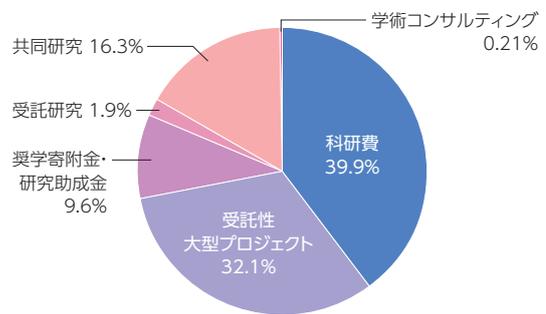
用語説明

- 科研費……………文部科学省および日本学術振興会が管理する学術研究を推進するための研究資金
- 受託性大型プロジェクト……………各省庁等からの競争的研究資金制度および委託による研究
- 奨学寄附金・研究助成金……………使用用途が、主として研究活動に指定された寄附金・研究内容の向上、達成を目的として支給される助成金
- 受託研究……………民間企業等から受託して行う研究
- 共同研究……………民間企業等から研究者および研究経費等を受け入れて、本学の教員が該当企業等の研究者と共通の課題について共同して行う研究
- 学術コンサルティング……………民間企業等から委託を受けて、教育・研究および専門知識に基づいた指導や助言を行う

2024年度 研究資金データ (千円)

研究資金種類	件数	金額
科研費(※1,4)	169	342,200
受託性大型プロジェクト(※1)	35	275,213
奨学寄附金・研究助成金	72	82,147
受託研究(※1,2,3)	21	16,015
共同研究(※1,3)	110	140,038
学術コンサルティング(※1)	7	1,840
合計	414	857,453

※1 間接経費、一般管理費を含む。 ※2 受託事業を含む。 ※3 LED共同研究センター利用を含む。
 ※4 件数は繰越、延長を含む。金額は交付内定時のものとし、繰越延長は含まない。



2024年度 受託性大型プロジェクト一覧

実施機関	管理法人(再委託元)	プロジェクト名	研究課題	学部・研究科	研究代表者名	選定年度
内閣府	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期/人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	住宅・ビル等の人協調ロボティクスの社会実装技術開発	理工学部	大原 賢一	2023年度選定
文部科学省	国立大学法人東海国立大学機構(名古屋大学)	革新的パワーエレクトロニクス創出基盤技術研究開発事業(パワーデバイス領域)	課題a~cを活用したデバイス作製技術、回路システム領域との連携	理工学部	竹内 哲也 宮嶋 秀夫	2021年度選定
農林水産省 水産庁	国立研究開発法人水産研究・教育機構	水産資源調査・評価推進事業/国際水産資源動態等調査解析事業	かつお・まぐろユニット/混獲サブユニット	農学部	新妻 靖章	2011年度選定
経済産業省	公益財団法人岐阜県産業経済振興センター	成長型中小企業等研究開発支援事業	省エネ・創エネ型高濃度窒素含有廃水浄化技術の開発と事業化	理工学部	竹内 哲也	2022年度選定
	公益財団法人岐阜県産業経済振興センター	成長型中小企業等研究開発支援事業	流動培養技術(微粉体麹化)を用いた食品廃棄物の高付加価値化(アップサイクル化)による機能性食品開発	農学部	加藤 雅士	2023年度選定
国土交通省	国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所	河川防砂技術研究開発公募/河川技術・流域管理分野 提案型課題(地域課題)	令和6年度 安倍川における河岸侵食発生条件・機構の解明と発生リスク対応策の提案	理工学部	溝口 淳子	2024年度選定
	国立大学法人京都大学	河川防砂技術研究開発公募/令和6年度越水時における河川堤防農法部の侵食量を評価する技術の開発	越流侵食に対する河川堤防性能評価手法の高度化に関する技術研究開発	理工学部	岡本 隆明	2023年度選定
	国立大学法人北海道大学	河川防砂技術研究開発公募/河川技術・流域管理分野 指定型課題	河床変動解析における不確実性評価と現場への適用に関する技術検討	理工学部	溝口 淳子	2024年度選定
	株式会社演算工房	建設技術研究開発助成制度	トンネル施工の生産性の向上と、施工に伴うCO2発生量及びその環境影響負荷を自動的に把握するシステムの調査研究及び開発	理工学部	小高 猛司	2024年度選定
環境省	————	革新的な省CO2型環境衛生技術等の実用化加速のための実証事業	高効率・長寿命深紫外LEDの技術開発と細菌・ウイルス不活化および脱炭素効果の実証	理工学部	竹内 哲也	2021年度選定
	日本エヌ・ユー・エス株式会社	ジフェニルアルシン酸等の健康影響に関する調査研究委託業務	ジフェニルアルシン酸による神経症状発症メカニズムの解明に関する研究	薬学部	根岸 隆之	2015年度選定
	————	研究成果展開事業/大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型(START)スタートアップ・エコシステム形成支援	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	————	大野 栄治	2021年度選定
	————	ムーンショット型研究開発事業 通常型/2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現	一人に一台一生寄り添うスマートロボット/スマートロボット用ミドルウェアの構築	理工学部	大原 賢一	2021年度選定
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)	————	研究成果展開事業/研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)産学共同(本格型)	高機能シス型アスタキサンチンエステル製剤の実用化研究	理工学部	本田 真己	2023年度選定
	————	大学発新産業創出基金事業(基金)/スタートアップ・エコシステム共創プログラム	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	————	大野 栄治	2023年度選定
	————	国際科学技術共同研究推進事業/戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)/e-ASIA共同研究)先端融合	臨空スマートシティ:2050年に向けた地域経済システムのためのビジネス-ライフ再生的革新「グレートウェイハブ」/DXユーザーフェースの開発	情報工学部	川澄 未来子	2023年度選定
	————	日本アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)/Aコース科学技術体験コース	名城大学薬学部の薬学研究と日本の文化を学ぶ	薬学部	高谷 芳明	2024年度選定
	————	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)/B.共同研究活動コース	持続可能な社会に向けた新規ナノカーボン材料に関する共同研究	理工学部	丸山 隆浩	2024年度選定

実施機関	管理法人(再委託元)	プロジェクト名	研究課題	学部・研究科	研究代表者名	選定年度
国立研究開発法人 新エネルギー・産業 技術総合開発機構 (NEDO)	———	燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業／水素利用等高度化先端技術開発	多機能OCTを用いた金属遺物非接触マイクロ断層検出システムの開発	理工学部	佐伯 壮一	2020年度選定
	———	NEDO先導研究プログラム／エネルギー・環境新技術先導研究プログラム	超高出力・多波長・集積型深紫外半導体レーザーの研究開発	理工学部	岩谷 素顕	2023年度選定
	———	官民による若手研究者発掘支援事業／マッチングサポートフェーズ	IoTに向けたイベントドリブ型ネットワークによる高速高精度分布センシング	理工学部	畑 良幸	2022年度選定
	自動車用内燃機関 技術研究組合	グリーンイノベーション基金事業／CO2等を用いた燃料製造技術開発プロジェクト	乗用車および重量車の合成燃料利用効率の向上とその背反事象の改善に関する技術開発	理工学部	宇佐美 初彦	2022年度選定
	脱炭素産業熱システム 技術研究組合 (DITS)	グリーンイノベーション基金事業／製造分野の熱プロセスの脱炭素化	製造分野の熱プロセスの脱炭素化	理工学部	武藤 昌也	2023年度選定
国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構(AMED)	学校法人東海大学	医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業／戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)	日・リトアニア共同研究	薬学部	杉山 栄二	2024年度選定
	国立大学法人大阪 大学	創薬基盤推進研究事業	吸入siRNA粉末製剤を用いた呼吸器感染症の新規治療法に関する研究開発	薬学部	奥田 知将	2024年度選定
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構(JAXA)	———	第3回地球観測研究公募共同研究	長期衛星搭載降水レーダーデータによって精緻化する降水気候値の時間変化と空間的な不確実性	理工学部	広瀬 正史	2022年度選定
	———	戦略的開発研究費(工学)	実宇宙機プロジェクトにおける高精度指向制御達成に向けたモーションコントロール技術の研究開発	理工学部	宮田 喜久子	2022年度選定
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	———	———	草刈りロボット遠隔操作システムの開発	理工学部	大原 賢一	2024年度選定
国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	国立大学法人東京 大学	戦略的イノベーション創造プログラム(第3期)/統合型ヘルスケアシステムの構築における生成AIの活用	高信頼・高性能医療LMMの研究開発と社会実装	理工学部	堀田 一弘	2024年度選定
農業・食品産業技術 総合研究機構 生物系特定産業技術 研究支援センター	国立大学法人高知 大学	戦略的スマート農業技術の開発・改良	肉牛の画像センシングによる発情および疾病検知技術の開発	理工学部	市川 明彦	2024年度選定
広島県	———	広島県カーボンサイクル関連技術研究開発支援事業補助金	ラジカル含有リチウム複合酸化セラミックスの常温水分解を利用した二酸化炭素からメタンへの転換技術開発	理工学部	土屋 文	2024年度選定
	———	広島県カーボンサイクル関連技術研究開発支援事業補助金	シアノバクテリアによるCO2を資源としたバイオエチレン生産事業化技術の開発	理工学部	神藤 定生	2024年度選定
公益財団法人科学 技術交流財団	———	産学協創チャレンジ研究開発事業(共同研究型)	高出力単一モード窒化物系量子殻レーザーの研究開発	理工学部	上山 智	2024年度選定
学校法人藤田学園 藤田医科大学	———	藤田医科大学研究開発支援	内視鏡下狭閉空間におけるVisual SLAM術中ロボット支援マイクロ断層診断システムの開発	理工学部	佐伯 壮一	2024年度選定
	———	藤田医科大学研究開発支援	複合材料バイポーラ凝固止血器の研究	理工学部	仙場 淳彦	2024年度選定

※2024年度に契約を締結したもの、または研究費の受け入れがあったものを掲載しています。

2024年度 科研費交付者一覧

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
法学部	基盤研究(C)	北見 宏介	合衆国の政府弁護士とその行動に関する規範的研究：法曹倫理規範の公法学的検討として
		佐藤 純恵	所得への下方ショックが教育投資を通じて世代の経済格差拡大へ与える影響に関する分析
		松本 俊太	アメリカ連邦議会内の政党組織の発達とその帰結：「疑似的な議院内閣制」への変化
		高松 淳也	日本の公共交通の持続可能性向上に向けた総合的研究
	研究活動スタート支援	矢嶋 光	戦間期日本の国際連盟外交と対ヨーロッパ中東外交一ポーランドを事例として
経営学部	基盤研究(C)	森 敏郎	英語史における義務と必要性を表す法助動詞の非人称用法の出現と消失について
		東田 明	サステナビリティ経営のためのマネジメントコントロールシステムの究明
		橋場 俊展	従業員による発言を担保する先進的マネジメントの理論的・実証的研究
		田代 樹彦	日本特有の経営者業績予想開示システムの変容と意義
	若手研究	山岡 隆志	カスタマージャーニーの質と顧客経験の関係性に着目した包括的研究
経済学部	基盤研究(B)	五十畑 浩平	フランスにの高等教育におけるデュアルシステムーその飛躍的発展の要因を解明するー
		新美 潤一郎	統合的に説明可能なマーケティング向けマルチモーダル深層学習モデルの開発
		李 秀ちよる	東アジアにおける原子力安全及びリスクの相互評価・協働取組に向けた国際枠組構築
		門 亜樹子	バルベラック道徳思想のスコットランド啓蒙における継承と展開の研究
	基盤研究(C)	壺内 慎二	役員報酬の構成・決定プロセスの開示が企業価値に与える影響の実証分析
理工学部	基盤研究(S)	野口 光宣	ブロックチェーン合意形成プロトコルのゲーム理論的安定性について
		勝浦 正樹	わが国における文化芸術統計の体系化-理論的枠組みの構築と体系的統計データ集の作成-
		川森 智彦	連続時間ゲームにおける戦略的制限
		杉本 大三	南インドにおける水路灌漑の質的劣化とその対策に関する総合的研究
	基盤研究(A)	竹内 哲也	ワイドギャップ半導体における不純物ドーピング伝導制御からの脱却
		岩谷 素顕	遠紫外線C波AlGaIn系電子線励起レーザー
		松田 和浩	ロッキング機構と各種ダンパーの併用による損傷制御型木質高層建物の開発
		林海 博央	高ひずみ感度を有する超高解像度ワシントン分光イメージングへの挑戦
		小高 猛司	自然災害時に脆弱化する「粘土もどき細粒土」人工地盤の安定性評価法と対策法の確立
		伊藤 昌文	安定同位体を用いたプラズマ支援バイオリアファイナリー科学の創成
基盤研究(B)	池本 有助	共鳴モード場に基づくテンセグリティ・水中ロボットの身体設計論の確立	
	松田 和浩	木質ラーメン構造における制振プレースの実装方法および具体的事例の構築	
	高井 宏之	大規模高層住宅団地における経年変化からみた持続可能性の展開	
	溝口 敦子(寺本敦子)	流域地質・河道縦断変化特性を考慮した砂州河道の局所洗堀等被災リスク評価手法の提案	
	成塚 重弥	グラフェンを用いたヘテロエピタキシャル成長の改善	
	長郷 文和	幽霊指標の解析によるノットコンタクトホモロジーのトポロジカルな性質の完全解明	
基盤研究(C)	目黒 淳一	衛星測位のマルチパスに注目した都市環境の特徴抽出による測位の高精度化	

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目
理工学部	基盤研究(C)	土屋 文	反跳粒子検出法を用いたリチウムイオン二次電池内の過渡的リチウム蓄積量評価法の確立
		道正 泰弘	環境配慮型材料としてのフライアッシュのコンクリート材料への大量利用に関する研究
		増山 岳人	報酬関数の外挿による非同一な動作主体間での模倣学習
		太田 真之	大電力パルスパッタ法を用いたカーボンイオンの高効率生成メカニズムの探求
		菅野 望	ヒドラジン誘導体/四酸化二窒素推進剤の自己着火に及ぼすエアロゾル凝集過程の検討
		武藤 昌也	個別の燃焼場特性に基づいたデータベース構築による高精度燃焼流動場予測
		山崎 彬人	パーソナルモビリティを対象とした搭乗者の視認対象物の可視化と周辺環境認知状態推定
		松本 幸正	GTFSを用いた階層型地域公共交通網の評価と地域への相応しさのAIによる判定
		米澤 貴紀	蓬左文庫蔵「伊藤満作家資料」の基礎的研究
		才田 隆広	単分子層モデル電極を用いた酸素還元反応に対する活性サイトおよび活性支配因子の特定
		今井 大地	次世代光源開発に資する窒化物系混晶半導体サブギャップ領域の光・熱物性制御指針解明
		西山 桂	毒劇物フリーな蓄光バイオマーカー（粒径20 nm）の開発と農作物罹病部の発光標識
		松村 昌紀	第二言語の多義語と類義語を包含する知識ネットワークの変容における創発的特質の解明
		齊藤 公明	超汎関数空間論に基づく確率解析による量子情報解析の新展開
		大西 良博	Gauss-Manin 接続を応用した偏微分方程式系による多変数 σ 函数の特徴づけの研究
		柴田 将敬	変分的手法の発展と非線形偏微分方程式や凸幾何学への応用
		松原 剛	回転翼機の損傷許容設計法の基になる微小欠陥を想定した多軸実働荷重疲労評価法の開発
		仙場 淳彦	面内超弾性および面外高強度を実現する可変強化配向性複合材料の構築と検証
		成田 浩久	デジタルツインを革新する人から人への技能伝承を指向した技能データベース構築
		中西 淳	系の力学的特性を利用した劣駆動系ロボットの効率的な運動学習制御
		益田 泰輔	系統制約を考慮した電力市場制度設計と市場を介した制約違反対策
		井上 真澄	シミュレーションによるボルテックス-フォノン協働型スイッチング・デバイスの開発
		石川 靖晃	特異形態を有するコンクリート構造における合理的なプレストレス評価手法の開発
		市之瀬 敏勝	柱と杭が二方向に偏心する基礎の力学と設計法
		鈴木 昌弘	電巻による列車転覆リスク評価のための空気力学解明
		土屋 文	イオンビームオペランド計測による充放電中のリチウム電池内のリチウムイオン移動解析
		三宅 克英	草食性陸ガニを用いた新規リグニンバイオマス分解システムの開発
		田崎 豪	物体姿勢に関する分類結果を利用したロボットによる未知物体整理
		森口 舞	英語圏カリブにおける奴隷制と植民地支配への賠償運動の研究
		竹田 圭吾	イオン照射表面における原子状ラジカル反応機構の定量解析と学理構築
		久保 貴	非平衡な気相自由乱流中でのスカラ散逸機構の解明と分子混合のモデル化に関する研究
		畑 良幸	超高精度・高速応答をともなったフィードバック制御式共振型マイクロ加速センサ
		中條 涉	広角カメラと狭角フォトダイオードを用いた全光測位・追尾による波長多重光無線通信
	岩下 健太郎	FRP接着補強効果への外的環境要因の影響と新たな補強材料の創出に関する研究	
	葛 漢彬	断面欠損評価に要素破壊時相当塑性変位を用いた土木鋼構造物の破壊解析手法の開発	
	中村 一樹	仮想環境を用いた街路の空間デザインと交通計画の統合的評価	
	寺西 浩司	建設3Dプリンティングに用いるモルタルのための体系化された調査設計法の構築	
	高橋 広人 (高橋広人)	新しいS波速度構造探査を旨としたラプ波の位相速度検出手法の開発	
	岡田 恭明	地域生活圏における総合騒音に与える航空機騒音の影響解明と評価指標モデルの構築	
	岡本 隆明	氾濫流・土石流による橋梁・家屋流失リスク評価と流木捕捉ネット工に関する研究	
	山本 伯春	スイゼンジノリが作る新奇UV吸収物質の生理機能と生合成制御	
	堀田 一弘	推論プロセスに教師信号を利用した少ない画像枚数からの学習	
	神藤 定生	高集積化酵素複合体を用いたCO2を資源とするエチレン生産	
田中 清喜	再生核ヒルベルト空間の解析		
佐藤 布武	三陸沿岸漁村における明治以降の複層津波復興景観		
遠藤 祐輝	ウェアラブルデバイスを用いた下肢血行動態センシングによる座位行動の減少方策の開発		
張 天昊	曲線折り紙による曲面展開構造システムの構築		
萩原 拓也	移転・分離を伴う漁業集落計画に関する研究		
村上 祐一	電界印加による冷凍保存下における固体食品の低温殺菌メカニズムの検討		
張 天昊	チューブ型曲線折り紙による構造システムの開発		
農学部	学術変革領域研究(A)	塚越 啓央	不均一生育温度に対する根の成長レジリエンスを司るVLCFAシグナル
	基盤研究(B)	大浦 健	ハロミックSPAAsの環境動態ならびに生体影響評価
		太田垣 駿吾	高需要バラ切り花品種の分子育種に向けたトゲ形成遺伝子と花弁形状制御遺伝子の同定
		藤原 和樹	植物病原細菌におけるアブシジン酸応答機構の解明
	基盤研究(C)	塚越 啓央	植物概日時計が果たす新たな成長制御メカニズムの解明
		近澤 未歩	腸管IgA抗体の特異性制御を介した多糖の機能性解析と疾患予防効果の検証
		香村 恵介	運動発達の見える化を可能にする簡便な幼児の運動能力測定法の開発と効果検証
		加藤 雅士	糸状菌における鉄恒常性維持の主要転写因子HapXと相互作用する因子の機能解析
		松儀 真人	アンチエントロピー制御を基点とする特異有機合成反応群の開発
		長澤 麻央	意欲障害モデルを用いた脳機能障害の栄養学的予防法の確立
		兒島 孝明	固相培養条件下の麹菌における遺伝子の動的発現制御機構の解明とその応用
		細田 晃文	銅耐性・還元細菌の育種による銅冶金廃材の再資源化を目指した研究
		市野 輝明	都市内の河川敷と周辺緑地に生息する哺乳類の多様性に及ぼす連結化と分断化の評価
		藤 茂雄	ニンジン種子胚と胚乳細胞における植物ホルモン関連遺伝子の機能解析
		上船 雅義	植物の食害特異的な光シグナルが創出する生物間相互作用に関する基盤的研究
		濱本 博三	藻類由来高分子質を用いる酵素酸化反応システムの開発
		平見 慎太郎	棚田保全活動の社会的な評価形成過程とその持続可能性
		近澤 未歩	食事組成の変化が抗体特異性に及ぼす影響の解析と生活習慣病との関与の解明
		長田 典之	温暖化が植食性昆虫を介して暖温帯林の樹木の展葉フェノロジーと葉形質に与える影響
		林 義明	カロテノイド蓄積昆虫の開発と飼料活用—高機能な鶏卵生産システム構築—
		挑戦的研究(開拓)	新妻 靖章
	若手研究	黒川 裕介	ガスフィルムとROLパリアの耐水性形質は同時に新たな育種目標となり得るのか？

所属部局	研究種目・方式	研究代表者名	研究題目	
薬学部	基盤研究(B)	大津 史子	Withコロナにレジリエントに対応できるVR教材と学修DXプラットフォームの開発と評価	
		奥田 知将	ウイルスベクターに適した粉末製剤設計による経肺・経鼻投与型遺伝子吸入粉末剤の開発	
		能勢 充彦	甘草配合漢方方剤の安全使用に向けた薬物動態データベースの構築	
		野田 幸裕	脳発達過程における免疫活性化に伴う高次脳機能の病態解明	
		西川 泰弘	無保護アミノ酸を利用する高効率ペプチド合成法の開発	
		坂井 健男	環化-転位-環化カスケードを基盤とする縮環アルカロイドの合成研究	
		原 脩	分子間Wacker型反応による位置選択的ヘテロ原子の導入法に関する研究	
		丹羽 敏幸	小児・高齢患者を指向した嚥下補助・計数調節機能を有するキセロゲル小球製剤の開発	
		今西 進	質量分析による環境中ラン藻類迅速同定・分類法の開発	
		間宮 隆吉	独自PTSDモデル動物を基盤とした新規治療薬と発症予測バイオマーカーの開発	
		吉見 陽	多階層（遺伝子-タンパク質-代謝物）の網羅的解析によるクロザピンの作用機序解明	
		衣斐 大祐	幻覚薬の抗うつ関連行動における神経・分子基盤の解明	
		根岸 隆之	有機ヒ素化合物の構造・細胞種・脳部位・毒性相関解析による脳神経系影響機序解明	
		水野 初	1細胞オルガネラインジェクション誘導体化による高感度細胞内局在分子分析法の開発	
		吉田 圭佑	Dixiamycin類の全合成および新規N-N結合形成反応の開発	
		基盤研究(C)	神野 透人	TRPA1依存的な侵害刺激の種差を生み出す分子構造の解明
			水本 秀二	UDP代謝酵素の変異に起因する遺伝性神経・免疫・骨疾患における発症機序の解明
			平松 正行	認知症予防効果におけるペタイン-GAT2連関の分子機構解明
			亀井 浩行	統合失調症患者の効果的な社会参加を促すための認知機能評価の開発
	加藤 美紀		がん細胞内異物解毒酵素のGSK3を介する新規発現調節機構の解明	
	湯川 和典		放射状グリア細胞体トランスロケーションと脳梁形成におけるアレキシンA3の役割解明	
	打矢 恵一		肺MAC症における薬剤耐性菌の迅速検出法の開発と新規抗菌薬の探索	
	橋本 和宜		インスリン分泌を制御する天然資源由来成分の探索と制御機構の解明	
	奥田 知将		室温保存および吸入剤応用に適したmRNA粉末製剤化技術の基盤構築	
	近藤 啓太		乾式混合処理による薬物結晶の非晶質化/ナノ粒子化に影響する材料・固体物性の解明	
	輪島 文明	薬剤耐性菌の水平伝播能に着目した潜在的耐性株の検出法と選択的排除法の構築		
	山田 修平	グリコサミノグリカン生合成不全による遺伝性疾患の生化学およびマルチオミクス解析		
	灘井 雅行	薬物動態学的アプローチによる炎症性疾患時における有効・安全な薬物療法の確立		
	都築 孝允	生体内硫黄代謝から解き明かす硫化合物と運動による肥満・糖尿病の改善効果		
	杉山 栄二	キラル誘導体イオン移動度質量分析によるD-アミノ酸イメージング法の開発		
	藤井 正徳	アトピー性皮膚炎におけるストレスによる痒みと脳内ニューロステロイドとの関係		
	若手研究	稲垣 孝行	喀痰からクラリスロマイシン耐性非結核性抗酸菌を直接検出する等温増幅法の開発	
青木 明		褐色脂肪細胞とベージュ脂肪細胞のミトコンドリア機能を促進する新たな治療法の探索		
酒井 隆全		医療ビッグデータを複合的に用いた妊婦の医薬品安全性に関するエビデンスの創成		
研究活動スタート支援	風岡 顯良	HLAの遺伝的多型に着目した、抗てんかん薬の薬物動態における個人差の解明		
研究成果公開促進費(データベース)	大津 史子	副作用・中毒に関する症例報告データベース		
都市情報学部	基盤研究(C)	柄谷 友香	被災者主導の住宅移転再建メカニズムの解明と復興市街地の空間的・社会的評価	
		杉浦 真一郎	2025年問題を見据えた地域包括ケアをめぐる圏域再編のあり方に関する地理学的探究	
		大野 栄治	住民参加型再エネ事業のための新たな環境経済評価手法の開発	
人間学部	基盤研究(C)	大野 沙知子	地域政策支援のためのトランス・モビリティ問題の特定と個人の価値判断把握手法の開発	
		西村 善矢	交渉の産物としての文書：中世初期カンパニア地方の農地契約文書に関する比較研究	
		伊藤 俊一	13~14世紀の気象災害と農業生産の変容-環境応答の歴史学の構築に向けて	
		畑中 美穂	新型コロナウイルス禍による救急活動のストレス：パンデミックに備えたストレス対策の提案	
		笠井 尚	学校図書館の空間整備と運営改善を図る総合的研究	
	若手研究	原田 知佳	自己制御教育プログラムの開発と効果検証	
		谷口 義則	地球温暖化による水温上昇と融雪出水増大が希少魚類の存続に及ぼす影響予測	
外国語学部	基盤研究(B)	西山 亮二	認知活動活性化操作パラダイムによる意味短期記憶保持メカニズムの解明	
		西尾 由里	小・中・高・大へ接続する包括的発音に関する到達目標及び評価のガイドライン構築	
	基盤研究(C)	松浦 周子(豊田周子)	東アジア女性による日本語詩歌創作とその主体性に関する研究-台湾と朝鮮を中心に	
		池 沙弥	Multimodal Discourse Analysis of Linguistic Landscapes: Life 'with Corona'	
		川上 綾	On the Efficacy of Process Drama as a Method of Teaching Collocations to Japanese University Students	
		P・D・Wicking	The potential of using student-conducted ethnographic research as a formative assessment tool in CLIL and EMI courses	
		藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成の創造	
	若手研究	津村 文彦	タイのパラモン教の流動性をめぐる人類学：東南アジアの視座からの宗教概念の再構築	
		Rothlan	A Longitudinal Study of the Relationship between Participation in a Comprehensive Exercise Program and Academic Achievement	
		柳沢 秀郎	キューバヘミングウェイ博物館写真系資料検索データベース構築プロジェクト	
特別研究員奨励費	宮下 大夢	アジア太平洋地域における虐殺予防ガバナンスの形成		
教職センター	基盤研究(C)	安達 孝信	自然主義文学運動におけるパリ郊外の表象-印象派美術との共闘	
		木村 美奈子	幼児期における自己映像理解の発達モデルの構築	
		谷口 正明	教師の一人称視点に注目した授業技術改善に関する研究	
情報工学部	基盤研究(C)	平山 勉	映像記録の特性を活かした授業研究方法-教師視点映像記録の分析に基づいて-	
		吉川 雅弥	AI知財保護・汚染モデル除去を指向した連合学習の実行プラットフォーム	
		寺本 篤司	画像生成AIとの循環的・敵対的学習に基づく画像所見生成AIの開発	
	坂野 秀樹	声道形状制御に基づく声質制御性および可視化性の高い音声分析合成手法の開発		
若手研究	野崎 佑典	エッジデバイスを指向した耐タンパなAIの開発		

学術研究

文部科学省経常費補助金事業(2023年度~2025年度)

私立大学等研究設備整備費等補助金 研究設備(私大研)

設備名	学部・研究科等名	申請年度
走査型プローブ顕微鏡	理工学部	2023年度

■ 総合研究所

産官学の共同による学際的な研究を推進。

総合研究所は学部学科や産官学の枠を超えて学際的な共同研究を推進するため、1994年に開設されました。研究所では研究テーマを「自然・環境部門」「人文・社会システム部門」「人間科学部門」「物質科学部門」の4領域とし、相互に連携しつつ、最高水準の研究成果をめざします。また、研究成果を広く社会へ還元するため、「総合研究所紀要」の発行や、セミナー・シンポジウムの主催などを通して、取り組みの内容を積極的に公開しています。また、学術研究奨励助成制度として、「プロジェクト部門」と「研究センター部門」、「大学領域指定研究支援部門」に分け、研究助成を行っています。

最新の情報は本学ウェブサイトをご覧ください。

2025年度 総合研究所 研究課題一覧(2025年5月1日現在)

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題
法学部	足立 和彦	ギ・ド・モーパッサンのレアリズム美学の生成と発展	長谷川 乃理	韓国における商法典の成立と改正
	伊川 正樹	譲渡所得課税に関する日米法比較	前田 智彦	法使用行動に対する評価の規定要因の実証的研究 ―サーベイ実験によるアプローチ―
	伊藤 亮吉	目的犯と処罰の前置化における理論的基盤の確立に関する研究	松田 恵美子	社会秩序維持方法追求のために制定法、道徳的規範、個人の自律力の相互関連を検討する
	飯屋 篤子	不正行為における被害法益と損害についての研究	柳澤 武	雇用社会における年齢規範の生成と変動 ―日米の比較研究―
	近藤 敦	移民統合法制の比較研究	米田 勝朗	本学女子駅伝部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究
	二本柳 誠	未遂犯処罰について		
経営学部	桑島 薫	女性を対象とした社会福祉施設の「記録ファイル」の視点と意味に関する実践人類学および社会福祉学による質的研究	鳥居 弘志	高付加価値商品・サービスのマーケティング
	高山 晃郎	発展途上国の金融市場の進展に関する研究	東田 明	パラドックスを考慮した環境経営の究明
	田中 武憲	次世代技術が愛知のモノづくりに与える影響と課題解決のための地域連携モデルの構築		
経済学部	伊藤 志のぶ	現代日本における地方活性化の諸問題と企業・行政システム	佐土井 有里	技術形成の国際比較(東南アジア・中国を中心に)
	太田 志乃	CASE変革期に問われる異分野技術・中小ベンチャー企業のあり方	杉本 大三	アジア諸国における農業・食料政策の変容と農業・農村
	勝浦 正樹	世帯属性による家計消費・生活行動の因果構造に関する実証的研究	谷村 光浩	「量子都市ガバナンス(Quantum Urban Governance)論」の構築
	小泉 和也	本学ラグビー部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究	名和 洋人	アメリカ経済政策史
	斎藤 智美	ユーロの国際通貨としての発展		
人間学部	伊藤 康児	学校・家庭・地域社会における学習のシステムとプロセス	谷口 義則	日本列島における淡水魚類に対する温暖化の影響予測に関する研究
	加茂 省三	ヨーロッパ社会と国家によるグローバルな影響の史的展開	畑中 美穂	災害救援者の惨事ストレスに関する研究
	志村 ゆず	高齢者の回想法に関する研究		
都市情報学部	稲葉 千晴	20世紀における世界各地の紛争と平和の再検討	張 昇平	AIによる水環境と水環対策の評価
	大野 栄治	温暖化影響および温暖化対策の経済評価	福島 茂	グローバル経済化のもとでのアジア大都市圏の居住形態とその形成メカニズム
	鎌田 繁則	公的介護保険の導入と介護サービス供給体制に関する理論的・実証的研究	水野 隆文	数理的意思決定システムにおける人工知能技術の応用と社会実装
	柄谷 友香	「中核被災者」を主体とした被災限界からの自律再建メカニズムの解明	宮本 由紀	地方自治体の子育て支援策に関する実証分析
	杉浦 伸	数理計画学、オペレーションズ・リサーチの都市情報学、サービスサイエンスへの適用	森 龍太	環境変化に起因した行動変容の補足および評価のあり方に関する研究
	杉浦 真一郎	高齢者福祉・介護保険行政の地理学的研究	山谷 克	デジタル信号の幾何学的構造を利用した数理モデルに基づく信号伝送アルゴリズムの開発
	鈴木 淳生	非完備市場モデルによる金融派生証券の評価	若林 拓	道路網の信頼性解析の効率化の研究
	鈴木 千文	歌声のビブラートに着目したデフォルメの工学的解明に関する研究		
理工学部	赤堀 俊利	固溶体処理した歯科用セミアメタル合金のミクロ組織と特異強化機構の関係	谷田 真	人間と構築環境との相互関係性に関する研究
	芦澤 怜史	屋外作業ロボットののためのロボットアーム動作計画および作業のためのエンドエフェクタによるハンドリングの研究	張 天昊	曲線折り紙による軽量展開構造の開発
	池邊 由美子	化学的溶液法を用いた超伝導フィラメントの作製と評価	塚田 敦史	車いすユーザの力学的シーティングシミュレーション
	石川 靖晃	コンクリート構造物の建設工程シミュレーターの開発	土屋 文	水素同位体イオン照射下におけるシリコン炭化物の動的照射誘起効果
	伊藤 昌文	プラズマバイオの基礎と応用に関する研究	道正 泰弘	持続可能な建築資材および工業副産物のリサイクルシステムに関する研究
	岩下 健太郎	連続繊維複合材を用いた補修・補強材料の開発	中島 公平	e-fuelを用いたニストロークD I エンジンの潤滑計価
	宇佐美 初彦	樹脂/金属複合体の開発とその摩擦摩耗特性の評価 Development of polymer-metal composites and evaluation of the tribological properties	永田 央	光合成を規範とした物質変換システムの構築
	内田 儀一郎	高容量Liイオン電池実現のためのナノ構造負極材の開発研究	中村 一樹	カーボンニュートラルな交通を促進するウォークプルシティの将来ビジョン評価
	榎本 暁	日本人英語学習者による英語聴解における問題点とその訓練法に関する研究	西村 尚哉	構造運動体の衝突安全性評価に関する研究

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題
理工学部	遠藤 祐輝	近赤外線分光法による筋機能評価に関する研究	橋本 英哉	例外的単純Lie群とSpinor群を用いた幾何学
	大藏 信之	渦輪の変形崩壊過程における渦構造	原田 守博	流域における水循環の再生と水災軽減
	太田 貴之	プラズマを用いた高性能材料の合成プロセスに関する研究	日比野 隆	バイオエネルギー生産に寄与する微生物群の探索とその機能解析
	大塚 貴弘	鋼構造部材の屈座挙動に関する研究	平岩 陸	粘弾塑性サスペンション要素法によるコンクリートの破壊挙動および収縮挙動に関する研究
	大知 聖子	中国北朝期における出土資料を用いた社会集団の分析	平松 美根男	カーボンナノ構造体の形成メカニズムの解明と成長の制御に関する研究
	大原 賢一	農業自動化のための自律移動システムの開発	広瀬 正史	衛星搭載降水レーダーによる降水気候の抽出と評価
		RRI標準仕様に基づいたロボットシステム実装に関する研究	深川 健太	視覚刺激が人間の心理評価に及ぼす影響に関する研究
	小澤 哲也	グラスマン多様体の位相	藤井 幸泰	画像計測を用いた地質および地盤情報の可視化と数値化に関する研究
	景山 伯春	微生物・植物の環境ストレス応答の分子基盤解析	古川 裕之	時間発展流れ場中における超臨界分岐と攪乱発達過程の特定に関する研究
	片桐 誠之	水処理・水資源循環利用技術の開発	ベトロス・アブラハ	電子ビーム励起プラズマによる超硬質薄膜創製法の開発
	加藤 幸久	成人病の運動療法 ―ライフスタイル変容による行動療法―	堀田 一弘	ディーラーニングの異分野への応用
	上山 智	ワイドギャップ半導体によるトンネル接合を用いた新規短波長デバイスの開発	本田 真己	環境低負荷型有機触媒を用いた新規カロテンノイド加工技術の開発
	菅野 望	化石代替燃料の着火特性解明に向けた反応過程の検討	益田 泰輔	再生可能エネルギーが大量導入された将来の電力系統における計画・運用・制御
	来海 博央	ナノ・マイクロレベルでの材料特性評価技術の開発による高信頼性・高性能性材料の設計技術の確立	増山 岳人	数理表現学習を用いた強化学習
	葛 漢彬	土木鋼構造物の耐震設計法の開発に関する研究	松田 和浩	低～高層木質建物の耐震技術開発
	久保 貴	乱流中の多成分物質の拡散・混合に関する研究	丸山 隆浩	カーボンナノチューブの結晶成長に関する研究
	熊谷 慎也	細胞への刺激付与による生体反応の制御に関する研究		カーボンナノチューブの生成効率の向上と応用
	小高 猛司	各種ジオマテリアルの変形・強度特性の解明と地盤挙動解析への適用に関する研究	三浦 彩子	東アジアの禅宗建築史及び庭園史に関する基礎的研究
	才田 隆広	種々の酸化物を用いた燃料電池用電極触媒の開発と活性発現要因の解明	溝口 敦子	土砂動態を考慮した戦略的河川管理の提案
	齊藤 公明	確率過程の構成的研究と量子情報解析への応用	三宅 克英	草食性陸ガコの生態と生体活性についての解析
	齊藤 毅	東海層群の花粉群集と古環境	宮嶋 孝夫	窒化物半導体を用いた超短パルスレーザの研究開発
	佐伯 壮一	皮膚組織粘弾性と毛細血管における微小循環相互作用のマイクロ断層可視化解明	武藤 厚	空間構造の耐震性能評価と向上策に関する研究
	榊田 創	物質表面の荷電分布計測	村上 祐一	高電界を用いた食品殺菌技術に関する研究
	佐藤 布武	散居集落における伝統的デザイン手法、景観構成要素の地域差に着目して	村瀬 勇介	多孔質触媒体における水分吸着モデル及び水分輸送マルチスケールモデルの理論解析と数値解析
	清水 憲一	優れた成型性および信頼性を有する純チタン箔材の開発	村田 英一	次世代電力用遮断機の最適設計および開発
	神藤 定生	分子配向型の酵素を導入したシアロバクテリアによる二酸化炭素からのエチレン生産		電子間相互作用を考慮に入れた熱電子銃の数値解析に関する研究
	竹内 哲也	窒化物半導体レーザダイオードに関する研究	森口 舞	カリブ諸国におけるナショナリズムの研究
	竹田 圭吾	光・プラズマ技術を用いた微細加工・ナノ材料合成に関する研究	山崎 彬人	ドライバの視認対象物の可視化と周辺環境認知状態推定
	田崎 豪	カメラによるロボットの移動作業技術の開発	楊 剣鳴	バイオメタンガスエンジン発電機の安定化・効率化およびプロトタイプによる検証
	田中 義人	遺伝子組換え植物を用いた環境ストレス応答機構の解析	六田 英治	単原子電子源の超高輝度化とシームレス・ナノ電磁界シミュレーションによる単一生体分子顕微鏡の設計
田中 正剛	基質の構造特異的にゾル-ゲル転移する自己組織化ペプチドの開発	渡辺 孝一	鋼製橋梁の安全性と修復性の向上に関する研究	
谷口 彩乃	ソルボサーマル法による金属酸化物多孔体の合成とその触媒応用			
情報工学部	川澄 未来子	画像の色彩情報における美的感性の特徴量の抽出	中野 倫明	認知機能の測定・評価技術の開発と高齢者の健康寿命向上への応用
	鈴木 秀和	シームレスな通信接続性と移動透過性を実現する通信アーキテクチャに関する研究	野崎 佑典	AIデバイスのセキュリティ対策手法に関する研究
	高比良 宗一	数値線形代数に関連した量子アルゴリズムに関する研究	坂野 秀樹	柔軟な声質制御が可能な歌唱音声合成システムの構築
	田中 敏光	スマートグラスに適した指先を見る必要がない片手親指による文字入力システム	柳田 康幸	五感インタラクションによる現実空間と情報空間の融合
	寺本 篤司	人工知能を用いた医用画像処理に関する研究	山田 啓一	少数データからの画像認識モデルの学習
農学部	天野 健一	ライン光ピンセットによる粒子間相互作用と粒子表面構造の理解	津呂 正人	ラベンダーの形質改変と精油生成関連遺伝子の探索に関する研究
	磯井 俊行	自然栽培成立要件に関わる土壌肥科学的研究	藤 茂雄	植物ホルモン超高感度レセプターの開発
	上船 雅義	植物が創出する生物間相互作用ネットワーク	中尾 義則	果樹の環境適応能力とその獲得機構
	氏田 稔	糖鎖遺伝子と糖質関連タンパク質の構造と機能	長澤 麻央	畜産物の摂取を介したストレス制御法の探索
	大浦 健	未規制リスク因子の環境動態解析ならびに生体影響評価	新妻 靖章	野生動物のエネルギー・ダイナミクスに関する研究
	奥村 裕紀	脊椎動物受精の分子メカニズムの解明と人為的制御法の開発	橋本 啓史	サンバを頂点とした里山生態系の保全に関する研究
	長田 典之	暖温帯林に共存する落葉広葉樹の展葉フェノロジーの温暖化応答予測	濱本 博三	機能性物質の特性をいかしたバイオ触媒型反応法の開発と生物活性化化合物合成への応用

学術研究

所属部署	申請代表者名	研究課題	申請代表者名	研究課題	
農学部	加藤 雅士	有用糸状菌の転写、翻訳、タンパク質の局在化調節機構の解明とその応用	林 利哉	食肉の機能改善に関する研究	
	黒川 裕介	エチレンのイネ葉身/葉鞘長に及ぼす生理学的効果	林 義明	未利用資源を用いた家畜の生産性向上と家畜の新たな活用法に関する研究	
	香村 恵介	ウェアラブルセンサを用いた幼児の24時間身体行動評価法の開発	平児 慎太郎	農山村景観の保全・管理に向けた合意形成の経済評価	
	兒島 孝明	固相培養条件下の麹菌における遺伝子の動的発現制御機構の網羅的解析技術の確立	平野 達也	イネの生育と炭素および窒素代謝制御に関する研究	
	近藤 歩	CAM植物における環境ストレス応答機構に関する研究	細田 晃文	微生物の酸化・還元能を利用した金属回収技術に関する研究	
	志水 元亨	糸状菌の植物バイオマス分解酵素の探索	前林 正弘	弾性表面波によるハイドロゲルの弾性特性に関する研究	
	鈴木 康生	非生物ストレスによる、園芸作物の品質保持に関する研究	松儀 真人	生物活性物質合成を指向した新反応開発	
	田村 廣人	人工化合物の環境動態および毒性発現機構に関する研究	湊 健一郎	食品因子の生活習慣病予防効果における網羅的解析	
		リボソームプロファイリングと転写翻訳制御機構に関する研究	武藤 将道	比較発生学的手法による今梅雨類の系統進化的研究	
	近澤 未歩	自然免疫系の制御を介した食による健康効果の解明	村野 宏達	汚染土壌中の疎水性有機化学物質の存在形態に土壌有機物が与える影響の解析	
塚越 啓央	植物の根圏形成を司る分子メカニズムの解明とその応用	森田 裕将	ツバキ属植物を中心とした園芸植物の分類学的研究		
薬学部	井藤 千裕	植物資源から新規抗がん作用物質の発見と応用研究	武永 尚子	高反応性炭素-ヨウ素結合を利用した新規変換反応の開発	
	衣斐 大祐	抗精神病薬の慢性使用が認知機能に与える影響	築山 郁人	抗がん剤、分子標的薬の最適投与設計を可能とする分子診断法開発基盤研究	
	植田 康次	生体関連元素・低分子の総体評価を基盤とした毒性・衛生化学	都築 孝允	運動による肥満・糖尿病の改善効果におけるレドックス制御機構の役割	
	打矢 恵一	サルモネラ菌の病原因子の機能解析と新規薬物療法への展開	仲吉 朝希	計算化学手法に基づく薬物代謝酵素の遺伝子多型が基質の認識に与える影響の推定	
		非結核性抗酸菌の増加要因の解明と予防および治療への応用	西川 泰弘	カチオン性複素環を電子伝達に利用する新規合成手法の開発	
	梅田 孝	名城大学体育会運動部員のスポーツ医科学手法を用いた強化、育成方法の考案と実践に関する検証	丹羽 敏幸	薬剤ナノ粒子設計のための製剤基盤技術の開発	
		本学運動部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究	根岸 隆之	環境化学物質質ばく露が脳の構造と機能に与える影響の包括的評価系の確立：遺伝子発現から高次脳機能まで	
	大津 史子	患者の自覚症状(訴え)及び患者背景からの医薬品副作用の推測に関する研究	能勢 彦彦	漢方方剤の科学的解析-薬効の有用性評価とその作用機序の解明	
	岡本 浩一	製剤の肺内分布を考慮した遺伝子微粒子吸入剤開発	野田 幸祐	精神疾患における情動・認知障害と神経変性に関する脆弱分子の探索・モデル動物と臨床からのアプローチ	
	奥田 知将	肺内ナノ粒子形成型吸引粉末剤の開発	橋本 和宜	糖尿病治療薬による副作用発現機構の解明	
	小田 彰史	残基の変異タンパク質立体構造に与える影響についての分子シミュレーション	長谷川 洋一	薬剤師需給及び薬剤師の専門性に関する研究	
	加藤 美紀	薬物動態関連因子を介した薬物相互作用ならびに毒性発現に関する研究	原 脩	低環境負荷型反応剤の開発と応用	
	金子 美由紀	本学バレーボール部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究	半谷 眞七子	患者満足度の向上を目指したコミュニケーションスキルトレーニングの構築	
	亀井 浩行	精神疾患における認知機能評価法の構築	日坂 真輔	脂質過酸化由来の修飾構造をバイオマーカーに用いた生薬及び漢方方剤の科学的解析	
	北垣 伸治	効率的な分子変換及びそれを実現する触媒の開発研究	平松 正行	認知症モデル動物に発現する遺伝子の固定に関する研究	
	小島 良二	腎臓疾患の発症・進展に関与する新規遺伝子の同定	間宮 隆吉	脳機能障害改善物質の探索と食品および医薬品への応用	
	小森 由美子	蛇毒、および真菌由来酵素の生理作用に関する研究-細胞障害性を中心として-	水野 初	1細胞質量分析法によるオルガネラメタボロミクスの開発	
		ヒト常在菌によるバイオフィルム形成に関する研究	水本 秀二	グリコサミノグリカン糖鎖の合成異常による遺伝病とがん・アルツハイマー病の解析	
	近藤 啓太	機械的乾式処理法による機能性微粒子製剤の粒子設計	村田 富保	多機能性タンパク質レギュカルの病態生理的役割に関する研究	
	酒井 隆全	医療ビッグデータを用いた妊婦の医薬品安全性に関する薬剤疫学研究	守屋 友加	遺伝子診断に基づく小児薬物療法の最適化に関する研究	
	坂井 健男	電子求引のシクロペンタジエニド塩を用いた新規反応開発	柳澤 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築	
	神野 透人	ゲノム編集による実験動物モデルの精緻化に関する研究	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究	
	杉山 栄二	組織標本中キラル分子の網羅的イメージング法の開発	吉田 圭佑	キラルなピリジンN-オキシド触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開	
	高谷 芳明	食品中の機能性分子の探索研究	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発	
	外国語学部	グレゴリー・マイネハン	英語教育教材づくりとプログラム開発	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて
		鈴村 裕輔	戦後における石橋湛山の研究活動に関する総合的研究	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究-ミャンマー政治危機を事例に
		富岡 徹	日本人の身体・運動特性を鑑みた運動指導について	柳沢 秀郎	アーネスト・ヘミングウェイの「書き込み」資料に基づいた研究
		西尾 由里	言語能力及び異文化感受性における国際共修の研究		
	理工学研究科	飯島 澄男	ナノカーボン材料の生成と物性評価		
	教職センター	片山 信吾	確かな実践力を育成する教員養成に関する総合的な研究	谷口 正明	アジア圏におけるSTEM教育に関する国際共同研究

2025年度 総合研究所研究センター

研究センター名	研究代表者名	選定年度〔継続年度〕	研究センター名	研究代表者名	選定年度〔継続年度〕
プラズマバイオ応用研究センター	理工学部 伊藤 昌文	2020年度～2022年度 [2023～2025年度]	サイケデリック薬物療法による革新的うつ病治療研究センター	薬学部 衣斐 大祐	2025年度～2027年度
自動車部品電動化戦略研究センター	経営学部 田中 武憲	2023年度～2025年度	光デバイス研究センター	理工学部 竹内 哲也	2022年度～2024年度※ [2025～2027年度]
カーボンニュートラル物質改質技術研究センター	理工学部 竹田 圭吾	2023年度～2025年度	ナノマテリアル研究センター	理工学部 丸山 隆浩	2022年度～2024年度※ [2025～2027年度]
メディカルAI研究センター	情報工学部 寺本 篤司	2024年度～2026年度	自然災害リスク軽減研究センター	理工学部 小高 猛司	2022年度～2024年度※ [2025～2027年度]
疾患予防食科学研究センター	薬学部 村田 富保	2022年度～2024年度 [2025年度]	次世代エネルギーマテリアルイノベーションセンター	理工学部 内田 儀一郎	2023年度～2025年度※
人工知能と異分野連携研究センター	理工学部 堀田 一弘	2025年度～2027年度	健康・スポーツ医科学研究センター	薬学部 梅田 孝	2023年度～2025年度※

※3年毎更新の継続事業

2025年度 総合研究所 学術研究奨励助成制度課題

1. 「研究促進事業費」

学部	研究代表者名	研究課題	学部	研究代表者名	研究課題
法学部	近藤 敦	「多様性憲章」および類似の制度の国際比較	薬学部	岡本 浩一	噴霧急速凍結乾燥吸入粉末剤に適した吸入器の開発
都市情報学部	鈴木 千文	歌声におけるピブラートの物真似時に用いるデフォルメの有無による歌声の違いの分析		小田 彰史	生命の起源における原始タンパク質会合体の立体構造推定
農学部	近藤 歩	環境ストレスに対するウチワサボテン莖節組織のオルガネラ動態反応		岡本 誉士典	DNA脱塩基損傷を介したエストロゲン誘発性乳がんの形成メカニズムの解明
	津呂 正人	モノテルペン遺伝子導入による害虫抵抗性花卉育種に関する研究			

2. 「研究成果展開事業費」

学部	研究代表者名	研究課題	学部	研究代表者名	研究課題
外国語学部	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任 (R2P)」に関する実証研究 ―ミャンマー政治危機を事例に	薬学部	原 脩	分子間Aza-Wacker型反応を起点とする遠隔二官能基化反応の開発研究
理工学部	土屋 文	マイクロイオンビーム分析を用いた全固体リチウム電池内の正負極活物質中の三次元的リチウム濃度分布その場観察の開発		奥田 知将	最小量の分散補助剤から成る高肺送達性吸入粉末剤の開発およびmRNA医薬への応用
	張 天昊	曲線折り紙による防災シェルターの開発		杉山 栄二	空間キラルメタボロミクスの実現を加速する試薬構造の効率的最適化
農学部	松儀 真人	らせん状双極子へのマイクロ波照射に立脚した新規有機合技術の開発		西川 泰弘	テンプレート効果を利用するペプチドライゲーション法の開発
	兒島 孝明	固相培養条件下の細菌における遺伝子の動的発現制御機構の網羅的解析技術の確立		都築 孝允	運動と含硫化合物の抗肥満・抗糖尿病作用に関わる分子機序の解明

3. 「若手研究者支援事業費」

学部	研究代表者名	研究課題／書名／センター名	学部	研究代表者名	研究課題／書名／センター名
情報工学部	野崎 佑典	低消費電力指向のエッジAIのセキュリティ評価プラットフォームの開発	薬学部	仲吉 朝希	薬物代謝酵素の遺伝子多型が基質の認識に与える影響の推定
農学部	黒川 裕介	東南アジア在来イネのFR13Aを用いた新奇耐水性機構の解明			

4. 「領域指定研究基盤形成支援事業費」

学部	研究代表者名	研究課題(書名)
理工学部	谷口 彩乃	高次構造が制御されたハイエントロピー酸化物の合成とそのCO ₂ 変換反応への応用

5. 「領域指定研究支援事業費」[事業期間:2年間]

学部	研究代表者名	研究課題／書名／センター名
理工学部	平松 美根男	3次元グラフェンのリチウム硫黄電池正極材料への応用展開 [1年目]
	太田 貴之	エレクトロクロミック材料を用いた全固体型スマートガラスの作製 [2年目]

教育活動

■ FD(Faculty Development) ^(注) ～学生の主体的な学びを促す大学教育をめざして～

名城大学では、各学部等がそれぞれ展開するFD活動とともに、全学的なFD活動を推進しています。また、大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会と協働し、各学部等のFD活動を支援するとともに、このFD活動の中核を担い、教育内容および教育環境の改善、教育技法の改善・向上をめざし、学生による授業改善アンケート、FD・SDフォーラム、FD・SD学習会、新任教員FD・SD研修会、教育年報及びFD・SD活動報告書の発行、教育技法の改善等を目的としたセミナー等への派遣、教育功労賞表彰などを企画し、実施しています。

注:FD(ファカルティ・ディベロップメント)とは、中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年8月)によると、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称とされています。単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営にかかわる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もあります。

1 科目別学修振り返りアンケート(旧:授業改善アンケート)

2000年度から全学一斉に「授業改善アンケート」を実施しています。2003年度には東海三県の大学では初めて民間企業で顧客満足度を測るために用いる「CS分析」を本学教員が独自で開発した手法で授業評価に導入しました。2005年度には、学生がアンケートの項目の作成にかかわり、学生の視点から教育改善に必要な情報を得るための授業改善アンケートを実施しました。その後、2016年度からは、効率的な授業評価を行う手法の一策として、webを利用した授業改善アンケートを試行的に実施し、2017年度には本格的にwebアンケートの実施へと移行しました。そして、2025年度から授業改善アンケートは、従来の「授業の中身を評価すること」を目的としたものから、「学生が振り返りを行うこと」を目的とした設計に見直しを行います。これに伴い、「授業改善アンケート」の名称を、「科目別学修振り返りアンケート」に変更します。

2 FD・SDフォーラム

学内外から講師を招き、基調講演やワークショップを行い、全学的な教育改善の動きを共有する場として位置づけています。

3 FD・SD学習会

今日、高等教育に係る教育改革については、中央教育審議会の答申をはじめとする多くの提言がなされています。本学では、このような情報を共有する場として、喫緊の課題をテーマに開催しています。また、新しい教育技法を体験的に学ぶ場とする企画も実施しています。

4 新任教員FD・SD研修会

全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)による「実践的FDプログラム」を通じて、オンデマンド形式で実施しています。

5 教育年報及びFD・SD活動報告書の発行

教育年報では、本学における優れた教育実践やその成果を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を掲載しています。また、FD・SD活動報告書により学内外に本学のFD活動及び教育に関わるSD活動について、情報発信に努めています。どちらも大学ウェブサイトを通じて広く公表をしています。

6 教育技法の改善等を目的としたセミナー等への派遣

全国の国公立大学において実施されたFDに関連した企画・研修会・講演会へ教職員・大学院生を派遣し、FDにかかわる取り組みに生かしています。



7 教育功労賞制度

教育功労賞制度は、教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、教育の質の向上に資することを目的として、教育活動および教育改善に貢献した教職員を学長が表彰する制度です。2024年度は該当者はいませんでした。

■ 入学前教育

学校推薦型選抜等、早期の合格決定者を対象に大学への導入教育の一環として、入学前オリエンテーション及び入学前学習プログラム(MECプログラム)を実施しています。これは、高校までの学習歴等による入学生の学力のばらつき解消およびそれに伴う学習転換期における円滑な大学教育との接続を支援し、学生の大学における学習意欲の向上をめざすものです。MECプログラムは2001年度から実施し、現在はオンライン授業を受講し、web上で課題を提出するプログラムとなっています。受講者は、各学科で指定されている講座の中から3講座を選択することができます。各講座は、「プレテスト」、「オンライン授業・演習」、「課題提出」、「添削結果の確認・オンライン授業復習」、「アフターテスト」の5つのステップで構成されています。



■ 入学後学習支援

これまでも各センターにおいて、学生生活の支援・相談、進路選択・就職活動の支援・相談、課外活動に関する相談、健康支援・相談、留学および留学生の支援・相談等のさまざまな学生への支援活動を展開してきましたが、大学教育開発センターは、より豊かな学生生活の実現を目的として、2014年度から入学後学習支援として、「名城サプリメント教育」と「学習サポートルーム」を開設しました。

1 名城サプリメント教育

高校課程の復習機会を提供することにより、基礎学力向上および大学の授業の理解度向上を目的として開設しています。

現在は、学生のニーズに応え、対面実施からスタディサプリを活用したオンデマンド開講に移行し、学部・学科が指定した講座の中から、自分が苦手だと感じる講座を学生が選択して受講できるようになっています。



2 学習サポートルーム

学習の意欲や方法に関して特に問題を抱え、積極的かつ効果的な形で正課の学習に参加できていない学生を対象に、直面する諸問題を一緒に考え、解決をアシストすることを通して、学生自身が自立した学習の意欲、方法を身につけ、充実した学生生活が送れるようサポートすることを目的としています。

また、学習サポートルーム内限定で、スタディサプリを活用した学習も可能です。



教育活動

■ 出前講義

本学では、知的財産の地域社会への還元および社会的貢献に寄与することを目的として、教職員が地域に出向いて授業を行う出前講義を実施しています。出前講義は全学部が対象であり、広範なテーマでの授業が可能です。

地域の方々には生涯学習の機会提供として、また、高校生には高校卒業後の進路をどのような分野で学んでいくかを考える機会として大学受験のモチベーションづくりに役立てられ、実施のご要望を毎年数多くいただいています。

最新情報、申込方法等については、本学ウェブサイトにてご案内しています。

■ 過去5年間の出前講義実施件数

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
高校	55件	60件	58件	66件	51件
地域	9件	14件	20件	25件	21件

■ 2024年度 出前講義テーマ一覧(抜粋) (2025年3月末現在)

分野	学部等	講師	テーマ
政治	法学部	伊藤 亮吉	最近の刑事事件から
経営	経営学部	田中 武憲	愛知と日本のものづくり
心理	人間学部	原田 知佳	怒りのコントロール～子育てに生かす心理学～
外国語	外国語学部	鈴木 裕輔	オリンピックとメディアの発達
		藤原 康弘	これからの英語教育
数学	理工学部	小澤 哲也	楕円
		村瀬 勇介	ゲームの必勝法を考えよう～「必勝」になるふしぎに触れる～
	教職センター	竹内 英人	親子さんすう・数学教室
電気・電子	理工学部	平松 美根男	役に立つプラスマ
メカトロニクス		村田 英一	次世代薄型テレビ –フィールド・エミッション・ディスプレイの最新動向–
建築		楊 剣鳴	ロボットの過去・現在・未来
環境	都市情報学部	三浦 彩子	東海の建築散歩～建物の見方・調べ方～
	人間学部	大野 栄治	住民参加型の再エネ事業とまちづくり
農学	農学部	谷口 義則	水辺の生態系を守るには?(英語による講義も可能)
		氏田 稔	血液型占いは当たるのか?
		津呂 正人	組織培養を用いた植物の大量増殖と遺伝子組換え
		林 利哉	ソーセージやチーズの科学
薬学	薬学部	松儀 真人	有機化学おもしろい!
		大津 史子	くすりとの正しいつきあい方
		小森 由美子	予防接種で感染予防
		高谷 芳明	身のまわりの天然資源に薬の素をさがそう
		田口 忠緒	放射線って何だろう? 放射線は怖いのか?
		能勢 充彦	漢方医学の基礎及び現代医学への応用
平松 正行	身近なくすりに興味を持とう –薬の作用と副作用–		

■ 飛び入学制度

17歳で大学入学・20歳で大学院入学も可能

理工学部数学科では、特に強い勉学意欲を持って努力することができ、数学およびその関連分野において研究・教育を志す高校2年生の課程修了者(満17歳)を対象とする「飛び入学制度」を導入しています。数学分野での飛び入学制度は全国初の試みで、これまで、大学院生、教員等社会人として卒業生を送り出してきました。入学後は、数学科の教育課程での学習により数学の理解を深めるとともに、各学生の個性と研究テーマを大切に育てていけるように、学生、教職員、一般市民の皆さんとともに、公開セミナーや小中学生向けの講座での体験を通して、主体的な学びをすすめています。また、大学院への飛び入学制度を利用すれば、20歳の時点で大学院への進学も可能となります。

■ これまでの入学者数

年度	2001～2025年度
人数	27人

〈卒業者の進路〉

- ・名城大学大学院
- ・国公立大学大学院
- ・高校教員
- ・一般企業

■ 公開講座等

本学では、学術研究の成果を地域社会へ還元できるよう、本学専任教員を中心に、学外から著名な専門家を講師に招いて、多彩なテーマの公開講座を開講しています。また、実学重視の科目を配し、企業等と連携して寄附講座や連携講座を開講しています。社会の第一線で活躍する実務家、研究者、技術者等を招き講義を行うことで、学生の視野を広げ興味を奮い立たせることを目的としており、学生たちに大きな刺激を与えています。

2024年度に実施した寄附講座等

法学部

名城大学法学部の卒業生による進路支援講座「名城進路講座 大志を抱け」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月9日	オリエンテーション・レポート作成法	6月4日	目標に向かって全力前進
4月16日	自分を見つめる・名城大学のルート	6月11日	名城生時代のかけがえのない経験と進路の創り方
4月23日	自分の人生をプロデュースしよう	6月18日	これまでの大学生活で取り組んだこと
4月30日	挫折、失敗、苦境	6月25日	連覇の裏側:目標の達成のプロセス
5月7日	時間は有限である～何を決め、何を捨てるか～	7月2日	スピーチトレーニング
5月14日	海外経験から学んだこと、今に生かしていること	7月9日	発表①
5月21日	悩みと向き合う、自分と向き合う	7月16日	発表②・総まとめ
5月28日	夢をあきらめないで		

名城大学法学部の卒業生による進路支援講座「名城進路講座 考動力」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
9月17日	オリエンテーション 進路選択と進路決定、進路へ向けた計画的な取り組み	10月15日	企業側から見た学生・業界研究・企業研究 起業家・経営者から見た学生・起業家・経営者が求める人材
9月24日	進路を決めるにあたってやるべきことは!? 今から始める就職活動	10月22日	民間企業のごとく 営業職ってどんな仕事?会社にはどんな仕事があるのか? どうやって会社を選んだのか?
10月1日	自分を未来へ導こう 今すぐ役立つ自己分析と自己PR術	10月29日	公務員の魅力 第1部 県庁・市役所職員、第2部 警察官
10月8日	コミュニケーション能力 自己PR実践講座	11月5日	豪華士業セミナー 法律を活かした仕事の実態

千賀修一先生寄付講座「千賀修一先生寄付講座「法律入門」」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月8日	開講にあたりー法律学の学びへの誘いー	6月3日	法律入門(司法書士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
4月15日	法律入門(弁護士からの立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月10日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
4月22日	法律入門(元検事の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月17日	法律入門(元市長の立場から、地方自治の実情を学ぶことの意義について講義)
4月29日	法律入門(司法書士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	6月24日	法律入門(土地家屋調査士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月6日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月1日	法律入門(弁理士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月13日	法律入門(不動産鑑定士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月8日	法律入門(弁護士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)
5月20日	法律入門(社会保険労務士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)	7月15日	将来の進路と職業及び実務における法学スキルについて
5月27日	法律入門(税理士の立場から、法律を学ぶことの意義について講義)		

愛知県土地家屋調査士会提供寄付講座「不動産登記と土地家屋調査士」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月10日	土地・建物の登記事項の紹介	6月5日	土地家屋調査士業務に関わる相続事例等の紹介1
4月17日	不動産登記制度の概略の紹介	6月12日	土地家屋調査士業務に関わる相続事例等の紹介2
4月24日	土地に関する表題登記事例の紹介1	6月19日	不動産登記申請を行うにあたり関係する法規の紹介
5月1日	土地に関する表題登記事例の紹介2	6月26日	境界を確認するための必要事項を紹介
5月8日	一戸建て住宅などの建物の登記事項の紹介	7月3日	土地家屋調査士業務の内業と外業の紹介
5月15日	分譲マンションなどの区分建物の登記事項の紹介	7月10日	最新の測量技術の紹介
5月22日	測定の概要1	7月17日	登記制度の創生から現在に至るまでを紹介
5月29日	測定の概要2		

東海税理士会による寄付講座「税理士と考える税の世界」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
9月16日	税理士の使命と役割(1)社会における税の意義と税理士の使命・役割について考える。	11月18日	負債問題と税(1) 具体的事例の紹介
9月30日	税理士の使命と役割(2)社会における税理士の役割と、税理士業務の実態について学ぶ。	11月25日	負債問題と税(2) 事例の検討
10月7日	公平な税制(1) 具体的事例の紹介	12月2日	負債問題と税(3) 受講生による発表と講師によるフィードバック
10月14日	公平な税制(2) 事例の検討	12月9日	離婚に伴う財産分与と税(1) 具体的事例の紹介
10月21日	公平な税制(3) 受講生による発表と講師によるフィードバック	12月16日	離婚に伴う財産分与と税(2) 事例の検討
10月28日	消費税の現状と実態(1) 具体的事例の紹介	12月23日	離婚に伴う財産分与と税(3) 受講生による発表と講師によるフィードバック
11月4日	消費税の現状と実態(2) 事例の検討	1月6日	総まとめ 講義全体のまとめを行う。
11月11日	消費税の現状と実態(3) 受講生による発表と講師によるフィードバック		

愛知県司法書士会による寄付講座「司法書士と民事法—法律実務の現場から」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
9月18日	オリエンテーション	11月13日	民事裁判②
9月25日	民法	11月20日	民事裁判③、その他の裁判所手続き
10月2日	民法と不動産登記①	11月27日	成年後見制度
10月9日	民法と不動産登記②	12月4日	相続に関する法律問題(前)
10月16日	会社法	12月11日	相続に関する法律問題(後)
10月23日	会社法と商業登記①	12月18日	空家、所有者不明土地問題(前)
10月30日	会社法と商業登記②	12月25日	空家、所有者不明土地問題(後)
11月6日	民事裁判①		

教育活動

理工学研究科

特別講義Ⅰ（電気系）

開催日	テーマ
5月16日(木)	「車載パワーデバイスの現状と今後の展望」 ～主機用パワーデバイスの新展開～
5月23日(木)	IoTデバイス応用に向けたナノカーボンの材料開発
5月30日(木)	エネルギー問題とその解決に貢献するエネルギーデバイス
7月4日(木)	「シリコン」の可能性 ～造り、創った20年 研究、開発、生産を渡り歩いて～
7月11日(木)	特許の基礎と実情
7月18日(木)	量子力学の原理を活用した計算技術
7月23日(火)	半導体レーザの研究開発の歴史と進展 ～ソニーにおける研究開発を通して～

特別講義Ⅱ（機械系）

開催日	テーマ
4月27日(土)	持続性社会のための材料・製造技術
5月11日(土)	電池と軽量化技術 ～自動車の未来を造るために～
5月25日(土)	社会における技術者の役割
6月6日(木)	プラスチックの環境問題と対策 バイオプラスチックとリサイクル
6月13日(木)	成形加工技術・材料の現状と将来 ～自動車部品を事例に～
7月20日(土)	燃料電池開発の背景 燃料電池の概論
7月24日(水)	燃料電池の最近の進捗 燃料電池の課題と研究の期待

(令和6年度実績)

社会連携センター

アビームシステムズ株式会社提供講座「リーダーシップ開発プログラムiMPACT!」

開催日	テーマ	開催日	テーマ
11月11日(月)	リーダーシップイントロ-課題発表キックオフ-	12月2日(月)	進捗発表とフィードバック
11月18日(月)	チームビルディング	12月9日(月)	最終プレゼンテーション
11月25日(月)	問題-課題-解決策のインプット		チームと個人のリーダーシップの振り返り

2024年度 公開講座一覧

学部主催の公開講座

学部等	講演テーマ	開催日	講師
法学部	国家賠償法の基礎知識	11月30日(土)	法学部准教授 笹岡 克比人
経営学部 経済学部	起業講座	9月18日(水)	株式会社コメダホールディングス シニアアドバイザー 白井 興胤 氏
		9月25日(水)	シーホース三河株式会社 シニアアドバイザー 前取締役社長 鈴木 秀臣 氏
		10月2日(水)	三星刃物株式会社 代表取締役社長 渡邊 隆久 氏
		10月9日(水)	株式会社Grand Central 代表取締役 CEO 北口 拓実 氏
		10月16日(水)	学び舎mom株式会社 代表取締役 矢上 清乃 氏
		10月23日(水)	有限会社船坂酒店 代表取締役社長 有樂 弘城 氏
		10月30日(水)	Indobox株式会社 代表取締役 CEO 丹治 大佑 氏
		11月6日(水)	株式会社旅武者 代表取締役 遠藤 まさみ 氏
		11月13日(水)	株式会社丸朝製陶所 代表取締役社長 グローバルカップディレクター 松原 圭士郎 氏
		11月20日(水)	株式会社コンタス 代表取締役 CEO 柴崎 莉菜 氏
		11月27日(水)	株式会社BISITS 代表取締役 宮島 大輔 氏
		12月4日(水)	STATION Ai株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 佐橋 宏隆 氏
12月11日(水)	株式会社ナカムラ myame 専務取締役 中村 慎吾 氏		
12月18日(水)	株式会社ウエルリンクス 代表取締役 木村 慎吾 氏		
12月25日(水)	名南M&A株式会社 代表取締役社長 篠田 康人 氏		
外国語学部	名城大学難民映画祭	7月15日(月)	外国語学部准教授 宮下 大夢
外国語学部	Cross Cultural Learning at the University Level: Expectations vs. Reality	10月26日(土)	外国語学部教授 Max Praver 外国語学部准教授 Greg Minehane 外国語学部准教授 Saya Ike
人間学部	宇宙から考える地球と人類の未来	9月28日(土)	国立天文台教授/台長特別補佐 阪本 成一 氏
都市情報学部	都市情報学部創立30周年記念公開講座 「都市情報学の30年とこれから」	11月2日(土)	名誉教授 海道 清信 トーホー株式会社 代表取締役 山仲 巖 氏 開学100周年事業室 課長 前島 慶子
情報工学部	科学で迫る勝敗の法則-スポーツデータ分析の最前線	10月12日(土)	情報工学部准教授 小中 英嗣
理工学部	目指せロボットエンジニア! ロボットを動かしてみよう!	10月26日(土)	理工学部教授 大原 賢一
農学部	<食と農の安全を考える 第8回> 化学が描く持続可能な農業の未来	6月1日(土)	愛知製鋼株式会社 未来創生開発部 次世代あぐり開発室 室長 鈴木 基史 氏 三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社 (MCCLS) 研究開発本部 登録部安全性評価グループ グループリーダー 福元 健志 氏
	世界がうらやむ東海の発酵美食~文化と健康と観光と~	9月21日(土)	株式会社まるや/八丁味噌 社長 浅井 信太郎 氏 日東醸造株式会社 社長 蛸川 洋一 氏 日本料理一灯 店主 長田 勇久 氏 (オンライン登壇) 発酵ライフ推進協会 名古屋校 校長 古澤 久美 氏 発酵プロモーションズ 代表 吉田 さき子 氏 農学部教授 加藤 雅士
	<生物・人・自然の調和を考える>植物の生態の魅力をさぐる	11月30日(土)	大阪大学准教授 佐伯 いく代 氏 福井県立大学教授 大石 義隆 氏
薬学部	<<すりと健康>> ICTを活用したデジタル教育環境の整備と教育プログラム開発による教育効果	9月1日(日)	薬学部教授 飯田 耕太郎
	<<すりと健康>> ・血液のお話 ・免疫システムを利用したすり	10月12日(土)	薬学部教授 山本 英督 薬学部准教授 黒羽子 孝太
大学院総合学術 研究科	カナダにおける「真実と和解運動」：長老たちに学ぶ	10月1日(火)~ 10月31日(木)	Coast Mountain College教授 リーゼン 百合子 氏

研究所・センター主催の公開講座

学部等	講演テーマ	開催日	講師
社会連携センター	「みんなのIDGs」のストーリーを紡ぐ：私が変われば世界も変わる	2月15日(土)、 3月1日(土)	プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株) コーポレート基盤本部 経営システム部 主査/データサイエンティスト・地域づくり団体「みんなのお 勝手さん」 共同代表 鬼木 基行 氏 IDG Collective Story Hubのメンバー
	社会連携フォーラム (PLATFORM) 2024 「ゆるく つながり 創りだす ~ リアルな場に集うことの価値」	11月28日(木)	カフェ文化/パブリック・ライフ研究家 飯田 美樹 氏 株式会社ひらく 取締役・文喫事業部長 武田 建悟 氏 喫茶はじまり オーナー/小倉トースト普及委員会 委員長 高野 仁美 氏 人間学部准教授 加藤 昌弘

地域との連携・共催講座

天白生涯学習センターとの共催講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
教職センター・農学部	【名城大学共催】 親子で楽しい数理学教室	6月22日(土) 7月6日(土) (全4回)	教職センター教授 谷口 正明 農学部准教授 細田 晃文

東生涯学習センターとの共催講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
外国語学部	【名城大学共催】 Let's Play バドミントン	5月18日(土)	外国語学部教授 岡岡 徹
人間学部	【名城大学共催】 家族・学校から見た現代日本の「生きづらさ」と課題 ①現代の子育て～ギャルママから考える～ ②学校のさまざまな価値にどう対処するか ③「自分らしさ社会」をどう生きるか	6月6日(木) 6月20日(木) 7月4日(木)	①人間学部助教 高橋 香苗 ②人間学部助教 笠井 尚 ③人間学部教授 櫻井 龍彦
都市情報学部	【名城大学共催】 地域住民とともに考え・創るこれからの環境・防災・エネルギー ①水の構造改革について考える ②住民の協力+身近な資源で再エネが生まれるか ③自主防災組織による避難所運営のススメ	10月31日(木) 11月7日(木) 11月14日(木)	①都市情報学部教授 張 昇平 ②都市情報学部助教 森 龍太 ③都市情報学部教授 柄谷 友香

日進市との連携講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
理工学部	未来のロボットエンジニアは君だ!自分で作ったロボットを動かそう! 【名城大学共催講座】 身近に迫る地盤災害 ①斜面と土砂災害(熱海土石流災害を例に) ②水害から命と財産を守る河川堤防の役割と強化 ③地震による地盤の崩壊(液状化とその対策など)	8月26日(月) 2月18日(火) 2月25日(火) 3月4日(火)	理工学部教授 大原 賢一 理工学部教授 小高 猛司

刈谷市との連携講座

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
薬学部	【名城大学連携講座】 薬と健康の科学 ①漢方薬を上手に活用するには～漢方薬の基礎と応用～ ②認知症に使われる薬とは?～効く薬の開発に向けて～ ③正しい健康情報とのつきあい方～サプリメントを中心に～	6月22日(土) 6月29日(土) 7月13日(土)	①薬学部教授 能勢 充彦 ②薬学部教授 平松 正行 ③薬学部教授 大津 史子
外国語学部	【名城大学連携講座】親子で楽しむ英語絵本読み聞かせ講座	11月10日(日)	外国語学部教授 西尾 由里・西尾ゼミ生

名古屋市

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
理工学部	軽スポーツでコミュニケーション	10月16日(水) 10月23日(水) 10月30日(水) 11月13日(水) 11月20日(水) 11月27日(水)	理工学部助教 遠藤 祐輝

氷見市・名城大学連携協議会事業

学部等	講演テーマ	開催日・期間	講師
理工学部	名城大学連携講座 世界を変える青色LED	11月20日(水)	理工学部教授 竹内 哲也

社会連携事業等

名城大学は、社会連携センターが中心となって大学と社会の資源をつなぎ、主体的に学び続ける「実行力ある教養人」の育成、「学問の探求と理論の応用」を通じた研究成果の教育と社会への還元、社会との「人的交流」を通じた地域活性化に貢献します。
ナゴヤドーム前キャンパスには、誰もが自由に使えるオープンコミュニケーションスペース「社会連携ゾーンshake」があります。学生・教職員だけでなく、企業・自治体・NPOなど多様な方が年齢・職業を超えてフラットに集い、交流し、情報や学びを共有する場として活用いただいています。
天白キャンパスにも、ものづくりを通じた実践的な学びや多様なプロジェクトを行う場として「起業活動拠点ものづくりスペース M-STUDIO」があります。新しいアイデアをカタチにする活動を通して、幅広い人々のクリエイティブな交流が生まれる場を目指します。

2024年度社会連携実績 292件*

※社会連携センターがコーディネートした社会連携件数のみ

【主な実績(一例)】

1 学外機関と連携した正課内授業、ゼミ・研究活動

- ・実務家講師による「食」をテーマとした製品・サービス開発講座イノベーションチャレンジプログラム(農学部正課授業)
- ・トヨタコネクティッド株式会社 IT人材育成PBLプログラム(情報工学部正課授業)
- ・岩手県/大槌町/三陸DMOセンターと連携したコンテンツツーリズム/インフラツーリズムの観光資源化(経営学部ゼミ活動)
- ・名古屋市鶴舞図書館 自動車図書館新車両プロジェクト(理工学部ゼミ活動)

2 学外機関と連携した学びの場づくり

- ・リーダーシップ開発プログラムiMPACT! (テーマ提供・協賛:アビームシステムズ株式会社)
- ・アントレプレナー(起業家)育成プログラムEXPLORER
- ・LINEヤフー株式会社と連携した学内ハッカソン「HACK U 名城大学」
- ・イノベーションを生み出すためのアイデア創出ワークショップ

3 学外機関と連携したプロジェクト開発

- ・コマダ珈琲店との連携による「スクールモーニング」開催
- ・名古屋ダイヤモンドドルフィンズとの連携による、これからのプロスポーツビジネスのあり方を探求する「プロスポーツビジネス研究会」。地元バスケットチームのファン獲得を通じた地域共創をテーマにプロジェクト実施
- ・長野県南木曾中学校との連携によるオンライン学習支援プロジェクト
- ・JA熊本経済連/熊本県大阪事務所との連携による「くまもとデーin名城大学」実施

社会連携ゾーン shake

パートナーシップ団体数 187団体 (令和7年3月31日時点)

学費・奨学金

■ 学費一覧

学部(2025年度入学生)

(円)

学年	1年次					2・3・4年次			
	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計
法学部	200,000	718,000	—	194,000	1,112,000	718,000	—	194,000	912,000
経営学部	200,000	718,000	—	194,000	1,112,000	718,000	—	194,000	912,000
経済学部	200,000	718,000	—	194,000	1,112,000	718,000	—	194,000	912,000
外国語学部	200,000	945,000	—	247,000	1,392,000	945,000	—	247,000	1,192,000
人間学部	200,000	730,000	—	247,000	1,177,000	730,000	—	247,000	977,000
都市情報学部	200,000	902,000	—	247,000	1,349,000	902,000	—	247,000	1,149,000
情報工学部	200,000	1,010,000	86,000	248,000	1,544,000	1,010,000	86,000	248,000	1,344,000
理工学部	200,000	1,010,000	86,000	248,000	1,544,000	1,010,000	86,000	248,000	1,344,000
農学部	200,000	1,008,000	86,000	291,000	1,585,000	1,008,000	86,000	291,000	1,385,000

(円)

学年	1年次					2・3・4年次				5年次				6年次			
	入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計												
薬学部	200,000	1,453,000	210,000	337,000	2,200,000	1,453,000	210,000	337,000	2,000,000	1,453,000	510,000	337,000	2,300,000	1,453,000	210,000	337,000	2,000,000

研究科(2025年度入学生)

(円)

学年	研究科	課程	1年次				2年次				3年次			
			入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費	年額合計	授業料	実験実習費	施設費
法学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
経営学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
経済学研究科	修士課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	530,000	—	80,000	740,000	530,000	—	80,000	610,000	530,000	—	80,000	610,000
人間学研究科	修士課程	130,000	580,000	—	80,000	790,000	580,000	—	80,000	660,000	—	—	—	—
都市情報学研究科	修士課程	130,000	690,000	—	100,000	920,000	690,000	—	100,000	790,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	690,000	—	100,000	920,000	690,000	—	100,000	790,000	690,000	—	100,000	790,000
理工学研究科	修士課程・博士前期課程	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	—	—	—	—
	博士課程・博士後期課程	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000
農学研究科	修士課程	130,000	620,000	120,000	100,000	970,000	620,000	120,000	100,000	840,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	620,000	120,000	100,000	970,000	620,000	120,000	100,000	840,000	620,000	120,000	100,000	840,000
総合学術研究科	博士前期課程	130,000	700,000	—	100,000	930,000	700,000	—	100,000	800,000	—	—	—	—
	博士後期課程	130,000	700,000	—	100,000	930,000	700,000	—	100,000	800,000	700,000	—	100,000	800,000

(円)

学年	学部	課程	1年次				2年次				3年次				4年次				
			入学金	授業料	実験実習費	施設費	年額合計												
	薬学研究科	博士課程(4年制)	130,000	640,000	120,000	100,000	990,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000	640,000	120,000	100,000	860,000

(注) 1. 入学手続時納入金は、入学金と1年次の「授業料・実験実習費・施設費」の2分の1の金額(前期分)を合計した額です。
2. 授業料等の学費は、毎年次、前期(納期5月10日)・後期(納期10月10日)の2回分納方式です。

■ 奨学生制度

さまざまな奨学生制度が用意され、経済的な面からも学生をサポートしています。2024年度の学内奨学生制度における奨学費支出総額は、約2.2億円でした。

■ 名城大学学内奨学生(2024年度) ※各種奨学生制度は、事情により変更する場合があります。

1. 学業優秀にかかる奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
入試成績優秀奨学生	一般選抜(A方式)において、各学部成績上位の合格者(対象者約400名)の内、入学した者	対象者全員	授業料年額の1/2 (入学年度のみ)
学業優秀奨励制度	新3年次生で、2年次までの学業成績および人物優秀者 (薬学科は新5年次生で、4年次までの学業成績および人物優秀者) 成績基準:次の(1)および(2)に該当する者 (1)2年次までに62単位以上(教職および学芸員に関する授業科目、自由科目を除く。)を、修得している者 薬学科は4年次までに150単位以上を、修得している者 (2)履修登録科目の平均点が80点以上の者	260人	3万円相当の金品
学業優秀奨学生	新4年次生で、3年次までの学業成績および人物優秀者 成績基準:次の(1)および(2)に該当する者 (1)3年次までに93単位以上(教職および学芸員に関する授業科目、自由科目を除く。)を、 修得している者で、卒業見込みの者(薬学科を除く) (2)履修登録科目の平均点が80点以上の者	各学科で1人 (薬学科は2人)	授業料年額の1/2

2. 修学援助にかかる奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
修学援助A奨学生(※1)	学部生(4年次以上)で修学の意思があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な者。 家計基準:同一世帯の前年度所得合計額から別表(※)による控除後の合計額が200万円以下とする。 ただし、事業所得者の前年所得合計額がマイナスの場合は、0円として計上する。 成績基準:卒業に必要な単位数を修業年数で割った単位数の当該年次までの累計以上の修得者で、各学科の 上位2分の1以内。ただし、外国人留学生の場合は、全学部外国人留学生の上位2分の1以内とする。 ※別表は募集時期に本学ウェブサイトでご覧いただけます。	90人以内	年額一律30万円
修学援助B奨学生	学部生、大学院生で主たる家計支持者(学資負担者)の死亡、疾病、失業(自己都合を除く)、または、火災、風水害等の被害により家計が急変し、修学の意思があるにもかかわらず、経済的に著しく困難となった者。 家計基準:同一世帯の前年度所得合計額(学資負担者を除く)から別表(※)による控除後の合計額が200万円以下とする。ただし、事業所得者の前年所得合計額がマイナスの場合は、0円として計上する。 成績基準:学修意欲があり、学業を継続して確実に修了できる見込みがあること。 ※別表は窓口で申請書類とともにお渡しいたします。	該当する者全員	年額一律30万円
利子補給奨学生(※2)	経済的な理由により、本学と提携する銀行(三菱UFJ銀行)の教育ローンを利用した者。 最短修業年限に相当する年数を限度として給付。	該当する者全員	当該年度までの学費を限度とする借入額の支払利子に、教育ローン利用者の年収に応じた給付率(50%または100%)を乗じた額
大規模自然災害 経済支援奨学生	災害救助法が適用された(または外務省による国際緊急援助が行われた)大規模自然災害により家計が急変し、修学が困難になった学生および入学試験出願者。	該当する者全員	授業料・実験実習費・施設費の年額、または年額の1/2(被災状況による)。入学試験出願者は、入学検定料、入学金の全額も給付する。

※1 2022年度入学者までを対象とする。

※2 2025年度契約者までを対象とする。

学費・奨学金

3. その他の学内奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
校友会奨学生	人物優秀者で学業成績または体育技能優秀者	校友会が指定	校友会が決定
社会人学生奨学生	社会人入学試験により入学した学部生	該当する者全員	授業料および 実験実習費年額の1/2
私費外国人留学生A奨学生	在留資格が「留学」の私費外国人留学生で、経済的に就学が困難であると認められる者	該当する者全員	授業料年額の3/10
派遣交換留学奨学生	海外協定校との交換留学制度に基づく留学を認められた者で人物・学業成績優秀者、または各該当言語の語学能力検定試験高得点取得者。 留学期間が3カ月以上1年以内を対象とする。留学期間が3カ月未満の場合は海外研修奨学生として取り扱う。	30人以内	[アジアへの交換留学] 月額4万円 [アジア以外への交換留学] 月額6万円
海外研修奨学生	本学の大学間学術交流協定(条件を満たす学部または研究科間を含む)に基づく海外研修者で、研修期間が7日以上の方。ただし、人間学部の海外研修Iは除く。	該当する者全員	5万円
本学卒業等補助奨学生	①本学卒で研究科、他の学部へ入学する者 ②本学に籍を置いた者で退学ののち、再度入学する者	該当する者全員	入学金の額
海外英語研修派遣支援A奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者で、学部等の国際委員会が実施する選考により採用された者	毎年180人以内	20万円または 研修費用総額の1/2の いずれか少ない額
海外英語研修派遣支援B奨学生	国際化推進センターが募集する海外英語研修プログラムまたは学部等と国際化推進センターによる連携海外英語研修プログラムに参加する者	該当する者全員	5万円

各種奨学制度は、授業料および実験実習費の年額を超えない範囲で重複可能。

ただし、本学卒業等補助奨学生と校友会奨学生の特別奨学生は、授業料および実験実習費の年額の範囲を超えて重複可能。

4. 特に大学院生を対象とする奨学生(給付)

種類	資格	人数	給付額
大学院学業優秀奨学生	大学院生で、学業成績および人物優秀者	90人	年額一律30万円
大学院奨学生	各研究科の基準による	各研究科の基準による	各研究科の基準による
本学卒業等補助奨学生	①本学卒で研究科、他の学部へ入学する者 ②本学に籍を置いた者で退学ののち、再度入学する者	該当する者全員	入学金の額
赤崎勇賞	大学院博士後期課程又は博士課程在学学生のうち、教育研究活動等に関する業績が特に優れている者 (理工学研究科においては博士前期課程又は修士課程も含める)	各年度5名 (理工学研究科から4名+ 理工学研究科を含む 全研究科から1名)	一律20万円
日本学術振興会特別研究員奨学生	日本学術振興会特別研究員(DC1、DC2)に採用された者	該当する者全員	授業料・実験実習費・ 施設費の額

各種奨学制度は、授業料および実験実習費の年額を超えない範囲で重複可能。

ただし、本学卒業等補助奨学生と校友会奨学生の特別奨学生は、授業料および実験実習費の年額の範囲を超えて重複可能。

クラブ活動

■ 公認クラブ一覧 128 団体 (2025年6月1日現在)

体育会

42団体

合気道部
アメリカンフットボール部
居合道部
応援団(リーダー部、吹奏楽部、チアリーディング部)
空手道部
弓道部
剣道部
航空部
硬式庭球部
硬式野球部
ゴルフ部
自転車部
自動車部
蹴球部
柔道部
準硬式野球部
少林寺拳法部
女子駅伝部
水上競技部
スキー部
スキューバダイビング部
ソフトテニス部
ソフトボール部
卓球部
テコンドー部
軟式野球部
日本拳法部
バーベルトレーニング部
馬術部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ハンドボール部
フットサル部
舞踏研究会
洋弓部
ヨット部
ライフル射撃部
ラグビー部
ラクロス部
陸上競技部
ワンダーフォーゲル部

文化会

23団体

アカペラサークル「はもりね」
囲碁部
管弦楽団
ギターアンサンブル部
ギターマンドリン合奏団
喫茶愛好会
教職研究会
軽音楽部
劇団「獅子」
茶道部
サブカルチャー研究会
児童文化研究会「かざぐるま」
シネマ研究会
将棋部
証券研究会
新聞会
世界民族音楽研究会
旅研究会「一里塚」
美術部
放送部
漫画アニメSF研究会
モダンジャズ研究会
落語研究会

理工学部学生自治会

16団体

e-sports研究会
エコパワークラブ
空手道部
建築デザインクラブ「tenon」
自動車技術研究会
社会科学研究会
写真部
ストリートダンスサークル
造芸部
鉄道研究会
名古屋学生の会
バドミントン部
フォークデュオサークル
マンガアニメ愛好会
木造建築研究会
ロボット倶楽部

農学部学生会

8団体

朝スポーツサークル
花卉クラブ
写真部
趣味の園芸愛好会
日本酒研究会
農学探究ゼミナール
ハイキング部
野生動物生態研究会

薬学部学生会

27団体

【文化局】
医療系研究会「オピス」
英語会話同好会
SRC同好会
管弦楽部
漢方医学研究部
奇術部
軽音楽部
茶道部
植物研究部
ストリートダンス部
箏曲部
天文部
美術部
フォークソング部
薬学研究部
【体育局】
硬式庭球部
硬式野球部
ゴルフ部
女子バレーボール部
ソフトテニス部
卓球部
男子バレーボール部
バスケットボール部
バドミントン部
フットサル部
ラグビー部
陸上競技部

ナゴヤドーム前キャンパス

12団体

音楽部「Bremen」
硬式庭球部
写真部「Freude」
ダンスサークル「liberte」
軟式野球部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ハワイアン民俗研究部「Meijo オハナ」
フットサルサークル「Golazo!」
文芸サークル
まちと学生をつなぐサークル「プラネット」

■ ボランティア協議会

ボランティア協議会は、名城大学の学生がボランティア活動を実践し、社会の一員として地域社会に貢献することを目的として2004年(平成16年)7月に発足しました。きっかけは一人の学生によるタバコの吸い殻拾い。この活動が徐々に広がり、学生のみならず教職員を巻き込んだ「クリーンアップ大作戦」へと発展、ボランティア協議会設立に至りました。現在は5つの活動を柱として活躍の場を広げています。

▶ 災害復興ボランティア

被災地を実際に訪れ、現地での支援や復旧作業のボランティアを行うとともに、学内では防災意識の向上を目的に、炊き出し体験や防災講習などを実施しています。

▶ 地域安全パトロール

学生による大学周辺の地域防犯活動を週1~2回実施。太白警察署と連携したパトロールも実施しています。

▶ 環境ボランティア

学内および大学周辺地域における清掃活動やペットボトルのキャップを集めて発展途上国にワクチンを送る活動を行っています。

▶ 社会連携

富山県南砺市や宮城県気仙沼市大島を中心に、地域の魅力を体感しながら自治体や地域の方々と交流し、地域活性化に取り組んでいます。

▶ 福祉ボランティア

高齢者施設でのレクリエーションの実施や、中部盲導犬協会と連携し、視覚障がい者の方々との交流を行っています。

キャンパスと設備

天白キャンパス

法学部、経営学部、経済学部、情報工学部、理工学部、農学部
法学研究科、経営学研究科、経済学研究科、理工学研究科、農学研究科、総合学術研究科

総合大学にふさわしい学びの環境が整ったメインキャンパス。
大学のシンボル「タワー75」、各講義棟や実験棟などに最新の教育機器を完備している。

■ 特徴ある施設等

情報処理室等

高度なAVシステム環境を有するとともに、基本的なパソコン操作の情報リテラシー講義から教育研究に必要な専門ソフトを使った専門講義まで対応し、講義時間以外では自学・自習ができるよう自由開放をしています。

設置場所・教室名等	端末台数(学生機のみ)
タワー75 6・7階 情報処理教室	704
共通講義棟東 情報処理教室	326
共通講義棟南 LL教室、LL自習室	205

バリアフリー設備

男女別多目的トイレ、エレベーター、連絡ブリッジ、自動ドア、引き戸、ローカウンター、難聴者システム、車椅子対応机・椅子、点字ブロック など

自然エネルギーの利用

自然換気・採光、太陽光発電、屋上緑化、壁面緑化、クールトンネル など

省エネルギー手法の採用

コージェネレーションシステム、蓄熱システム、断熱塗料、空調照明制御、垂直ルーバー、高効率空調システム、BEMS、セントラル空調方式 など

■ キャンパスマップ

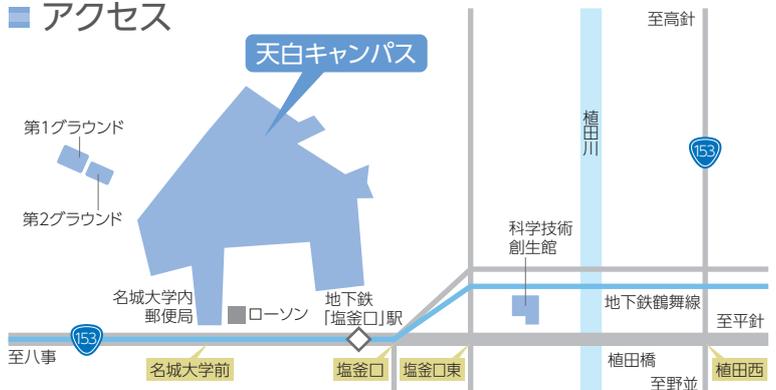


- ① タワー75:学務センター、教職センター、学術研究支援センター、キャリアセンター、国際化推進センター、情報センター、社会連携センター、研究室、大学院演習室、大学院研究室、自習室(大学院・学部学生)、情報処理教室、展望ラウンジ、カーサ(食堂)、オリーブ(食堂)、そらいろラウンジ(食堂)、スクエア(売店)、トラベルサロン(赤い風船(旅行代理店)、ATMコーナー)
- ② 共通講義棟北:名城ホール、講義室、演習室、グローバルプラザ、模擬法廷、学部事務室(法学部・経営学部・経済学部・農学部)、名城食堂(食堂)、ファミリーマート(売店)
- ③ 共通講義棟南:講義室、演習室、LL教室、学習サポートルーム、ピアサポートルーム
- ④ 共通講義棟東:講義室、演習室、情報処理教室、第2書庫
- ⑤ 研究実験棟I:実験室、研究室、農学部資料室
- ⑥ 6号館:共同練習場、スガキヤ(食堂)、グラン亭・ミラノ(食堂)
- ⑦ 7号館:クラブハウス、共同練習場、会議室
- ⑧ 8号館:クラブハウス、共同練習場、音楽練習室、会議室 ⑨ 9号館:実験室、研究室
- ⑩ 10号館:研究室、法学部資料室、経営学部・経済学部資料室
- ⑪ 11号館:演習室、研究室、理工学部事務室、実験室
- ⑫ 12号館:講義室、研究室、障がい学生支援センター、情報工学部事務室
- ⑬ 13号館:研究所、実験室、研究室 ⑭ 14号館:実験室
- ⑮ 研究実験棟II:研究室、実験演習室、理工学部学科事務室、ファミリーマート(売店)
- ⑯ 体育館 ⑰ 附属図書館
- ⑱ 本部棟:入学センター、保健センター、大学教育開発センター、総合企画部、総務部、渉外部、財務部、施設部、ちくさ正文館(書店)、ATMコーナー
- ⑲ 校友会館:校友会事務局、赤崎・天野ノーベル賞記念展示室、シャトー(喫茶店)、Green Bakery Book CAFE(喫茶店)、理容室
- ⑳ 温室 ㉑ 第1グラウンド ㉒ 第2グラウンド ㉓ 科学技術創生館
- ㉔ 研究実験棟III:研究室、実験室、演習室、ファミリーマート(売店)、理工学部情報工学部学科事務室
- ㉕ 研究実験棟IV:講義室、研究室、実験室、製図室、理工学部学科事務室

校舎等現有面積 (2025年5月1日現在)

校舎	現有面積	校舎	現有面積	校舎	現有面積
タワー75	20,919㎡	6号館	3,557㎡	14号館	851㎡
共通講義棟北	23,534㎡	7号館	1,763㎡	体育館	3,604㎡
共通講義棟南	11,238㎡	8号館	3,405㎡	附属図書館	10,825㎡
共通講義棟東	12,218㎡	9号館	3,158㎡	本部棟	4,914㎡
研究実験棟I	5,015㎡	10号館	5,289㎡	校友会館	1,917㎡
研究実験棟II	19,157㎡	11号館	5,907㎡	科学技術創生館	1,438㎡
研究実験棟III	12,243㎡	12号館	2,699㎡	その他	271㎡
研究実験棟IV	16,057㎡	13号館	1,524㎡	合計	171,503㎡

■ アクセス



地下鉄鶴舞線「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約4分

キャンパスと設備

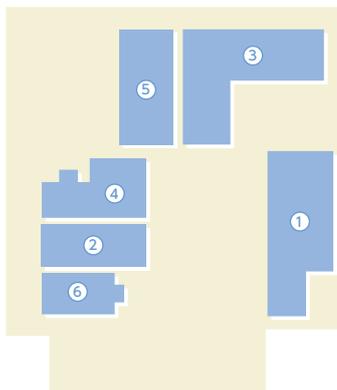


キャンパスと設備

八事キャンパス 薬学部 薬学研究科

丘の上のキャンパスは東海地方で最も伝統のある私大薬学部。
半世紀を超える伝統と実績を生かし、薬学教育の理想を追求する。

■ キャンパスマップ



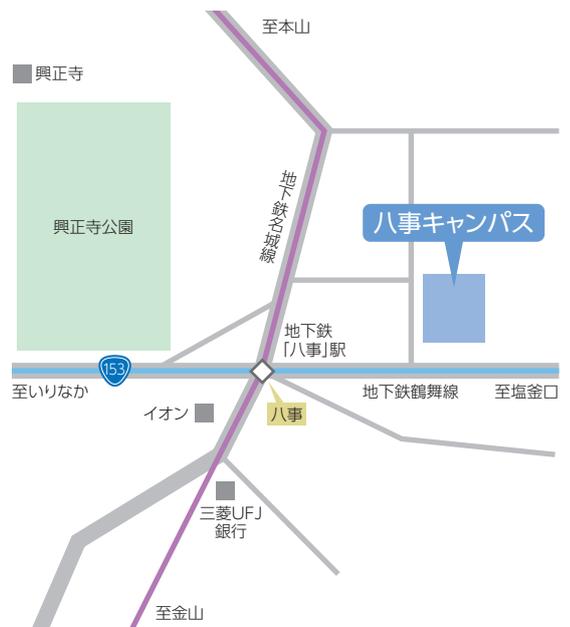
校舎等現有面積(2025年5月1日現在)

校舎	現有面積
新1号館	10,122㎡
新2号館	7,425㎡
新3号館	5,447㎡
7号館	6,991㎡
体育館	1,398㎡
学生会館 城薬ホール	1,402㎡
その他	41㎡
合計	32,826㎡

マルチメディア教室	端末台数 (学生機のみ)
新1号館6F マルチメディア教室	148
新3号館4F マルチメディア教室Ⅱ	150

- ① 新1号館: ライフサイエンスホール、講義室、研究室、マルチメディア教室、医薬情報センター、モデル薬局、附属図書館(薬学部分館)、保健センター分室、学生相談室、ダイニング・ハープ(食堂)、樹里庵(喫茶店)、T-COURT(売店)
- ② 新2号館: 研究室、分析センター、ラジオアイソトープ実験施設、実験動物施設
- ③ 新3号館: 講義室、標本室、マルチメディア教室、研究室、教員室、ファミリーマート(売店)
- ④ 7号館: 分析センター第3分室、実習室、研究室
- ⑤ 体育館
- ⑥ 学生会館 城薬ホール: クラブハウス

■ アクセス



地下鉄鶴舞線・名城線「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

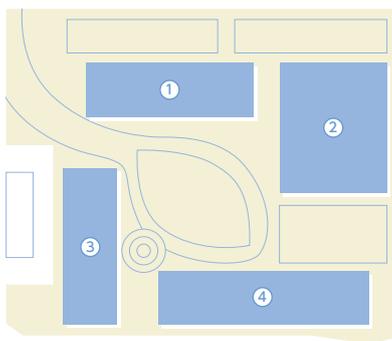


ナゴヤドーム前キャンパス

外国語学部、人間学部、都市情報学部 人間学研究科、都市情報学研究科

「キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ。」をコンセプトに2016年4月に誕生。
豊かな出会いと交流を生み出す開放的なキャンパスを実現しています。

■ キャンパスマップ



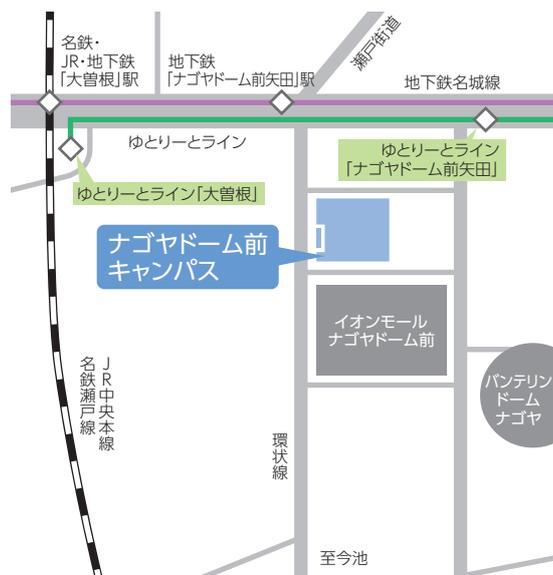
校舎等現有面積(2025年5月1日現在)

校舎	現有面積
北・東館	13,727㎡
西・南館	18,833㎡
合計	32,560㎡

コンピュータ教室	端末台数 (学生機のみ)
南館5F コンピュータ教室	217

- ① 北館:M PATIO(食堂)、グローバルプラザ、ラーニングcommons[wake]、外国語学部資料室、講義室、演習室、研究室など
- ② 東館:図書館、ファミリーマート(売店)、保健室、学生相談室、フレンドリーサロン、学習サポートルーム、エクステンション学習室、教職学習室、マルチスタジオ、クラブハウス、体育館など
- ③ 西館:事務室、社会連携ゾーン[shake]、レセプションホール、会議室、演習室、講義室、人間学部資料室、ゼミ室、研究室など
- ④ 南館:DSホール、講義室、多目的室、コンピュータ教室、研究室、ゼミ室、都市情報学部資料室など

■ アクセス



JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅下車、徒歩約10分
地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、2番出口徒歩約3分
ゆとりとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、徒歩約5分

キャンパスと設備



キャンパスと設備

春日井(鷹来)キャンパス

農学部附属農場

校舎等現有面積(2025年5月1日現在)

校舎	現有面積
本館	2,600㎡
教育研究館	1,495㎡
家畜舎	877㎡
セミナーハウス	501㎡
その他	1,507㎡
合計	6,980㎡



グラウンド等

校舎等現有面積(2025年5月1日現在)

校舎	現有面積
日進キャンパス(日進総合グラウンド)	2,925㎡
第1・第2グラウンド	967㎡
その他	1,935㎡
合計	5,827㎡



校地等現有面積(2025年5月1日現在)

校地	現有面積	校地	現有面積
天白キャンパス	129,366㎡	日進キャンパス	106,222㎡
八事キャンパス	17,553㎡	第1・第2グラウンド	46,331㎡
ナゴヤドーム前キャンパス	17,937㎡	クラブ寮敷地	1,514㎡
春日井(鷹来)キャンパス	136,860㎡	瀬戸校地(演習林)	31,795㎡
		可児校地(別法人に貸出中)	130,476㎡
総計 618,054(※2,535)㎡			

※は借用地を内数で示す。

附属図書館

知的空間としての学習・研究支援

附属図書館は「知」の発信拠点として本館と2つの分館で運営しています。
 天白キャンパスにある本館は、地下1階地上5階建てで書庫、視聴覚室、グループ学習室、多読図書室、閲覧室、学習室、グループ研究室、メディア室等を配置しています。
 八事キャンパスにある分館は、薬学の専門図書館としての機能を持たせるため、蔵書は薬学や医学の専門書を中心とした構成となっています。
 ナゴヤドーム前キャンパスにある分館は、語学、教育学、都市情報学に関する資料を中心に取り揃えています。また、最先端の情報通信技術と機器を導入し、学習研究活動を支援しています。ラーニングcommons等、アクティブな学びができる環境を整えています。また、2022年度から全館でSDGsコーナーを設置し、学生、教職員がSDGsの課題を自らの問題として捉え、学びを深めていく環境を整備しました。
 学術雑誌の電子化、電子書籍の普及等により、図書館を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。当館では、これら電子媒体と冊子体との共存共栄を図りつつ、利用者側の目線に立った魅力ある図書館づくりに取り組んでいます。



(天白キャンパス)

〔休館日〕

- 休講期(7月・8月・9月・1月・2月・3月)に日曜日、国民の祝日(分館を除く)
- 夏季および冬季の各休業日の一定期間
- その他必要に応じて定める臨時休館日

開館時間

館名	平日	土曜日	日曜日・祝日
本館	9:00~21:00	9:00~18:00	休館
薬学部分館	9:00~21:00	9:00~18:00	休館
ナゴヤドーム前キャンパス図書館	9:00~21:00	9:00~18:00	休館

蔵書冊数(2025年3月31日現在)

和書	洋書	合計
849,078	389,157	1,238,235

図書受入冊数(2025年3月31日現在)

	2022	2023	2024
和書	13,334	10,117	8,855
洋書	1,582	2,003	1,481
合計	14,916	12,120	10,336

雑誌タイトル数(2025年3月31日現在)

和雑誌	洋雑誌	合計
15,117	6,880	21,997

雑誌受入種数(2025年3月31日現在)

	2022	2023	2024
和雑誌	1,759	2,064	1,609
洋雑誌	429	478	423
合計	2,188	2,542	2,032

本館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
開館状況	開館日数	275	275	277
	入館者数	182,266	218,317	230,327
	教職員	4,901	6,256	4,434
館外貸出冊数	学生	43,393	50,546	49,422
	学外者	14	635	989
	合計	48,308	57,437	54,845

相互利用件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
相互貸借	受付	44	44	45
	依頼	58	63	62
文献複写	受付	337	146	133
	依頼	193	183	186

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
所蔵調査		1,932	2,304	1,485
事項調査		1,310	1,562	940
利用指導		2,814	2,860	2,866

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
視聴覚室		0	9	11
グループ研究室		0	2	10
グループ学習室		0	12	3

薬学部分館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
開館状況	開館日数	283	285	282
	入館者数	37,607	38,722	35,623
	教職員	2,924	112	351
館外貸出冊数	学生	137	3,634	3,410
	学外者	0	0	0
	合計	3,061	3,746	3,761

相互利用件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
相互貸借	受付	0	0	0
	依頼	1	0	2
文献複写	受付	24	14	11
	依頼	207	153	143

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
所蔵調査		718	549	453
事項調査		597	446	430
利用指導		707	496	393

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
グループ学習室		0	1	3

ナゴヤドーム前キャンパス図書館

開館状況・館外貸出冊数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
開館状況	開館日数	275	276	279
	入館者数	53,533	59,836	67,596
	教職員	2,523	2,842	1,577
館外貸出冊数	学生	21,273	26,722	33,485
	学外者	20	276	371
	合計	23,816	29,840	35,433

相互利用件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
相互貸借	受付	2	5	8
	依頼	30	48	31
文献複写	受付	30	33	16
	依頼	59	127	99

レファレンス件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
所蔵調査		552	518	438
事項調査		122	223	202
利用指導		1,087	653	545

各施設利用件数

▼区分	年度▶	2022	2023	2024
グループ学習室		0	1	3

※2020年途中より、コロナのため閉室

※沿革については、図書館ホームページをご覧ください。https://www.meijo-u.ac.jp/library/outline/organization.html

※2020年途中より、コロナのため閉室

愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科(2年制課程)は、愛知県が国家戦略特区の認定を受け、2017年4月から学校法人名城大学が指定管理法人となって運営している、全国初の「公設民営」の教育機関です。名城大学創設以来、取り組んできた工学教育の成果と学校経営のノウハウを最大限に活用し、機械、電気に関する高度な技術・技能を学ぶ「魅力ある学校づくり」を推進しています。



■ 専攻科の教育目標

「ものづくり愛知」の次世代を担う、生産現場のリーダーとなる人材を育成する

■ 専攻科の特色



- ・講義科目では、高度な研究力を有する大学の教授陣から、技術者、技能者としての知見を広め、生産現場の実践力となる基礎的な理論、技術論を学びます。
- ・実習科目では、現代の名工、ものづくりマイスター、技能五輪メダリスト、技能五輪選手指導者など、社会から高い評価を受けている民間企業の生産現場で活躍する技術者・技能者から直接指導を受け、「ものづくり愛知」を支える高度な技術・技能とともに、生産現場で必要とされる創意工夫の方法論を学びます。
- ・コース実習・総合実習では、民間企業出身の生産現場で活躍する技術者・技能者の先生と愛知県教育委員会からの派遣教員のチームによる授業が行われています。

高度な技術・技能を身につける“特色ある実習教育”

教育課程は、実習科目の割合が40%を占めています。実習には、それぞれの科・コースをユニットとする“コース実習”と、科・コースの枠組みを超えて設定された研究テーマに基づく製作実習を行う“総合実習”を開設しており、生産現場の動向・ニーズに対応した実習プログラムにより、高度な技術・技能を身につけていきます。



最先端の設備・環境

最先端の実習設備を完備し、きめ細やかな指導が行われています。「若年者ものづくり競技大会」への出場・入賞、技能検定2級の合格を目指します。



■ 学科・コース紹介

▶ 高度技術科(入学定員20名)

自動車・航空コース(入学定員10名)

自動車・航空機の構造や仕組み、自動加工技術など、運輸機械の製造に関わる高度な技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

電気・制御コース(入学定員10名)

発電や送電を行う電力システムや電気機器の制御技術など、電気エネルギー産業に関わる高度な技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

▶ 先端技術科(入学定員20名)

情報・ITコース(入学定員10名)

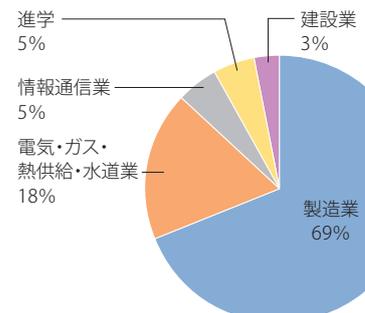
AIやIoTに代表される情報処理技術など、情報通信に関わる先端技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

電子・ロボットコース(入学定員10名)

半導体や電子回路基板、信号処理、ロボット技術など、生産現場のデジタル化に関わる先端技術を身につけた産業人材の育成を目指します。

■ 修了後の進路

令和6年度修了生(39名)



教育目的

教育基本法・学校教育法の精神に則り、知・徳・体の調和する人格の完成を目指す。
創設以来の伝統に基づき、穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する。

教育方針

「教育目的」を実現するために、更に次の3つの「教育方針」を定める。
1 礼節を重んじる 2 主体的な行動力を養う 3 多様な経験を積む

■ 本校の特色

平成18年度～(4期目, 通算20年目)

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校

令和2年度～令和5年度

WWL(ワールドワイドラーニング)連携校

令和3年度～

SGH(スーパーグローバルハイスクール)ネットワーク参加校

平成26年度～平成30年度

SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校

文部科学省から様々な指定を受け、高大協創による国際的科学リーダーの育成やグローバルな社会課題を発見・解決できる人材の育成に取り組んでいます。



■ 本校のあゆみ

1926	大正 15年	田中壽一氏により名古屋高等理工科講習所として開設
1928	昭和 3年	名古屋高等理工科学校に名称変更
1942	17年	名古屋市中村区新富町に校舎新築移転
1948	23年	学校教育法により名古屋文理高等学校として開校
1951	26年	名城大学附属高等学校と改称(設置学科:普通・商業・電気・機械)
1965	40年	1963年より始めた校舎の鉄筋工事完成
1978	53年	全館空調設備等総合整備完了 全天候型校庭舗装完工
1987	62年	開学60周年記念第二体育館(屋内温水プール)完成
1997	平成 9年	新校舎の完成
1999	11年	総合学科開設(設置学科:普通科・総合学科) 普通科特別進学クラスを共学化
2002	14年	ISO14001の認証を取得
2003	15年	普通科を共学化、高大一貫7カ年教育の普通科国際クラス設置
2004	16年	総合学科を共学化、全科男女共学となる 文部科学省主催 サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP) 「トライボロジーとその現代社会における役割」採択
2005	17年	文部科学省主催 サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP) 「人体の不思議と医療技術の進歩」バイオテクノロジーを利用した作物育種」採択
2006	18年	文部科学省所管 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)採択校となる
2010	22年	第一体育館兼武道場完成
2011	23年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)2期目の採択校となる
2012	24年	文部科学省コアSSH「地域の中核的拠点形成」に採択
2014	26年	文部科学省所管 スーパーグローバルハイスクール(SGH)採択校となる
2016	28年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)3期目の採択校となる
2021	令和 3年	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)4期目の採択校となる

■ 生徒数(2025年4月8日現在)

(人)

	普通科				総合学科		計
	特進クラス	スーパーサイエンスクラス	進学クラス	国際クラス	文系	理系	
1年	143	34	327	33	121		658(311)
2年	189	29	336	28	95	30	707(365)
3年	160	31	313	21	79	30	634(301)

※()内の数字は学年毎の女子生徒数

▶ 特進クラス [国立大学進学を実現]

国立大学・難関私立大学への進学を目指すクラスです。机上の学びにとどまらず、SSH・SGHのノウハウを取り入れ、自身で課題を見つけて研究する科目「数理探究基礎」「理数探究」「総合的な探究の時間」にも力を入れています。さらに、研究成果を発信するために各種研究会や海外研修に参加する機会があります。学習に力を注ぐだけでなく、部活動への参加も推奨しています。

▶ スーパーサイエンスクラス [国際的な科学リーダーを育成]

物理・化学・生物に加え、名城独自のスーパーサイエンス教科を学び、理工学系または生化学系への関心を高めます。「SSラボII」などの探究活動を通して、探究力や問題解決能力を養います。また、海外研修やタイへの修学旅行により、国際感覚を身につけます。3年間の活動を通して興味や関心を高め、学び続けることにより、国立大学および名城大学への進学を目指します。

▶ 進学クラス [名城大学進学の中核]

名城大学進学の中核を担っており、附属高校の生徒を対象にした特別推薦制度により、毎年200名程度が進学しています。また、国立大学や難関私立大学への合格者も増加しています。探究活動を実施することにより、学問に対する知的好奇心を深め、主体的な考動力を培います。

▶ 国際クラス [世界で活躍できる人材を育成]

SGHおよびWWLの中心クラスとして、「課題探究I・II」や海外研修などの探究活動、英語学習を通して、グローバルリーダーとして活躍できる語学力と幅広い教養、実践力を身につけます。校内での学びだけでなく、地域や企業、海外の学校や機関等、社会と連携した探究と実践を行い、研究発表大会等で成果を発表しています。難関私立大学文系学部や国際系学部への進学を目指します。

▶ 総合学科 [全国屈指の大学進学率]

大学進学に対応しており、進学率が高く、毎年卒業生の約9割が四年制大学に進学しています。社会とつながるキャリア教育・体験型の実技・実習を特徴とし、1年次の「産業社会と人間」の授業では、企業人・大学教員による講話、大学や企業の見学、調べまめ学習のプレゼンテーションなどを行います。2年次には4つの系列(社会探究・地域交流・ビジネス・数理)に分かれて、それぞれの系列の目標に沿ったカリキュラムを実施します。3年次になると各系列で学んだことを生かし、「総合的な探究の時間」で4系列が混ざり合い、与えられた課題を解決する探究学習を行います。これらの主体的に活動する授業を通して、進路目標・キャリア目標の達成を目指します。

■ 名城大学校友会

横の連携で後輩をバックアップ 卒業後もかたい絆で結ばれる38支部のヒューマンネット

名城大学校友会は、「会員相互の親睦と協力を基礎として、学術研究の奨励とその普及を図り、もって名城大学の発展に寄与すること」を目的として設立され、卒業生を会員、在学学生を準会員、教職員を特別会員として組織されています。2025年3月末日現在、会員数は21万8千人を超え、日本国内に36支部、海外に台湾、タイの2支部、愛知県内には6つの市町村に卒業生の会を設置し、相互の連携と情報の交換に成果をあげています。さらに会員相互の連携を高めるため、ウェブサイトを開いてきめ細かい情報の発信に努めています。

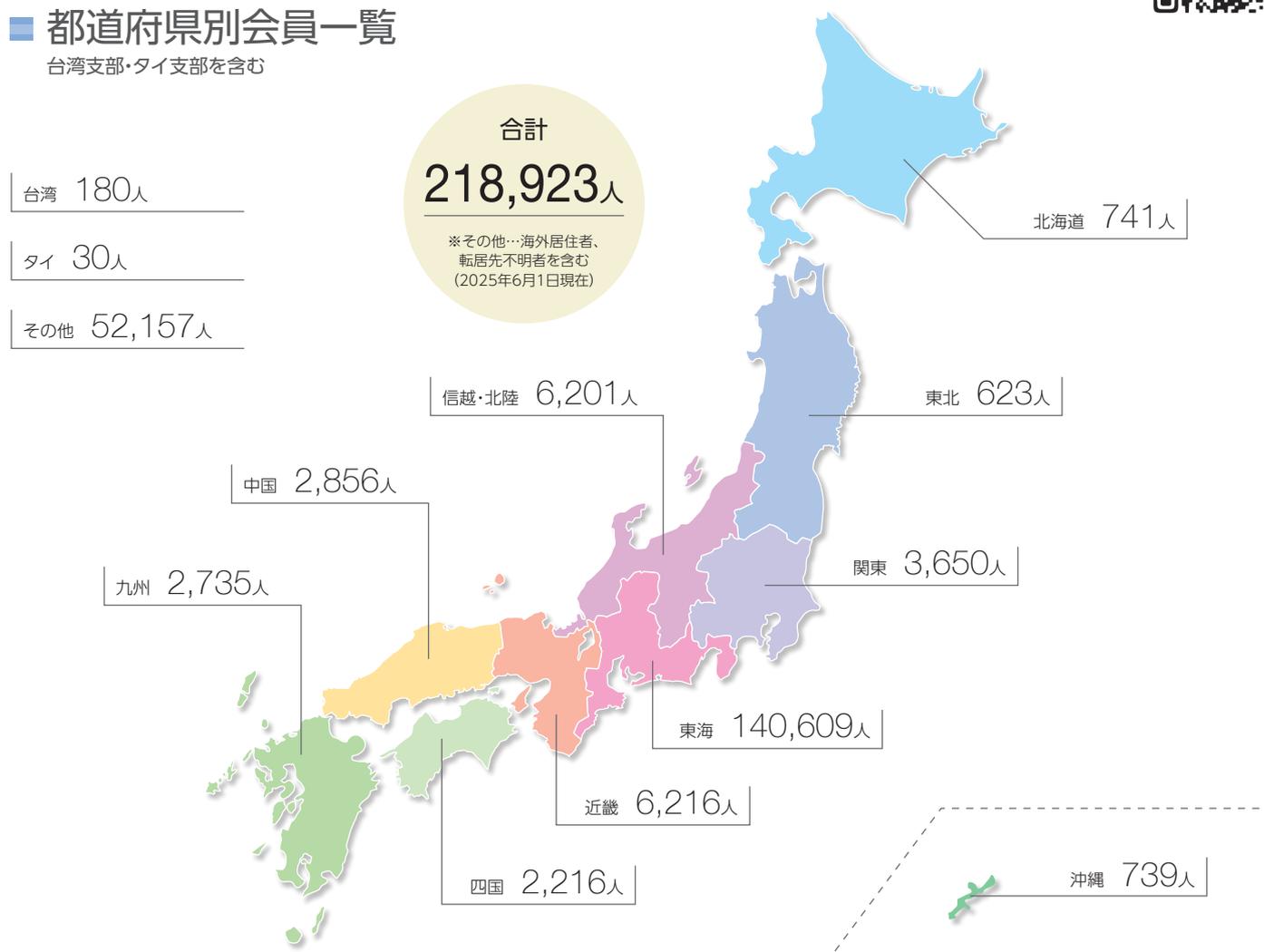
また、全国各地で活躍する会員への支援、各同窓会事業への援助をはじめ、校友会報の発行や、特に準会員に対する援助として校友会独自の奨学生制度、学術・文化・スポーツ活動への援助や入学記念品・卒業記念品の配布等、幅広い活動を展開しており、地域とのつながりについても人的ネットワークの強みを発揮し、産官学各方面で活躍している数多くの卒業生会員が親身になって協力しています。

校友会ホームページでは、校友会の活動報告や卒業生の住所変更等を受けつけております。



■ 都道府県別会員一覧

台湾支部・タイ支部を含む



■ 都道府県別会員数 (台湾・タイ支部を含む)

(人)

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県
741	97	72	145	104	98	107	189	153	178	485	493	1,128	810	258	1,464	1,182
福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県
1,430	214	1,867	23,286	5,242	98,777	13,304	1,324	760	1,408	1,687	428	609	298	216	815	1,048
山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	台湾	タイ	不明その他	合計
479	684	588	567	377	755	238	386	280	347	280	449	739	180	30	52,157	218,923

交通案内

▶ 天白キャンパス

法学部 経営学部 経済学部
 情報工学部 理工学部 農学部
 法学研究科 経営学研究科 経済学研究科
 理工学研究科 農学研究科 総合学術研究科

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
 TEL 052-832-1151 (代)

▶ 八事キャンパス

薬学部 薬学研究科

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150番地
 TEL 052-832-1151 (代)

▶ ナゴヤドーム前キャンパス

外国語学部 人間学部 都市情報学部
 人間学研究科 都市情報学研究科

〒461-8534 名古屋市東区矢田南四丁目102番9
 TEL 052-832-1151 (代)

▶ 春日井(鷹来)キャンパス

農学部附属農場

〒486-0804 春日井市鷹来町字菱ヶ池4311番2
 TEL 0568-81-2169

▶ 日進キャンパス

日進総合グラウンド

〒470-0102 日進市藤島町長塚75番地
 TEL 0561-73-0810

▶ 瀬戸校地

演習林

瀬戸市三沢町一丁目272番地

▶ 名城大学附属高等学校

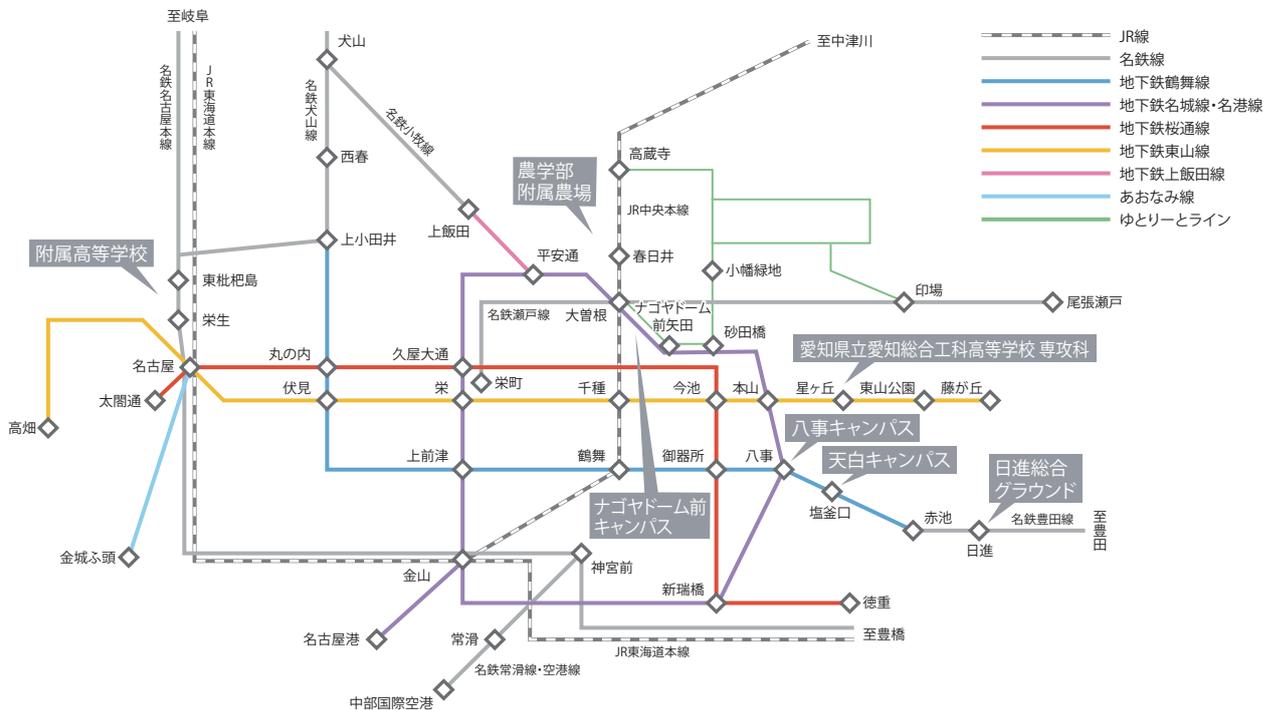
普通科 総合学科

〒453-0031 名古屋市中村区新富町一丁目3番16
 TEL 052-481-7436 (代)

▶ 愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

〒464-0808 名古屋市千種区星が丘山手107
 TEL 052-788-7200

交通案内



天白キャンパス

▶ 地下鉄鶴舞線「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約4分

八事キャンパス

▶ 地下鉄鶴舞線・名城線「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

ナゴヤドーム前キャンパス

- ▶ JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅下車、徒歩約10分
- ▶ 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、2番出口徒歩約3分
- ▶ ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車、徒歩約5分

春日井(鷹来)キャンパス(農学部附属農場)

▶ JR中央本線「春日井」駅下車、名鉄バス「小牧」行きで「総合体育館前」下車、北方向に徒歩約3分

日進キャンパス(日進総合グラウンド)

▶ 地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車、名鉄バス「五色園」行きで「五色園」下車、徒歩約10分

名城大学附属高等学校

- ▶ 名鉄名古屋本線「東枇杷島」駅下車、徒歩約5分
- ▶ 同「栄生」駅下車、徒歩約8分

愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科

▶ 地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車、2番出口徒歩約4分



名城大学
Meijo University

<https://www.meijo-u.ac.jp/>

発行：学校法人名城大学 渉外部 2025.07

